

14.2  
75



始



9-96



大阪港勢一斑

大阪市役所港灣課編纂

大 明  
正 治  
元 四  
年 十  
五 年

寄贈本



## 緒言

港灣の現勢を審かにせずして商港の經營を説くは、恰も金融を解せずして銀行業を營むが如く、其言議の空疎にして企劃の實際に適せざるや明けし。

世の大阪港を談する者、動もすれば妄りに一端を捉へて全躰の効果を云爲し、或は偶發の事象を以て根本計畫の誤謬に歸し、却つて之が實際の利用状態を閉却するもの多きは、洵に浩嘆するに堪へたり蓋し港灣の築造經營は之に依りて直接の收利収益を期すべき性質のものにあらず、要は内外貿易の發達、商工業の隆盛を圖り、直接間接、國家民人に裨益する所あらしめんが爲なり、殊に國家及公共團體の之に當る場合に於て然りとす。

試に思へ、最近一個年間の大阪入港船舶五百九十餘萬噸、出入貨物八百十餘萬噸の孰れか、築港の恩恵に浴せざるべき、素より其大半は河川に遡航し、直接築港に出入せるものは一部分に過ぎずと雖も、河川の利用をして今日あるに至らしめたるものは、一に築港あるの賜にあらずや、加之、直接築港を利用するものゝみを以てするも、尙出入船舶三百萬噸、貨物百五十萬噸の多きに達し、而して之等の貨物は從來悉く神戸を經由せるものに屬するを以て、其間の接續船廻漕賃金及諸掛費を、貨物一噸に付五十錢と見積るも、尙之に依りて一個年七十五萬圓を節約し得たる計算なり、其他輸送期日の短縮、入港船舶の物資購入、勞銀の放下等、直接間接大阪市民に寄與せる所多大なるは、蓋し意料の外にあるべきなり、若し假りに築港をして今日に無からしめば、或は商工業都市としての大阪の覇權は、既に業に失墜したるものあるやも未だ知るべからず。

惟ふに築港の利用は今尙初期にあり、其發達狀態亦頗る遲緩なるの觀なきにあらざるも、運輸経路の如きは高慣習其他附隨機關の關係上、爾かく容易に移動するものにあらず、之を歐米諸港の事例に徴するも、多年の歲月を経て始めて今日の域に達したるものにして、寧ろ大阪築港の進歩は比較的速かなりと謂はざるべからず、即ち既往八個年間に於て、入港船舶は五十餘萬噸よりして、百五十萬噸に激増し、其一個年平均増進率は一割五分に相當せり、如斯顯著なる發達は、本邦諸港中未だ嘗つて見ざる所にして、之を海外諸港に索るも多く其比を得難しとす、若し過去の趨勢を以て將來を推すに足るせば、大阪築港は今後十年ならずして、其狹隘を感ずるの時期到來すべきを信じて疑はざるなり。然れども、船舶貨物は港灣の築造のみによりて、直に腐至するものにあらず、商港としての施設は、現時の大阪港にありては、尙全然之を缺如せる状態なるを以て、今後市財政の許す範圍に於て、海陸連絡其他諸般の設備を完成し、利用の趨勢をして、益助長せしむるの途を講せざるべからず。

本調査は是等諸問題を解決するの資料たるべき基本數字を擧げ、以て大阪港の地位を明かにし、前途の企劃に資せんが爲めなるも、亦一面之に依りて、海上運送及商工業上に幾分の裨益する所ありとせば、蓋し望外の幸たらずんばあらず。

尙鐵道貨物は本調査の主眼とする所にあらざるも、海陸貨物の集散は相關聯して離るべからざるものなるを以て、併せて之を掲げたり。

本書記載せる所は、阪神間の各海運業者、各運送貨物取扱業者、阪神兩稅關、大阪府入津料取立所、鐵道院、其他各關係官公衙及當業者等に就き、可及的精密の調査を遂げたるものなるを以て、比較的完全に近きものなるを信ずと雖も、調査多岐に亘り且つ着手日尙淺きを以て、或は萬一の遺漏なきを

保せず、幸に識者の叱正を

かりに臨み、本調査に對し各種の材料を提供し、諸般の助力を與へられたる各位に對し、深厚な

と表す。

大正二年十月

編 者 識

凡 例

- 一 本書は大阪に於ける明治四十五年一月より、大正元年十二月に至る、一箇年間の船舶及鐵道出入貨物を經とし、港灣其他商工業に關する各種材料を緯とし、蒐集編纂したるものにして、大阪港現勢の一斑を示すものなり。
- 一 海運出入船舶及貨物は、大阪及神戸兩稅關、大阪府入津料取立所、水上警察署、大阪商船會社、日本郵船會社、尼崎濱船部、深川濱船會社、其他阪神各關係廻漕仲次業者二百有餘店の原簿運送狀及申込書等に就き精細なる調査を遂げたり。
- 一 鐵道出入貨物は、鐵道院神戸管理局及大阪市内各驛の運送通知書に依り調査せり。
- 一 市内分布系統及仲繼貨物調査は、前記各海事關係業者、鐵道運送店、仲次貿易業者及各荷主等に就き精査せり。
- 一 其他各種の調査は、或は關係業者に就き、或は吏員を派遣して實地を調査する等、機宜の方法を執れり。
- 一 本調査に當り最も困難を感じたるは、阪神間運輸關係及帆船出入貨物なりしが幸にして阪神兩稅關、大阪府入津料取立所及關係業者等の多大なる助力と甚深なる厚意とにより、畧ぼ正鵠に近きものを得たり。
- 一 調査材料中には品名を明記せず、甚しきは包装のみ記載せるが如きもの尠なからず、此等は可及的内容を明かにするに努めたるも絶對に不明のものは已むなく雜品中に收めたり。
- 一 才數斤量の記載なきものは、或は實地に就き或は營業者の言に聞き各品種の荷造よりして之を算出せり。
- 一 本調査は運輸状態を明かにするを目的とせるを以て、總て噸量を本位とせり、各品種自牒の數量及價格は區々に亘り到底正確に近きものを得るに由なきを以て、之を省察せり。
- 一 噸量の算出は、船舶は登簿噸を揚げ、海運貨物は主として容積四十才を一噸とし重量品のみ千五百斤噸を用ひたり、鐵道貨物は主として重量により、千六百九十四斤を一噸とし、輕量品のみ百才を以て一噸とせり、而して其端數は四捨五入し單位は凡て噸にて止めたり。
- 一 海陸兩運貨物を併記せる場合は鐵道貨物を海運貨物の噸量と同一の標準に換算せり。

一本書の所謂外國貿易貨物は、大阪税關に於て手數せられたるもの外、神戸税關を經由せる事實上の大阪外國貿易貨物を包含せしめたるを以て、税關統計と其内容を異にせり。

一單に出貨、入貨又は發送、到着と記載せる場合は悉く大阪を本位とせるものにして、例之「大阪より出賃」「大阪に到着」とあるが如し。

一海運貨物に就ては各品別に調査せるも、千數百餘種に亘り一々之を記載するの餘地なきを以て、之を類別して百餘種に總括せり。

一其他各種調査も可及的細密の數字を得るに力めたるも、本書には煩を避け概要を摘記するに止めたり。

一本書は主として、大正元年中の事實を記載せるも、既に明かなるものは、大正二年に屬するものを採り、以て最新の事項を掲ぐるに努めたり。

明治四十五年 大正元年 大阪港勢一斑目次

第一章 大阪港の現勢	一	日本帆船同盟會	三
第一節 總說	一	大阪商船會社	三
第二節 築港	二	日本郵船會社大阪支店	三
第一款 概	二	尼崎汽船部	四
第二款 設備及利用	三	其他	四
一 棧橋	三	第三款 航路	四
二 繫船岸	三	第一款 管海官衙其他	四
三 上屋及倉庫	三	第二款 船隻及史舟業	六
四 起重機	三	第三款 造船所及船渠	七
五 繫船浮標	四	第四款 倉庫業	八
六 其他	四	第五款 主要倉庫及上屋	九
七 貿易機關	四	第六款 倉庫出入貨物	九
八 市有埋立地の整理	五	第七款 海上保險	九
第三節 河川	五	第八款 回漕店及ステベドリア	九
第一款 河川の航運	五	一 回漕店	九
第二款 河川の利用	五	二 ステベドリア	九
第三款 河川水面の利用	七	第十款 仲仕人足	九
第四節 鐵道及電車	七	一 築港頭地及櫻島	九
第一款 鐵道	八	二 富島濱	九
第二款 電車	八	第十一款 炭水供給附船具商	九
第五節 航運業及航運關係業	九	一 石炭商	九
第一款 航運業の沿革	九	二 船具商	九
第二款 船主	一〇	第六節 商工業	九
一 關西汽船同盟	一〇	第一款 商業	九
二 日本船主同盟會西部	一〇	一 取引所	九

二 市場..... 三〇

第二款 工業..... 三〇

第三款 金融..... 三三

第一章 船舶

第一節 出入船舶増加の趨勢..... 三五

第一款 築港開放以前の概況..... 三五

第二款 築港開放後の趨勢..... 三七

第三款 築港出入船舶..... 四〇

第二節 大正元年出入船舶..... 四二

第一款 入港船舶と碇泊場所..... 四二

一 汽船..... 四二

二 洋型帆船..... 四三

三 其他..... 四三

第二款 大正元年出入船舶航路關係..... 四四

一 内外航路の消長..... 四四

二 汽船の航路..... 四四

三 帆船の航路..... 四五

四 曳船用小蒸氣船..... 四五

第三章 海運貨物

第一節 集散貨物の種類..... 五五

第一款 品類別..... 五五

第二款 品種別..... 五七

第三款 月別集散關係..... 五九

第二節 内外貿易關係..... 七〇

第一款 大阪港の對外地位..... 七〇

重要諸港の對外貿易..... 七一

重要諸港貿易の増進率..... 七三

重要諸港と對各國貿易..... 七四

亞細亞貿易と阪神及橫濱港..... 七五

對支那貿易と阪神..... 七六

第二款 集散貨物の内外貿易別..... 八六

第三款 内外貿易貨物月別噸量..... 八九

第四款 内外貿易貨物の品類別..... 九一

第五款 内外貿易貨物の品種別..... 九二

第六款 重要輸出入品の消長..... 九五

第三節 輸送系路..... 九七

第一款 汽船貨物と航路關係..... 九七

一 内地航路..... 九七

二 朝鮮航路..... 九八

三 外國航路..... 九九

第二款 帆船貨物と國別沿岸關係..... 一〇〇

第三款 阪神間帆船貨物..... 一〇一

第四節 阪神運輸關係..... 一〇三

第一款 輸送狀態..... 一〇三

第二款 内外貿易別..... 一〇五

第三款 神戸經由大阪港外國貿易貨物の消長..... 一〇七

第四款 阪神間港外國貿易貨物..... 一〇八

第五款 阪神間接續海陸運貨物の種類..... 一〇九

第六款 接續貨物の仕向及仕出地..... 一一五

第七款 東洋貿易と阪神兩港..... 一二七

第八款 大阪集散阪神兩港積卸貨物種類..... 一二八

第五節 船種と積載貨物..... 一二九

第一款 各船種の輸送量..... 一二九

第二款 各種積載貨物の貿易別..... 一三〇

第三款 船種と貨物の種類..... 一三一

第六節 荷役場所と貨物..... 一三五

第一款 荷役場所別集散量..... 一三五

第二款 荷役場所と貿易別..... 一三七

第三款 荷役場所と各船種積載貨物..... 一三六

第四款 荷役場所と貨物の種類..... 一三九

第四章 海運貨物對各港集散狀況

第一節 大阪對各港集散貨物總量..... 一四九

第一款 内地各港との集散..... 一四九

第二款 朝鮮各港との集散..... 一五六

第三款 外國各港との集散..... 一七〇

第二節 汽船貨物の國別及港別關係..... 一七〇

第一款 汽船貨物内地國別噸量..... 一七〇

第二款 汽船貨物港別噸量..... 一八〇

一 汽船港別噸量..... 一八〇

二 帆船主要港別噸量..... 一八三

第三節 對内地各港集散貨物の種類..... 一八四

第一款 大阪附近沿岸各港..... 一八四

一 攝津各港..... 一八四

二 和泉各港..... 一八九

三 紀伊各港..... 一九〇

四 淡路各港..... 一九〇

第二款 四國沿岸各港..... 一九四

一 阿波各港..... 一九四

二 讃岐各港..... 一九四

三 伊豫各港..... 一九四

四 土佐各港..... 一九四

第三款 中國沿岸各港..... 一九六

一 播磨各港..... 一九六

二 備前各港..... 一九六

三 備中各港..... 一九六

四 備後各港..... 一九六

五 安藝各港..... 一九六

六 周防各港..... 一九六

七 長門各港..... 一九六

第四款 九州東廻各港..... 一九九

一 豐後各港..... 一九九

二 日向各港..... 一九九

三 大隅沿岸..... 一九九

四 薩摩沿岸..... 一九九

第五款 九州西廻各港..... 二〇三

一 豐前各港..... 二〇三

二 筑前各港..... 二〇三

三 筑後各港..... 二〇三

四 肥前各港..... 二〇三

五 肥後各港..... 二〇三

第六款 琉球及臺灣..... 二〇六

一 琉球各港..... 二〇六

二 臺灣各港..... 二〇六

第七款 日本海沿岸各港..... 二〇八

一 山陰各港..... 二〇八

二 北陸各港..... 二〇八

三 阿羽各港..... 二〇八

第八款 東海及三陸各港..... 二一四

- 一 東海各港..... 三〇〇
- 二 三陸各港..... 三〇〇
- 第九款 北海道及樺太沿岸..... 三〇三
- 一 北海道各港..... 三〇三
- 二 樺太各港..... 三〇八
- 第四節 對朝鮮各港集散貨物の種類..... 三〇九
- 第一款 南朝鮮各港..... 三〇九
- 第二款 北朝鮮各港..... 三〇九
- 第五節 對外國各港集散貨物の種類..... 三一九
- 第一款 關東洲..... 三一九
- 第二款 支那各港..... 三二二
- 一 北支那各港..... 三二二
- 二 長江流域各港..... 三二二
- 三 南支那各港..... 三二二
- 第三款 露領亞細亞沿岸..... 三二八
- 第四款 香港..... 三二八
- 第五款 後印度沿岸..... 三三〇
- 一 交趾支那..... 三三〇
- 二 暹羅..... 三三〇
- 三 海峽殖民地..... 三三二
- 第六款 英領印度..... 三三三
- 第七款 南洋諸島..... 三三三
- 第八款 歐洲各國..... 三三三
- 第九款 北亞米利加..... 三三六
- 第十款 其他諸國..... 三三六
- 一 亞弗利加..... 三三六
- 二 其他..... 三三六

### 第五章 鐵道貨物

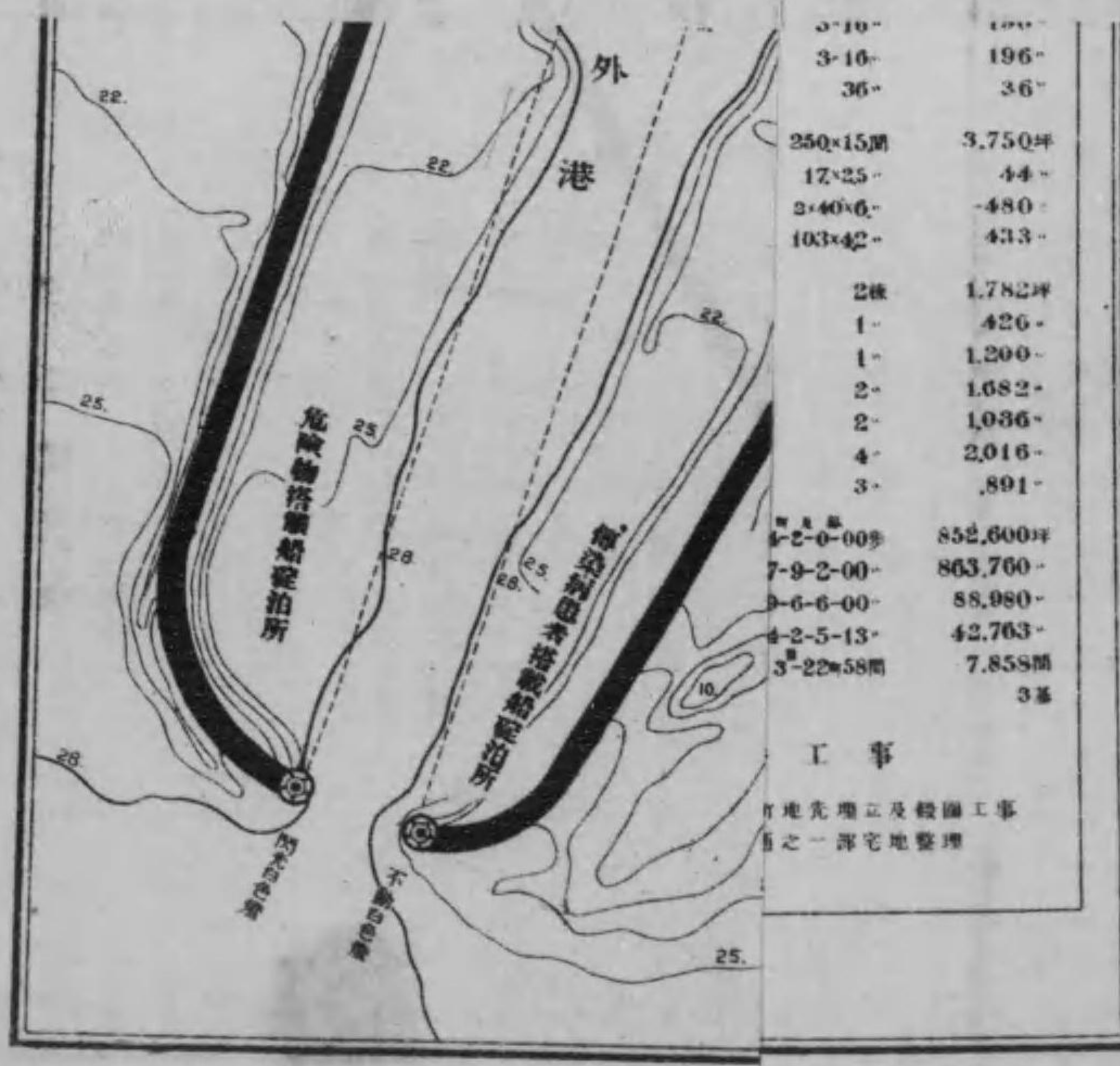
- 第一節 發着貨物の噸量..... 三六三
- 第一款 發着貨物の消長..... 三六三
- 第二款 市内各驛集散噸量..... 三六四
- 第三款 月別集散關係..... 三六五
- 第二節 貨物の種類..... 三六八
- 第一款 出入主要貨物..... 三六八
- 第二款 主要貨物と季節關係..... 三七三
- 第三節 發着貨物の地方關係..... 三七六
- 第一款 輸送經路..... 三七六
- 第二款 大阪對各驛發着噸量..... 三七九
- 第四節 對各國集散貨物の種類..... 三九七
- 第一款 畿內..... 三九七
- 一 山城國..... 三九七
- 二 大和國..... 三九七
- 三 河內國..... 三九七
- 四 和泉國..... 三九七
- 五 攝津國..... 三九七
- 第二款 東海道各國..... 四〇七
- 一 伊賀國..... 四〇七
- 二 伊勢國..... 四〇七
- 三 尾張國..... 四〇七
- 四 三河國..... 四〇七
- 五 遠江國..... 四〇七
- 六 駿河國..... 四〇七
- 七 武藏國..... 四〇七
- 八 其他各國..... 四〇七

- 第三款 東山道各國..... 四二〇
- 一 近江國..... 四二〇
- 二 美濃國..... 四二〇
- 三 信濃國..... 四二〇
- 四 其他各國..... 四二〇
- 第四款 北陸道各國..... 四二六
- 一 若狹國..... 四二六
- 二 越前國..... 四二六
- 三 加賀國..... 四二六
- 四 能登國..... 四二六
- 五 越中國..... 四二六
- 六 越後國..... 四二六
- 第五款 山陰道各國..... 四三三
- 一 丹波國..... 四三三
- 二 丹後國..... 四三三
- 三 其他各國..... 四三三
- 第六款 山陽道各國..... 四三八
- 一 播磨國..... 四三八
- 二 美作國..... 四三八
- 三 備前國..... 四三八
- 四 備中國..... 四三八
- 五 備後國..... 四三八
- 六 安藝國..... 四三八
- 七 周防國..... 四三八
- 八 長門國..... 四三八
- 第七款 南海道各國..... 四四六
- 第八款 西海道各國..... 四四八
- 第九款 北海道各國..... 四五二
- 第十款 朝鮮及滿洲地方..... 四五二

### 第六章 海運貨物集散關係

- 第一節 海陸出入貨物總噸量..... 四五三
- 第一款 總量比較..... 四五三
- 第二款 月別集散比較..... 四五四
- 第二節 海陸集散貨物の國別比較..... 四五五
- 第三節 海陸運主要貨物..... 四六四
- 第一款 海陸兩運主要貨物..... 四六四
- 一 米..... 四六四
- 二 豆..... 四六四
- 三 雜穀..... 四六四
- 四 砂糖..... 四六四
- 五 鹽..... 四六四
- 六 和酒..... 四六四
- 七 洋酒..... 四六四
- 八 煙草..... 四六四
- 九 鹽造品..... 四六四
- 一〇 果實..... 四六四
- 一一 鮮魚..... 四六四
- 一二 乾鹽魚..... 四六四
- 一三 石炭..... 四六四
- 一四 礦石類..... 四六四
- 一五 石材..... 四六四
- 一六 土及砂..... 四六四
- 一七 木材..... 四六四
- 一八 薪炭..... 四六四
- 一九 棉花..... 四六四
- 二〇 鐵及金屬材..... 四六四
- 二一 セメント..... 四六四
- 二二 石灰..... 四六四





**第七章 海運貨物市内分布状態**

第一節 分布状態……………五三七

第一款 各種積載貨物の市内分布……………五三七

第二款 市内分布貨物の貿易別……………五三九

第三款 市内各町別分布噸量……………五五一

第四款 市内分布貨物の種類……………五五二

第二節 分布徑路……………五五八

第一款 荷受及荷捌場……………五五三

第二款 市内分布貨物の河川利用状態……………五五三

**第八章 中繼貨物**

第一節 仲繼港としての大阪港……………五五五

第二節 海陸連絡の徑路……………五五五

第一款 仲繼貨物の船舶荷役場所……………五五五

第二款 市内各驛經由仲繼貨物……………五五五

第三款 仲繼貨物の集散地域……………五五五

第四節 仲繼貨物の種類……………五五五

**第九章 築港集散貨物累年比較**

第一節 出入貨物増加の趨勢……………五五三

第二節 船車連絡の状況……………五五三

第一款 櫻島連絡の増進……………五五三

第二款 貨物の種類及運送徑路……………五五三

第三款 倉庫及上屋出入貨物……………五五三

第一款 埠頭地所在倉庫及上屋……………五五三

第二款 櫻島所在倉庫及上屋……………五五三

**附錄 大阪港諸規則**

一 築港出入船舶注意事項……………五五三

二 起重機使用規程……………五五三

三 手荷物電車關係規程……………五五三

四 市設保税地域使用規程……………五五三

五 築港埋立地貸與規程……………五五三

六 水路取締規程……………五五三

七 漁船航運營業取締規程……………五五三

八 入津料徵收規則……………五五三

煉瓦……………五三三

人造肥料……………五三三

魚肥豆粕其他肥料……………五三七

經木及麥稈真田……………五三三

燐寸……………五三三

綿糸……………五三三

石油及礦油……………五三三

敷物類……………五三三

陶磁器……………五三三

綿布……………五三三

和洋紙……………五三三

其他海運主要貨物……………五三三

鐵及金屬製品……………五三三

吳服及洋反物類……………五三三

綿糸……………五三三

莫大小及タオル……………五三三

藥品……………五三三

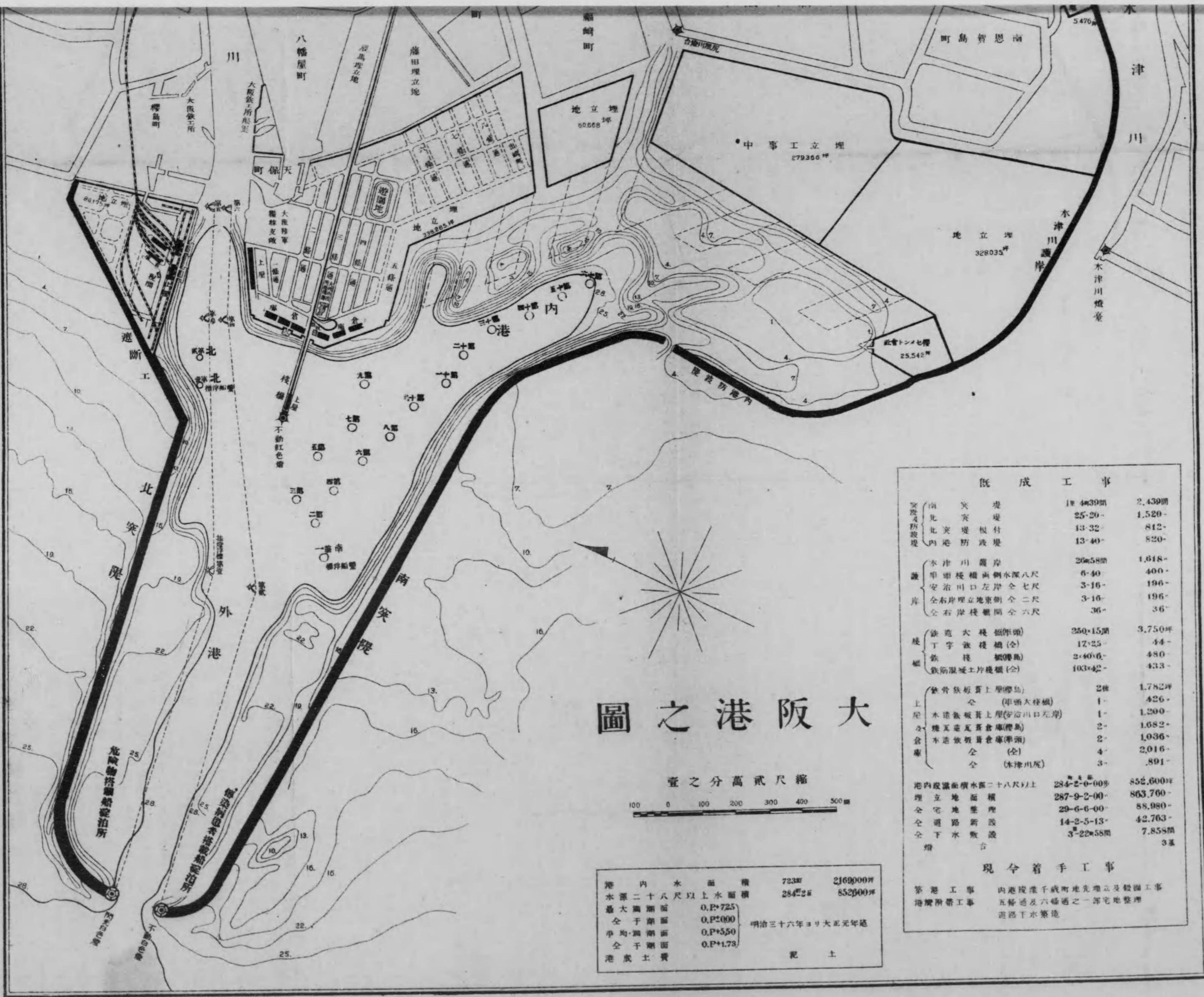
硝子及硝子製……………五三三

海草……………五三三

荒物……………五三三

雜貨類……………五三三





大阪港之圖

縮尺二萬分之一  
 0 100 200 300 400 500

港内水面積	723町	2160000坪
水深二十八尺以上水面積	284町2畝	852000坪
最大満潮面積	0.P+725	
全干満潮面積	0.P+000	
平均満潮面積	0.P+550	
全干満潮面積	0.P+173	
港底土費		記上

明治三十六年ヨリ大正元年迄

既成工事		現今着手工事	
南突堤	184m39間	2,439間	
北突堤	25-20-	1,520-	
北突堤根付	13-32-	812-	
内港防波堤	13-40-	820-	
水津川護岸	20m58間	1,618-	
甲斐橋欄干水深八尺	6-40-	400-	
安治川口左岸全七尺	3-16-	196-	
全右岸埋立地東側全二尺	3-16-	196-	
全右岸埋立地西側全六尺	36-	36-	
築港大棧橋(岸頭)	250+15間	3,750坪	
丁字棧橋(全)	17+25-	44-	
鉄棧橋(岸頭)	2+40+0-	480-	
鉄筋混成土片棧橋(全)	103+42-	433-	
鉄骨鉄板葺上層(岸頭)	2棟	1,782坪	
全(岸頭大棧橋)	1-	426-	
木造鉄板葺上層(安治川口左岸)	1-	1,200-	
機室及葺倉庫(岸頭)	2-	1,682-	
木造鉄板葺倉庫(岸頭)	2-	1,936-	
全(全)	4-	2,016-	
全(津川)	3-	801-	
港内埋立水面積(水深二十八尺以上)	284-2-0-00坪	852,000坪	
埋立地面積	287-9-2-00-	863,700-	
全宅地整理	29-6-6-00-	88,980-	
全道路新設	14-2-5-13-	42,763-	
全下水敷設	3-22+58間	7,858間	
増		3基	
築港工事	内港防波堤千成町地先埋立及棧橋工事		
港内附帯工事	五條通及六條通之一部宅地整理 道路下水築造		

第七章 海運貨物市内分布状態

第一節 分布状態

第一款 各船種積載貨物の市内分布 ..... 五七

第二款 市内分布貨物の貿易別 ..... 五九

第三款 市内各町別分布噸量 ..... 五一

第四款 市内分布貨物の種類 ..... 五五

第二節 分布徑路 ..... 五八

附録 大阪港注意事項

一 築港出入船舶注意事項 ..... 一

二 起重機使用規程 ..... 三

三 手荷物電車關係規程 ..... 三

四 市設保税地域使用規程 ..... 三

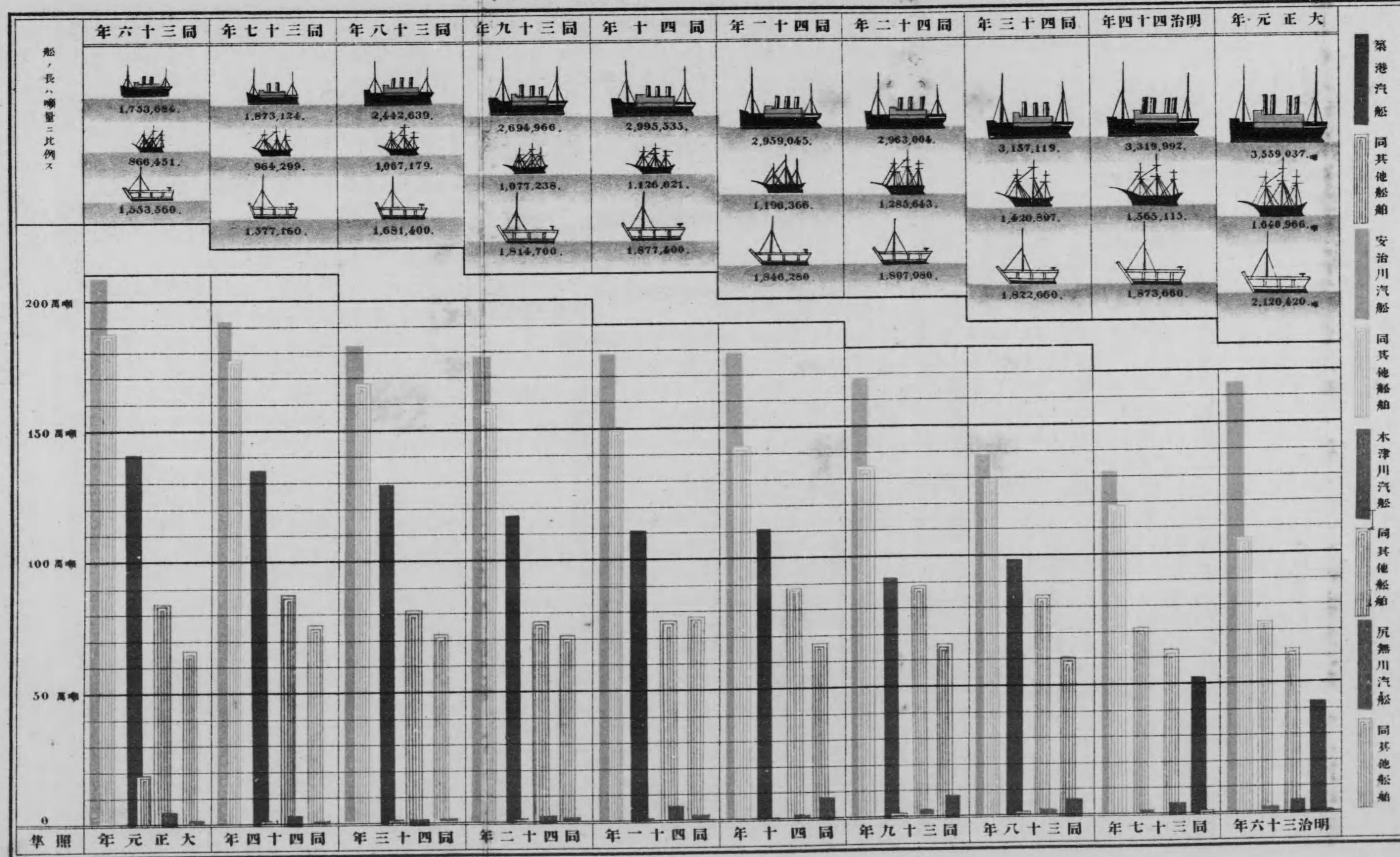
五 築港埋立地貸與規程 ..... 四

六 水路取縮規程 ..... 四

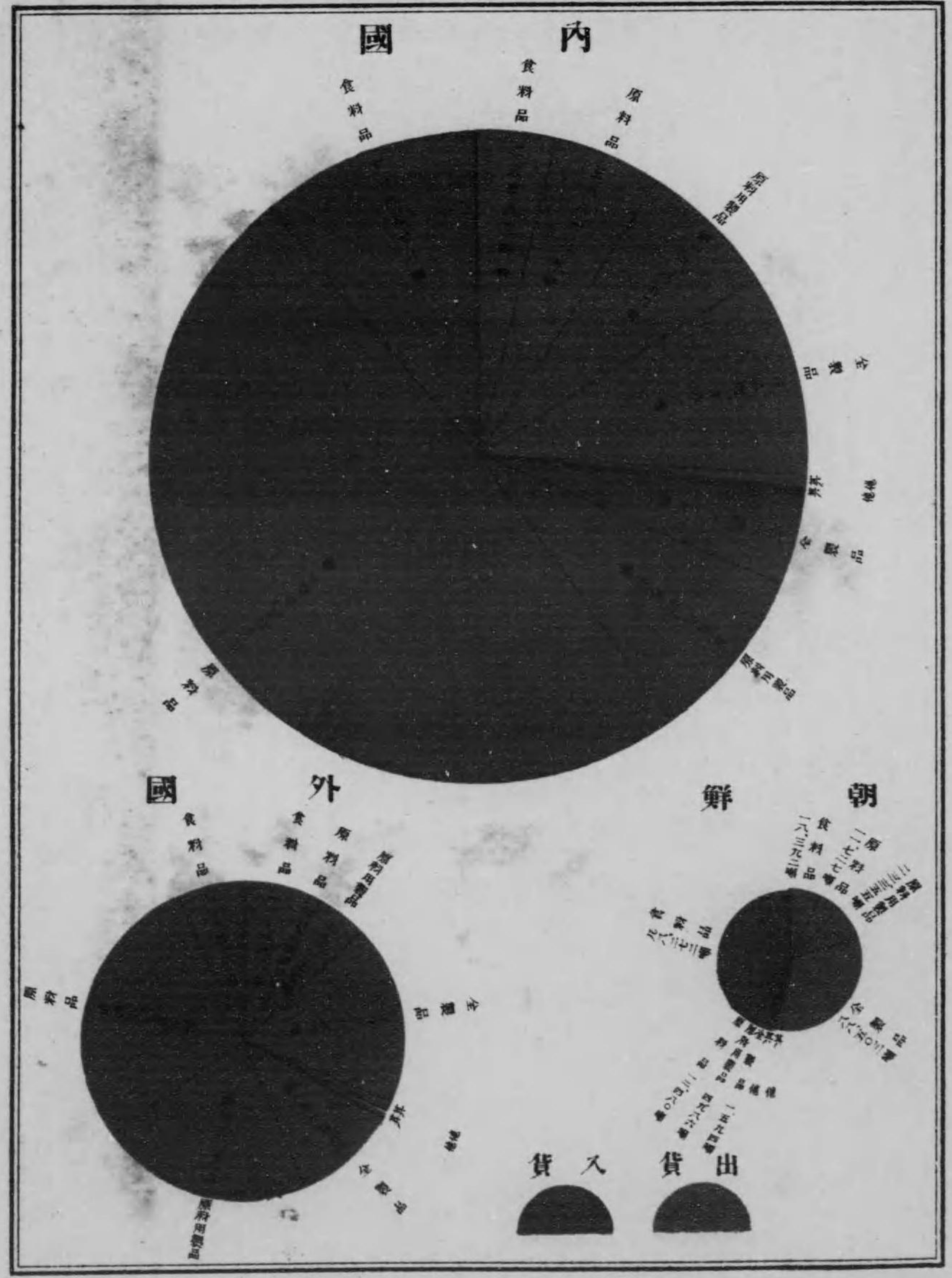
七 汽船航運營業取縮規程 ..... 四

八 入津料徵收規程 ..... 九

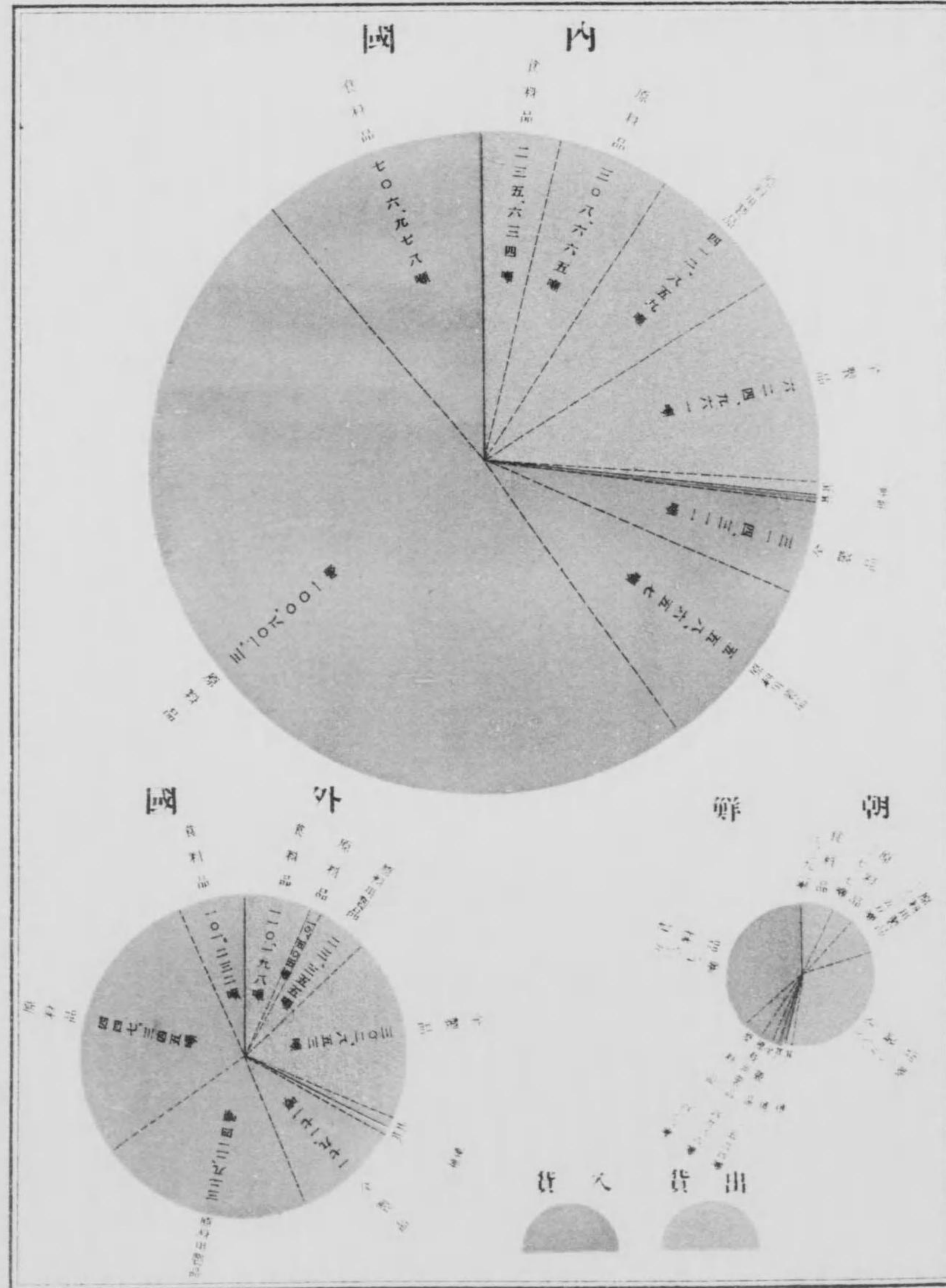
### 大阪港船舶十箇年比較



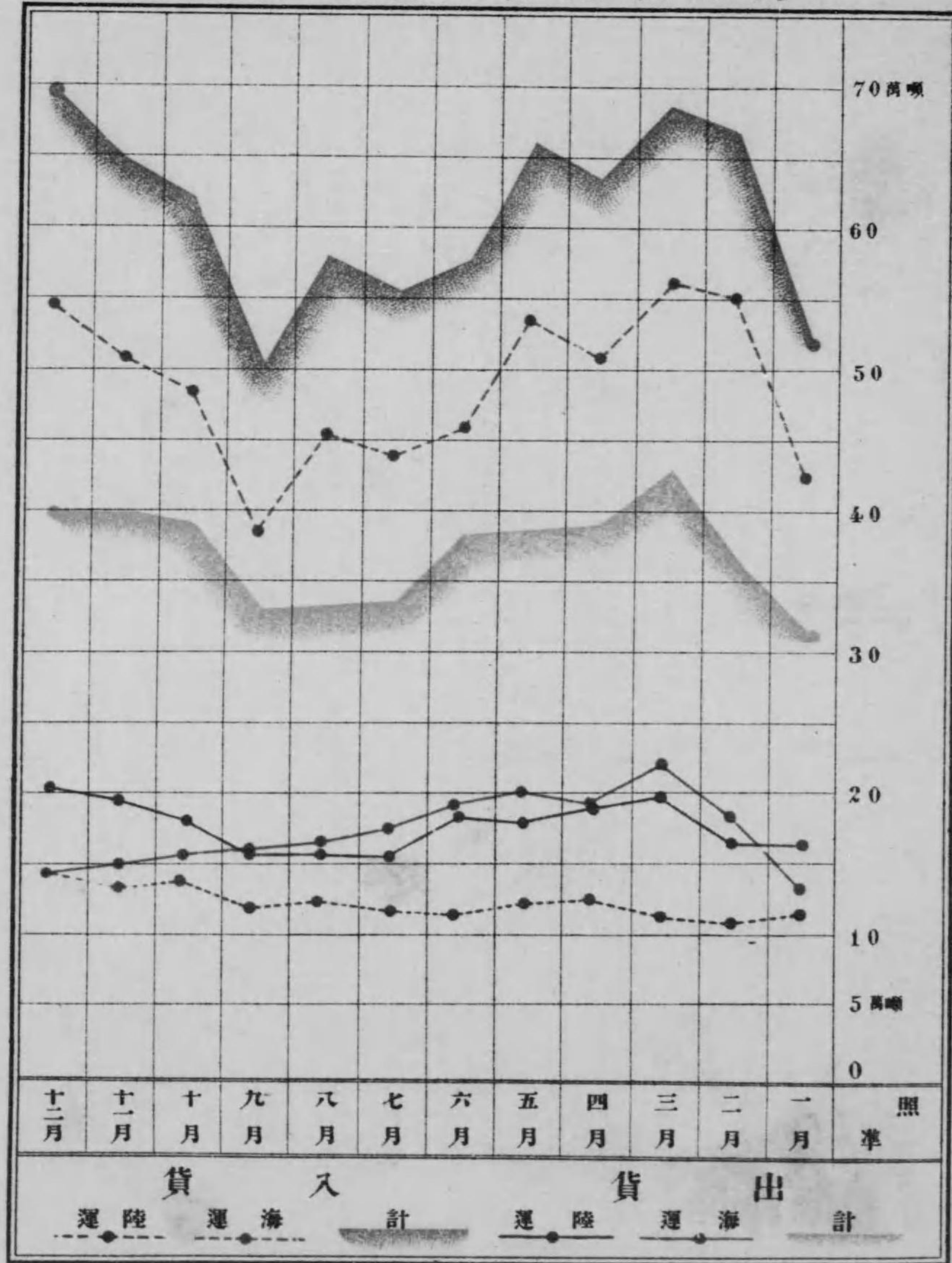
大正元年  
海運集貨物品類

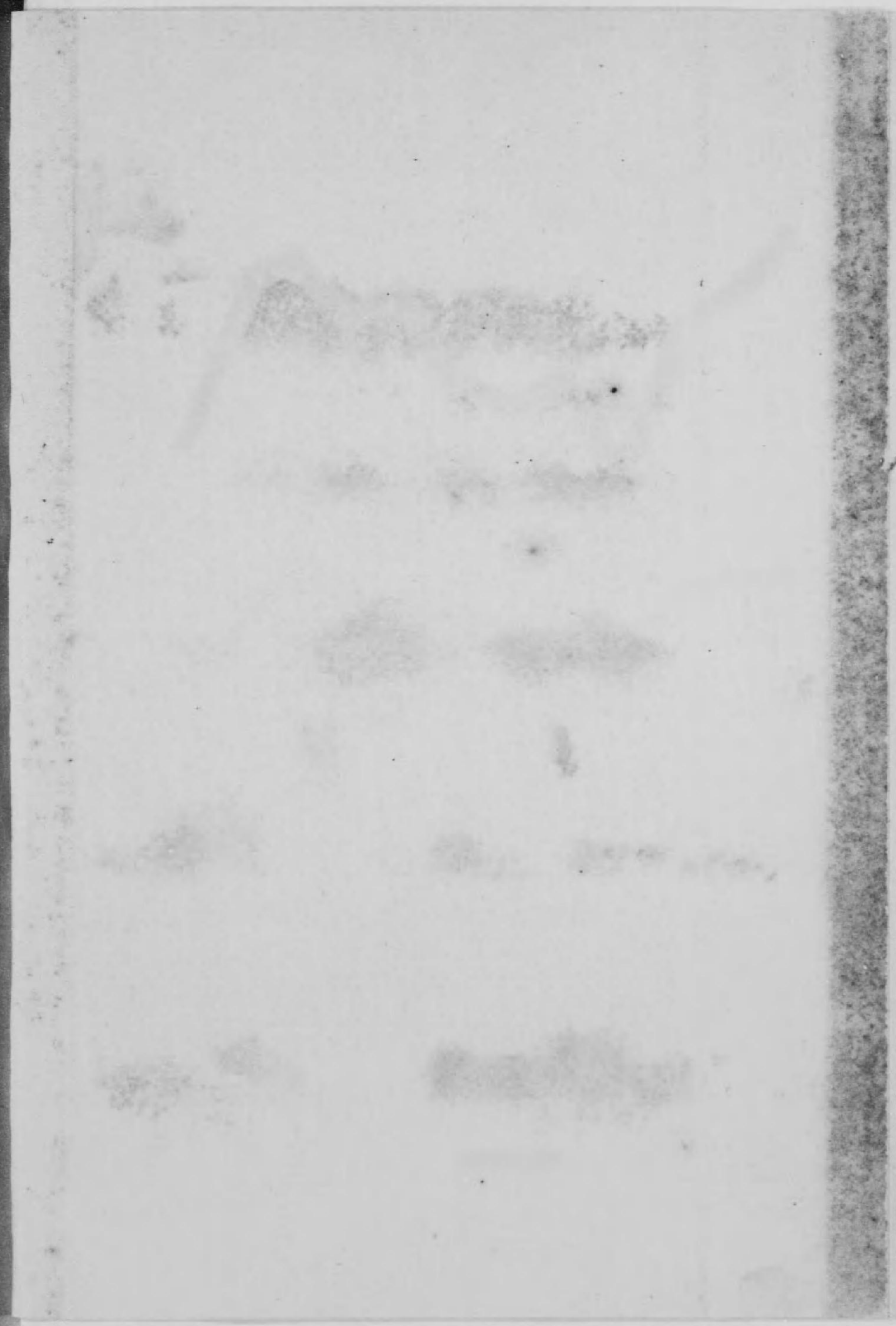
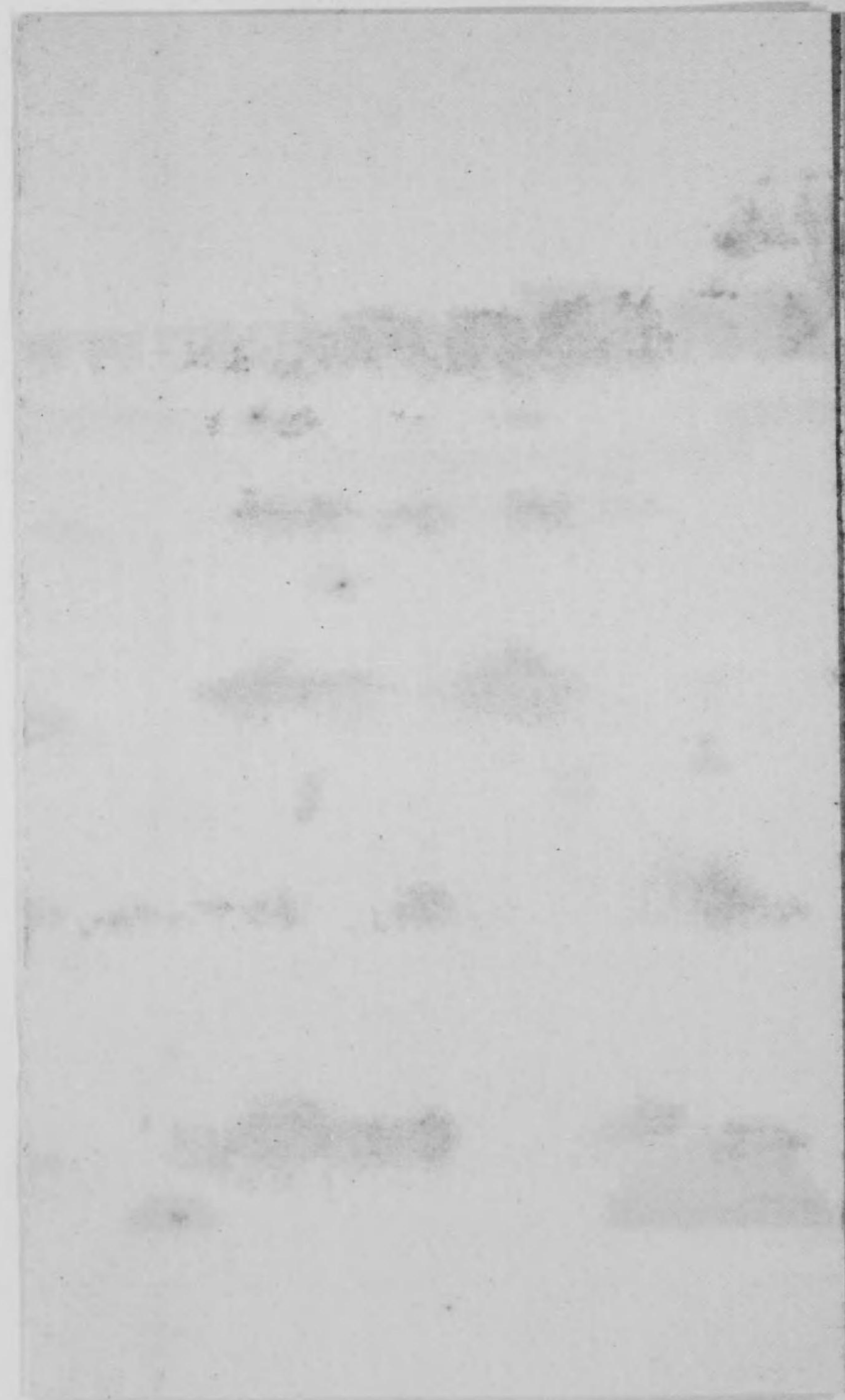


大正元年  
海運集貨物種類



大正元年  
海陸輸送物噸量月別





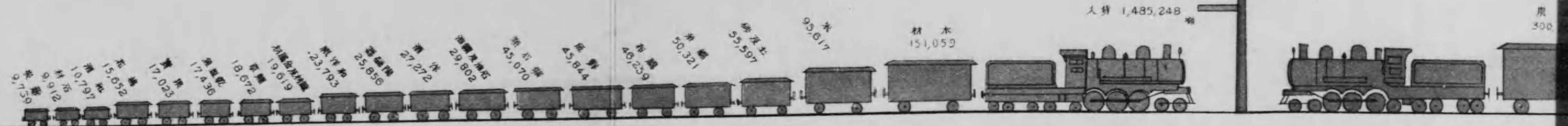




# 陸集散主貨要物

大正元年

出貨 2,152,525



陸運入貨

糖	64,251
酒和	46,843
油	40,243
品	33,744
油	29,873
油	28,664
油	28,133
油	24,054
油	23,653
油	23,636
油	20,497
油	22,637
油	19,339
油	13,684
油	11,549

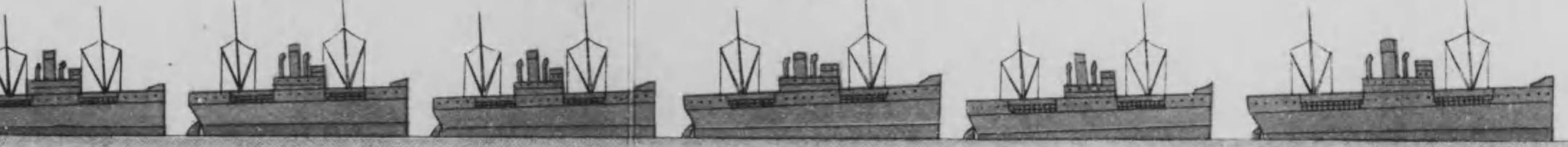
海運入貨

炭	183,985
砂及土	175,650
砂	162,947
炭	123,162
油	106,476
豆	91,226
紙洋和	75,623
炭	64,581



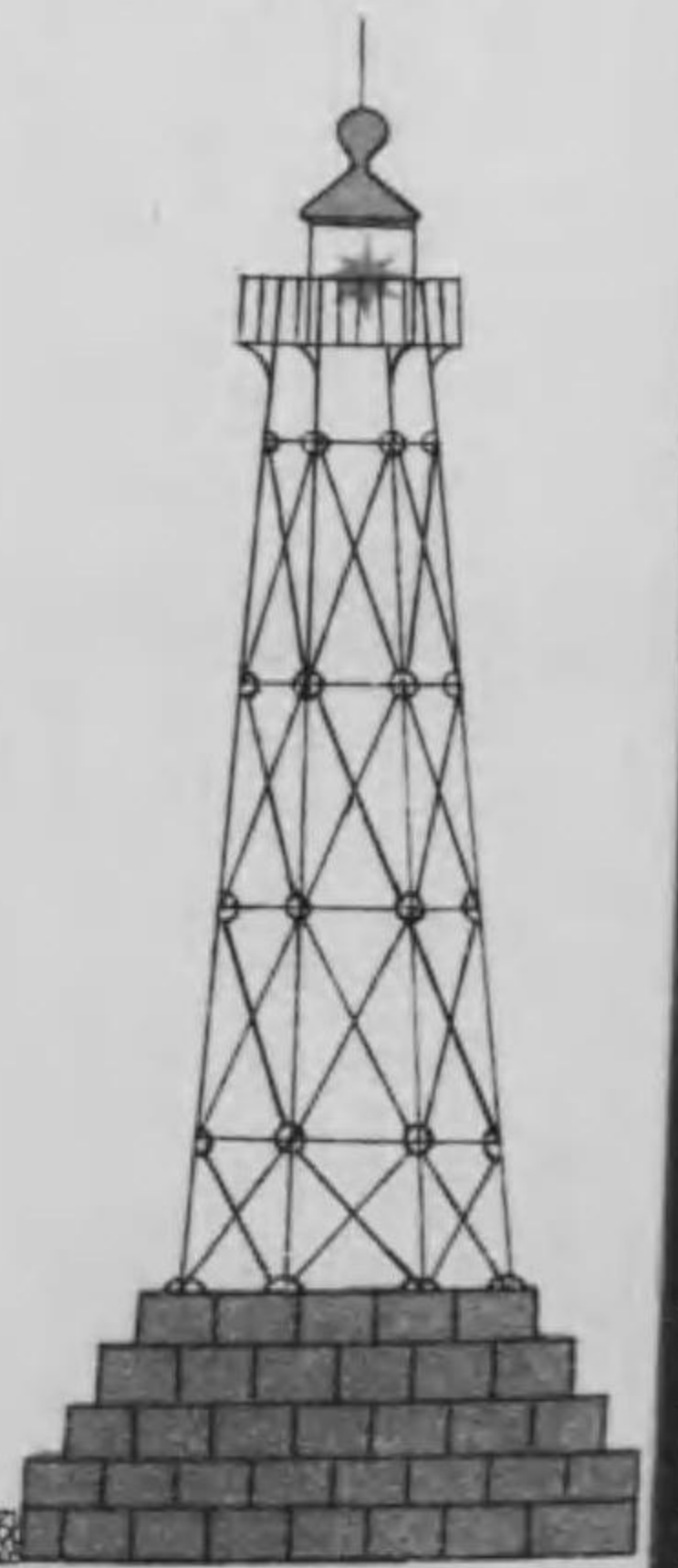
陸入

材木	418,092
材	336,380
炭	325,356
花	241,553
水	235,033
材	213,384



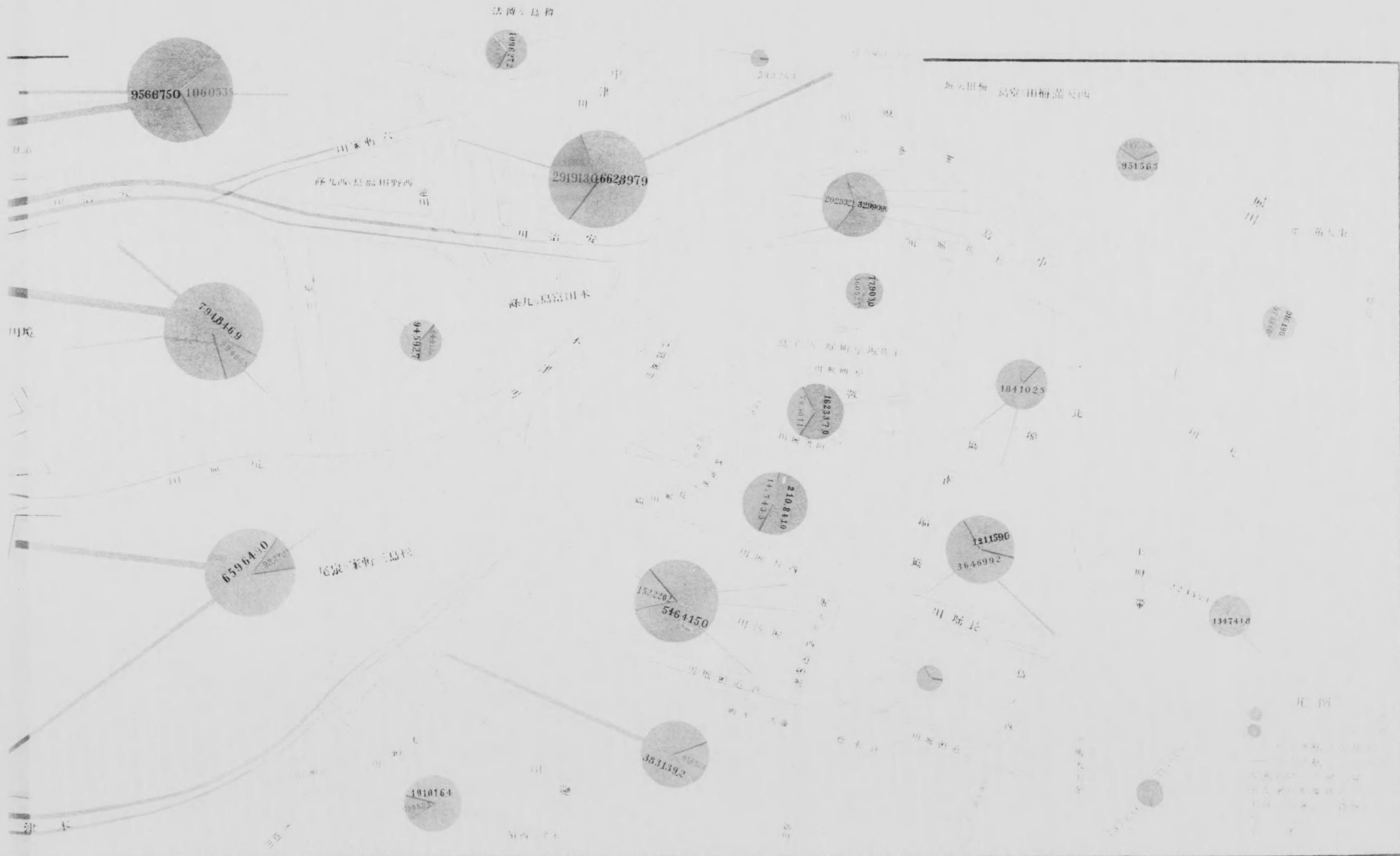
海入

炭	500,000
炭	500,000
炭	500,000
炭	387,151



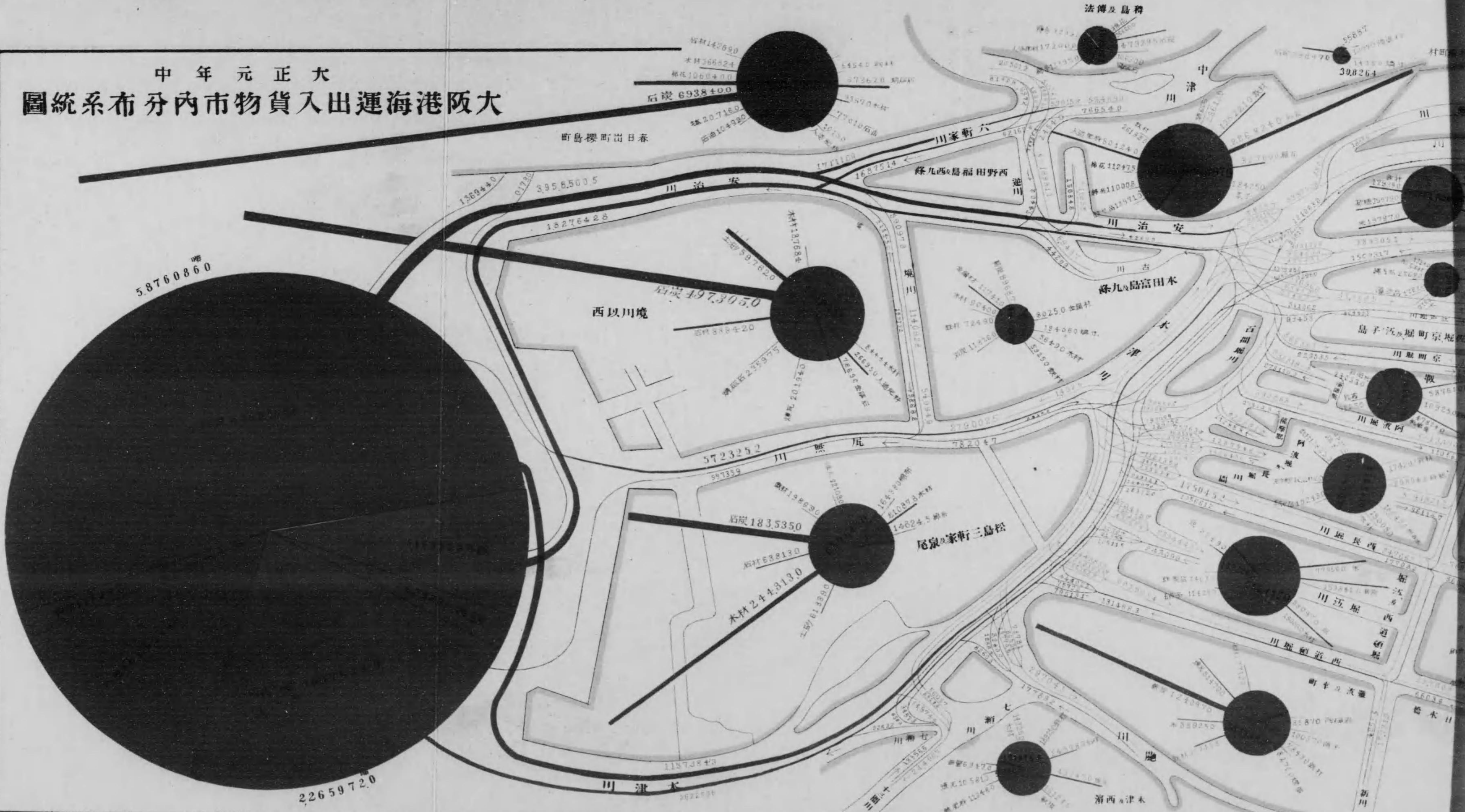


露光量違いの為重複撮影

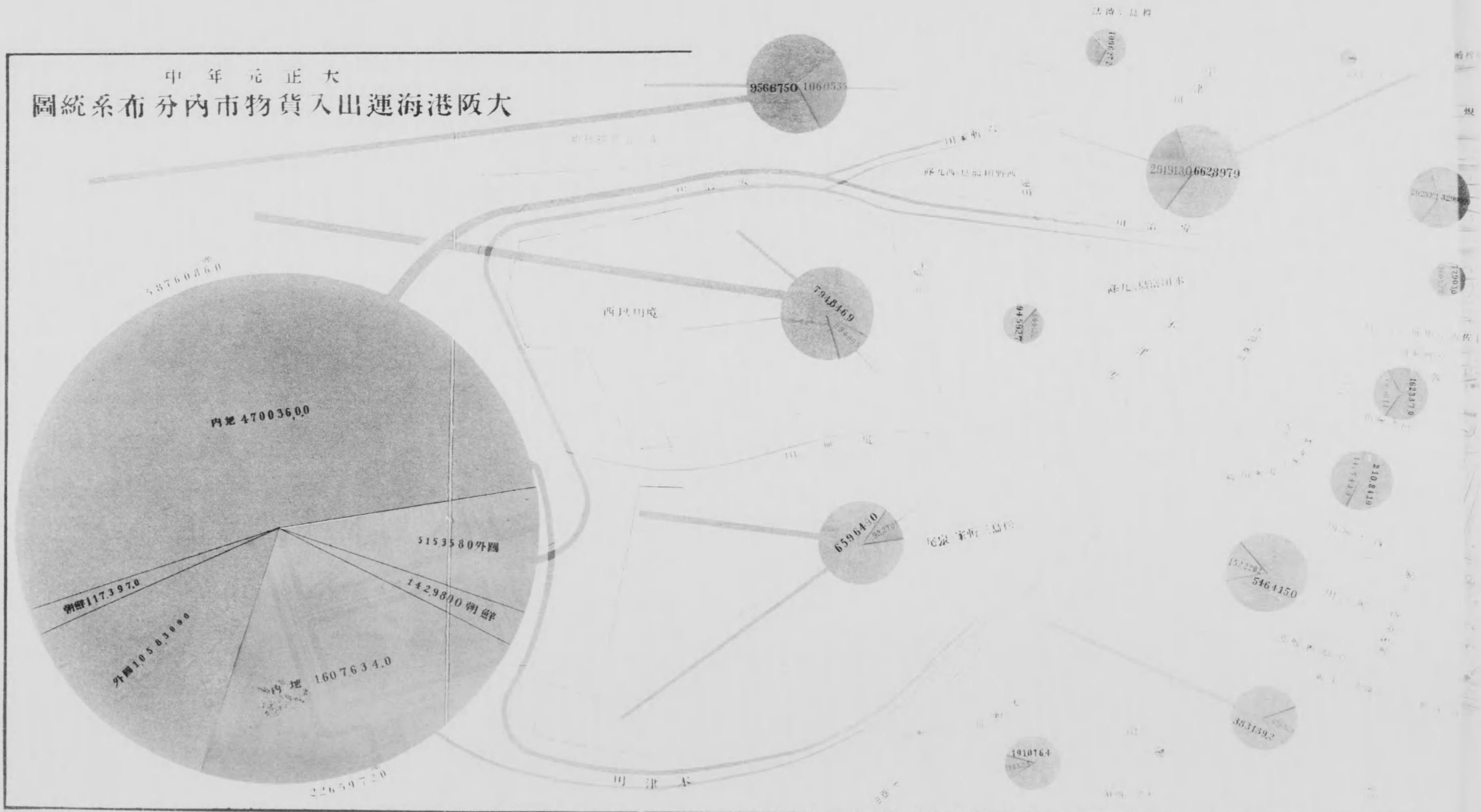


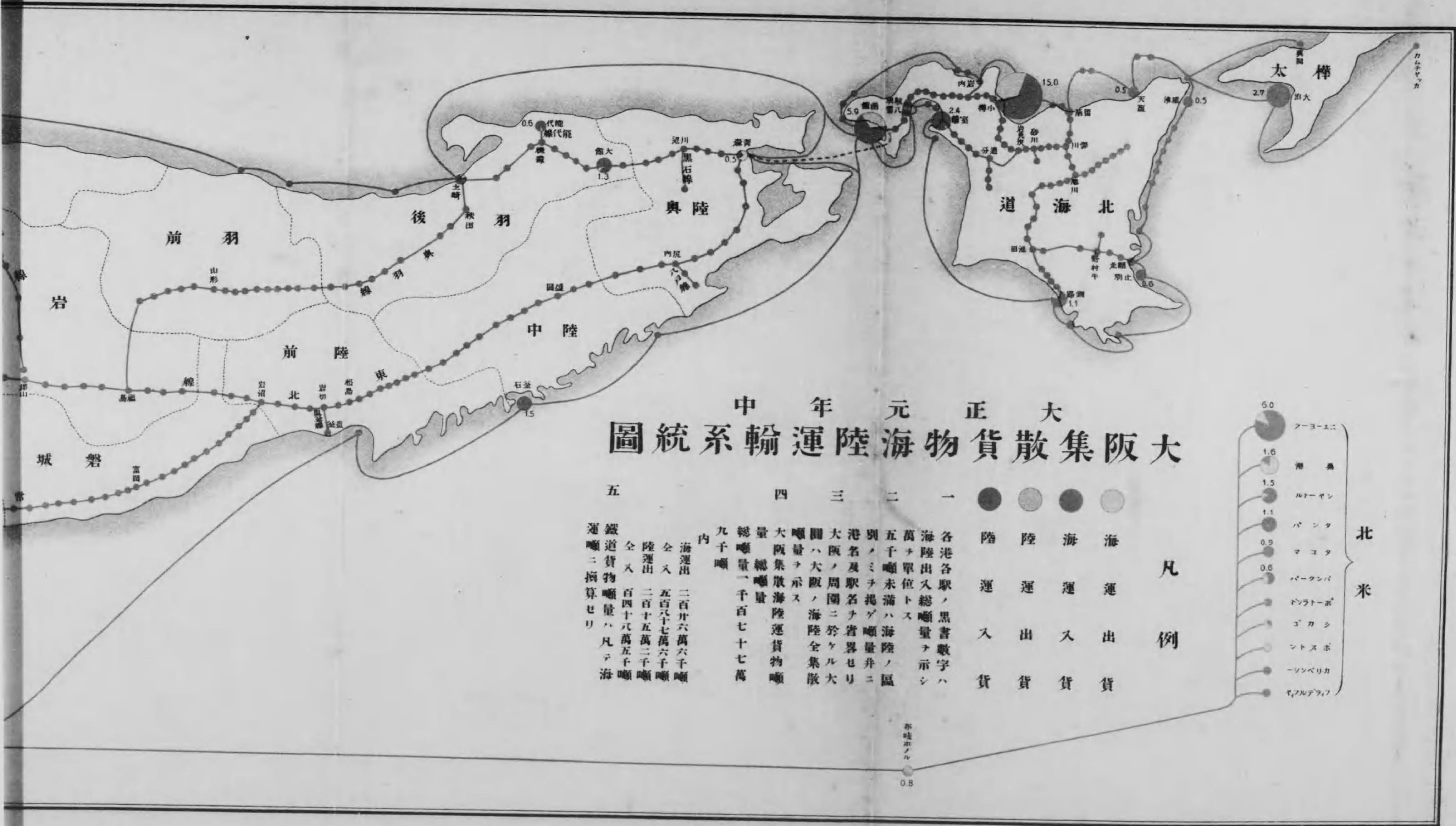
露光量違いの為重複撮影

大正元年 大  
大阪港海運出入貨物市内分布系統圖



大正元年  
大阪港海運出入貨物市内分布系統圖





大 正 元 年 中  
大 阪 集 散 貨 物 海 陸 運 輸 系 統 圖

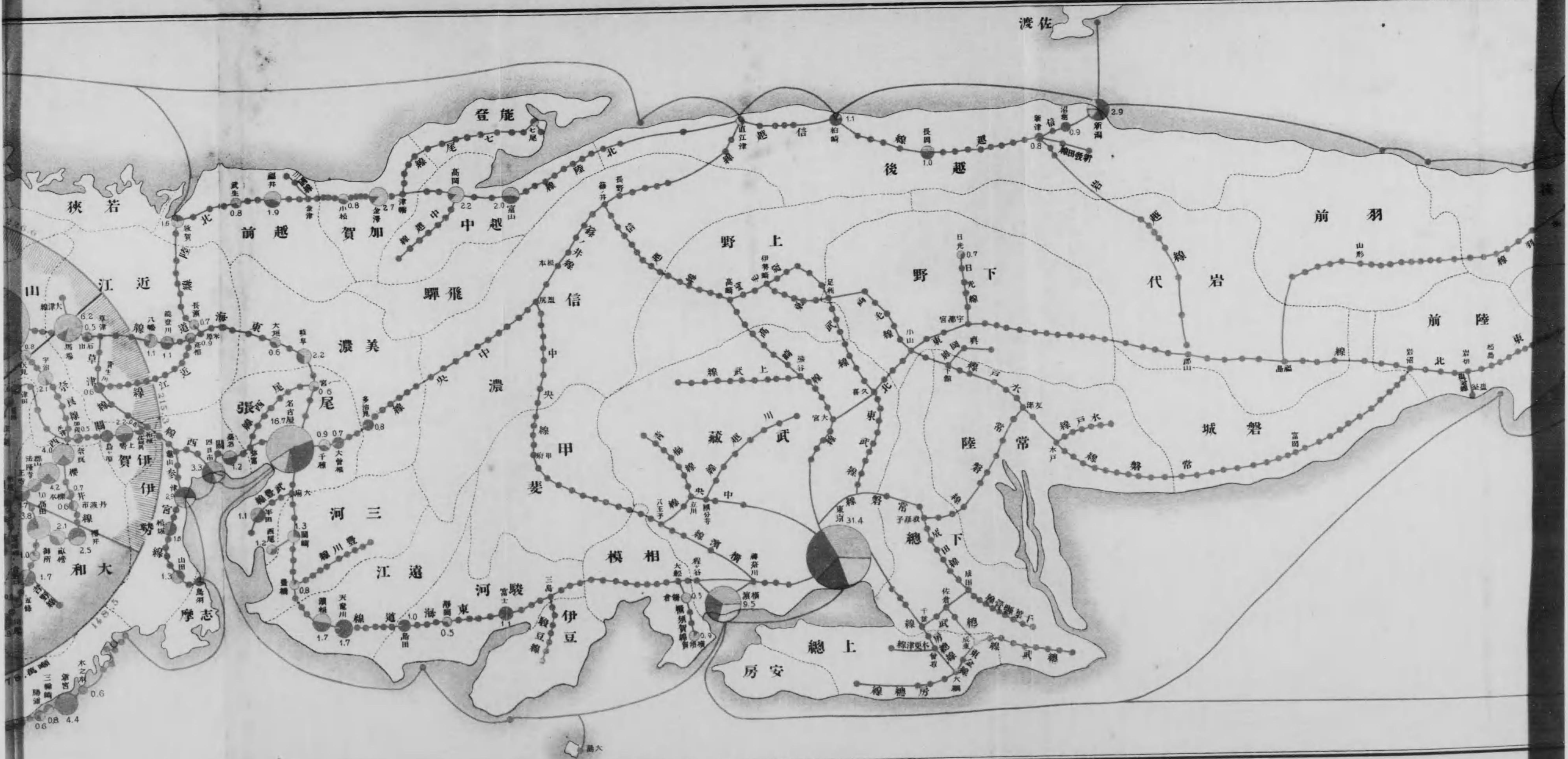
凡 例

一 ● 海 運 出 貨  
 二 ● 海 運 入 貨  
 三 ● 陸 運 出 貨  
 四 ● 陸 運 入 貨

各港各駅ノ黒書數字ハ  
 海陸出入總噸量ヲ示シ  
 萬キ單位トス  
 五千噸未満ハ海陸ノ區  
 別ノミナ掲ゲ噸量并ニ  
 港名及駅名ヲ著畧セリ  
 大阪ノ周圍ニ於ケル大  
 阪ハ大阪ノ海陸全集散  
 噸量ヲ示ス  
 大阪集散海陸運貨物噸  
 量總噸量  
 九千噸  
 内  
 海運出 二百廿六萬六千噸  
 全 入 五百八十七萬六千噸  
 陸運出 二百十五萬二千噸  
 全 入 百四十八萬五千噸  
 鐵道貨物噸量ハ凡テ海  
 運噸ニ換算セリ

- 北 米
- 6.0 フーヨーエニ
  - 1.6 港 集
  - 1.5 ルトーイシ
  - 1.1 パ ン タ
  - 0.9 マ コ タ
  - 0.6 パークンバ
  - ドンラトーゴ
  - ゴ カ シ
  - ントスホ
  - ーシンベリカ
  - マフルデアラフ

新 崎 市 港  
0.8



渡佐

登能

後越

前羽

狭若

前越

賀加

中越

野上

野下

代岩

山江

驛飛

前陸

濃美

中濃

武蔵

陸常

城磐

張尾

甲斐

相模

總下

河三

江遠

河駿

伊豆

總上

房安

和大

摩志





岐隱

能登

長門

石見

後丹

馬但

狭若

前越

賀加

中越

防周

藝安

後備

備中

作美

幡因

波丹

近江

飛騨

飛騨

美濃

濃中

伊豫

讚岐

土佐

阿波

大阪

攝津

河内

伊賀

伊勢

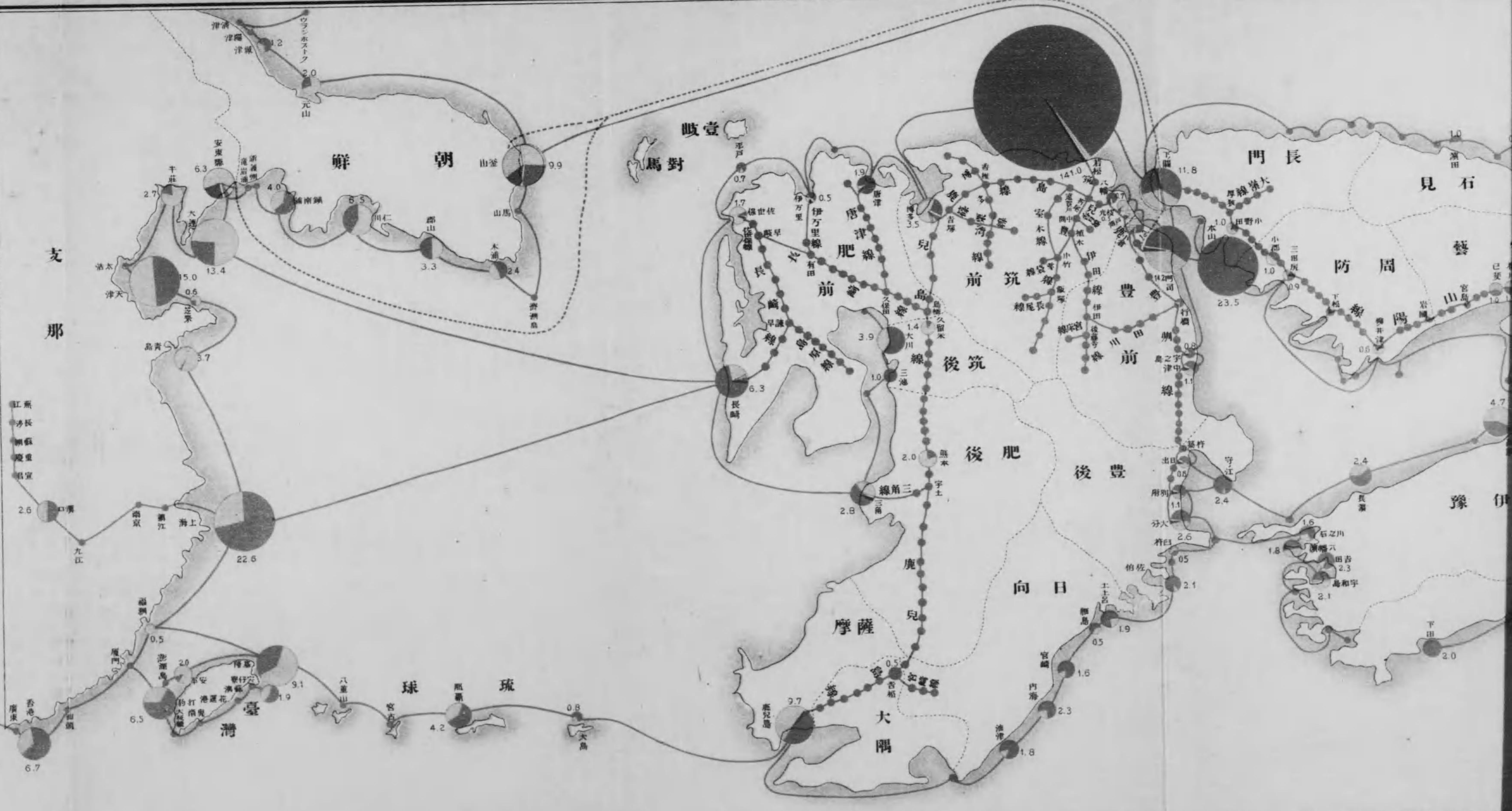
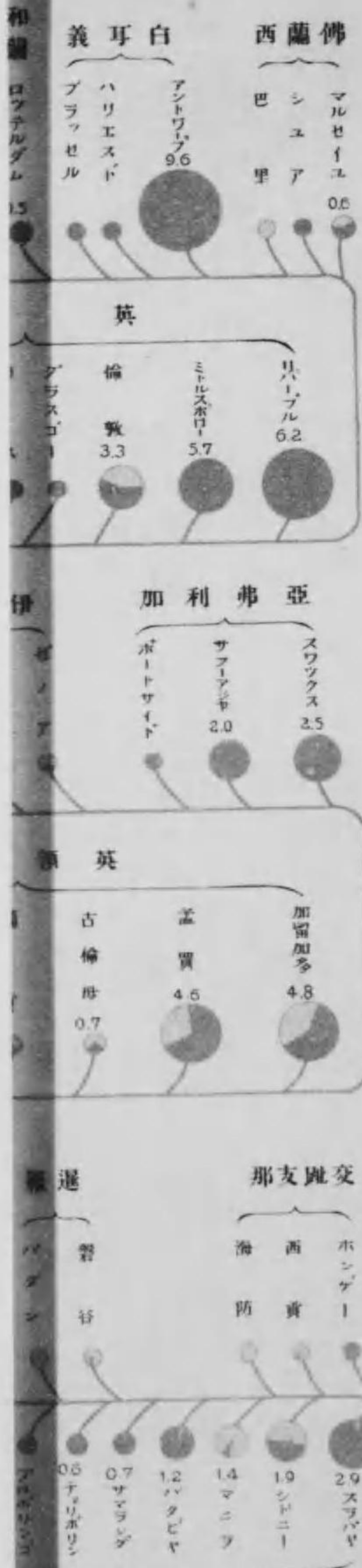
三河

遠江

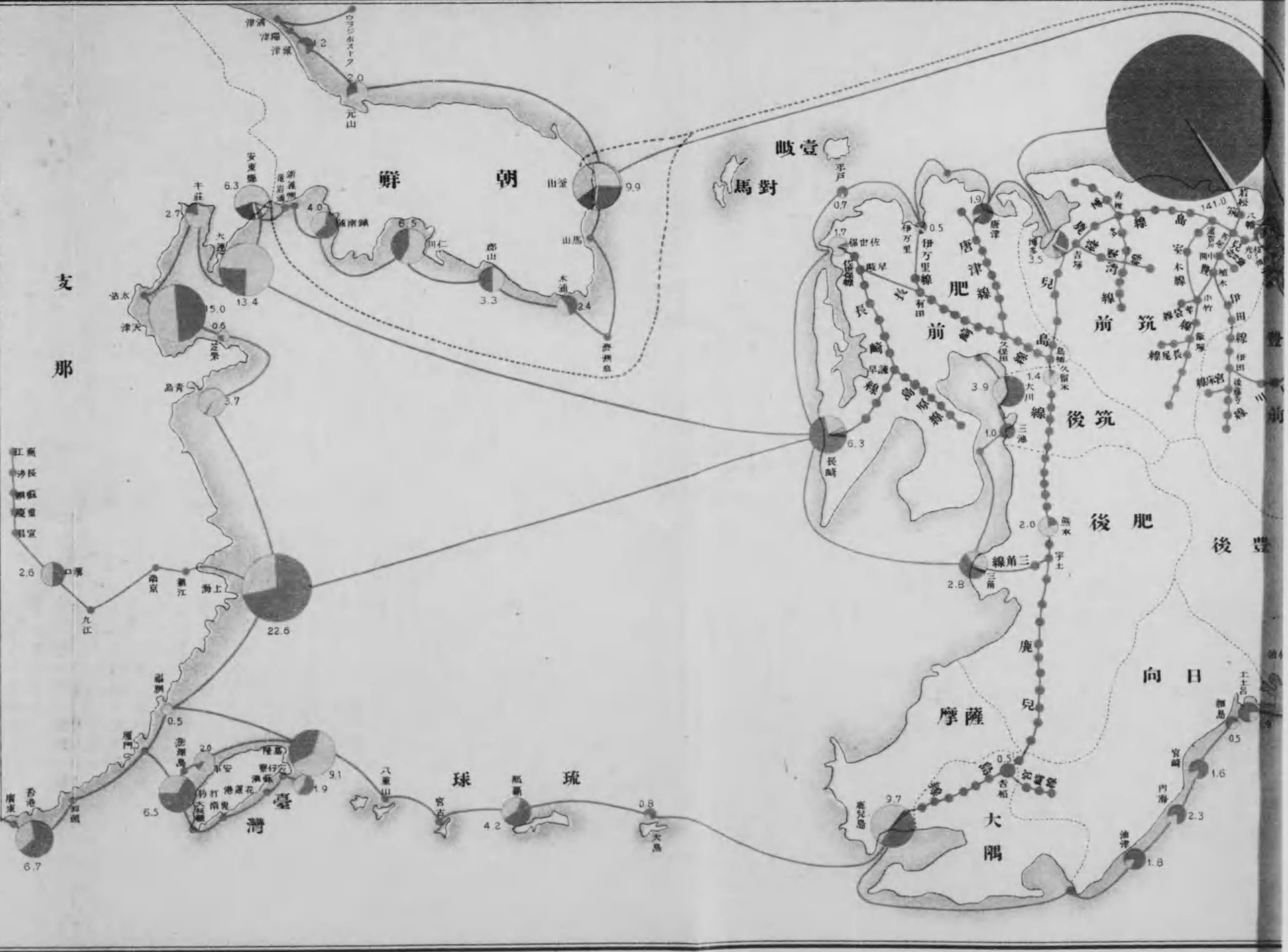
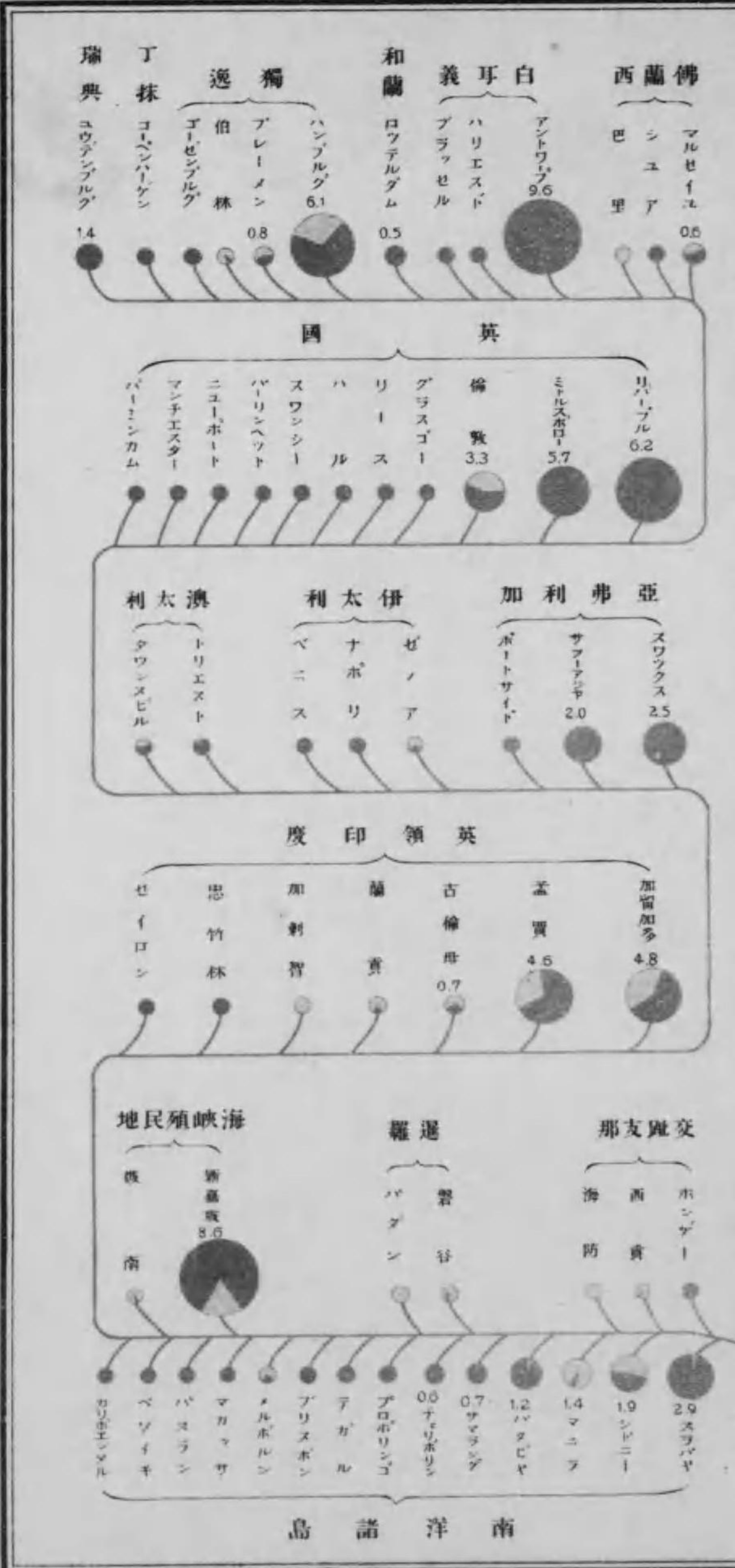
駿河

伊紀

計 1.17 日



南洋



# 大阪港勢一斑

## 第一章 大阪港の現勢

### 第一節 總說

大阪港は東經百三十五度二十九分北緯三十四度四十一分本洲の中央要部たる畿内平原の臨海地域に位し、内外航運の要路たる瀬戸内海を制御して淀川河口の三角洲上に位置せり、皇祖神武征船寄泊の時浪速津の稱を賜ひ夙に五畿の關門として知られたるも特に都市として發達するに至りたるは豊臣氏の居城を此地に卜したるに始まる、徳川氏に至り城代を置き穀倉を設け關西諸侯亦各自此地に倉屋敷を置けるより頓に一大市場を形成するに至りぬ、茲に於てか幕府は常に意を河海交通に用ひ船舶航路の維持に努め、或は道頓堀川を通し或は安治川を開鑿する等屢大土工を起せり、降て明治元年政府は治河使に命じて航路を浚深せしめ、同三年河川入津料制度を設け海口及河川の浚深に充つ、翌年波止場を川口に築き公共の用に供せしむ、之を今の川口波止場とす、然れども従來の小規模なる河港は到底維新後急激なる貿易の發達船型の増大に應ずる能はざるを以て、築港の議は夙に官民有志の間に唱導せられ、企劃幾度か蹉跌したるも遂に明治三十年を以て國庫補助の下に大阪市により起工せらるゝに至れり、爾來十有六年未だ全く其成を告げずと雖、既に豫定工事の大部を竣へ、内務省施行の安治川整理と相俟つて、三十六年八月以來外航其他の大型船は築港に沿岸航船は河川に溯航し、最近一ヶ年の出入船舶三十八萬餘艘一千五百萬噸其積載貨物八百余萬噸に達するの盛況を示すに至れり。

市の廣袤は東西二里二十二町南北二里十九町面積三方里七、戸口は大正元年末現在戸數三十萬六千七百三十一、人口百三十三萬一千九百九十四を算し、其増加率は過去十ヶ年間に於て平均千分の四十内外なりとす、此以外市域と接続せる十六箇町村は人事百般の關係に於て全く大阪市の一部と見做さるべきものにして、其戸數三萬五千餘人口十五萬餘人を算するを以て、事實上の大阪市の戸數三十五萬餘戸人口約百五十萬を算するものと謂ふへし、更に之を商工業上より見るときは是等接続町村は勿論、南は堺

岸和田、西は尼崎、西宮方面迄をも包含せしむるを至當とするべく、之と等しく大阪港界も亦開港々則の規定に従へば武庫川口目標より南微西六海里、大和川口より五海里兩線の相接する範圍内に限定せられたるも、事實上より見たる大阪市が其附近町村の全部を包含するか如く、港界も亦事實上の運輸關係より見るときは更に擴大せられざるへからず、之を古來の變遷に徴するに大阪港の内外貿易は洲渚の變化に伴ひ、或は難波或は武庫(尼崎)或は堺或は兵庫を用ひたりと雖、其中心は常に淀川の海口にありき、現在の神戸港貿易も其中六、七、迄は直接間接大阪港に出入するものなるを以て、是亦往年の前記諸港と等しく大阪の外港たる地位に立つものなり、此意味よりせば寧ろ大阪灣即ち大阪港と稱するを以て至當とすべきものならんも、本書に於ては暫らく行政區劃に従ひ狹義の大阪港市を説くに止むへし、尙外方に對する港界は上記開港々則の規定あるも、内部に對する限界に關しては或は築港即ち大阪港と解するものあり、或は築港を新港とし安治川を舊港とするもの等一定せざるも、茲には一般の觀念に従ひ、航洋汽帆船の出入する築港、安治川、木津川及尻無川の四者を總稱して大阪港と見做せり。

## 第二節 築港

### 第一款 概

築港工事は明治三十年十月起工以來十有六年を閲し、其間多少の支障ありたるも豫定計畫の大部は既に竣成し、餘す所は船渠築造工事及浚渫埋立の一部のみ、大正元年六月末現在港内水面積は二百十六萬九千坪、内干潮面二十八尺以上の水深を有する部分八十五萬七千七百三十三坪、埋立地面積八十六萬四千三百三十八坪、内地地整理を施したるもの八萬八千九百八十坪に達せり。港底土質は泥土にして錨抓に便なるも近時定期船の多くは棧橋に繫留せり、潮高は最大滿潮面七尺二寸五分(最大干潮面上を意味す)平均滿潮面五尺五寸平均干潮面一尺七寸三分なりとす、尙ほ港は西方に開放せるを以て、冬季西風強烈なる際は時々船荷役に支障を來すことありと雖、大正元年午前七時より午後五時に至る晝間沖荷役不能時は、終年を通して十二回八十二時間、同岸接船荷役不能時は十七回四百四十七時間にして、而かも其不能區域は沖荷役にありては大部外港に止まり、内港及安治川尻方面は四回十五六時間に過ぎず、亦岸接船荷役にありても大棧橋某点兩側岸に最も多く、安治川尻方面は六七回五六十時間を

算するのみ、蓋し今後水陸の連絡設備にして完成せば本邦有数の良港たるを失はざるべし。

### 第二款 設備及利用

利用の方面に在りては明治三十六年八月南北兩突堤及埠頭大棧橋の竣功を機とし、工事の進行に支障なき範圍に於て一般船舶に向つて開放したる以來、漸次倉庫上屋及各種棧橋等諸設備を完ふると共に埋立地の貸與棧橋浮標の無料使用等、出入の船舶貨物に對し諸種の便宜を與ふるに努め居れり。

今設備の主なるものを擧ぐれば左の如し、

一棧橋 築港埠頭は大棧橋及小棧橋の二あり櫻島には第一號第二號及片棧橋の三者あり近時何れも盛んに利用せらる、詳細左の如し。

名	稱	位	置	延	長	幅	橋面ノ高	水深
大	棧橋	築港埠頭			一、五〇〇尺 <small>接陸部六〇間ハ六十尺他ハ九〇尺</small>		一二尺	三〇尺
小	棧橋	全			一〇五		一一	一六
第一	號棧橋	櫻島埠頭			二四〇		一一	外側 二八
第二	號棧橋	全			二四〇		一一	全 二八
片	棧橋	全			六三〇		前面 七	前 二八
								一三

二繫船岸 埠頭地大棧橋の左右、安治川尻南岸及櫻島の一部に築造せられ其延長合計八百二十六間を有す、内最も多く利用せられつゝあるは安治川尻南岸上屋前の岸壁にして、其他も相當の維繫船を有す。

大棧橋左右繫船岸壁	安治川南岸尻繫船岸壁	櫻島埋立地東端岸壁	第一號第二號棧橋間岸壁
四〇〇〇	一九五五〇	八・〇	六・〇
一一	七	全	全
一九六〇〇	三五六五	六	六
		二〇〇	一・五

三上屋及倉庫 上屋は安治川尻南岸に二棟櫻島に二棟合計三千百十坪あり、外に工事中のもの櫻島に二棟千二百六十坪埠頭地に一棟三百坪あり、何れも税關指定上屋として輸入貨物の一時置場に充てらる、倉庫は埠頭大棧橋起點兩側に六棟櫻島に二

棟、南恩賀島町地先理立地に三棟、合計五千二十坪を有す、此等は税關鐵道院倉庫會社等に賃貸せらる。

四

建物種別	位置	構造	軒高	桁行	梁間	坪數	掛底
上屋	安治川南岸船護岸	木造家根及側壁引鐵板	二・八	一〇・〇	一〇・〇	一〇〇	九
全	櫻島第一第二棧橋後方	鐵骨家根及側壁引鐵板	二・八	四・〇	一・〇	七三	九
全	大棧橋面最端ヨリ二十四間	全	一・八〇	四・〇	一・〇	七三	九
全	安治川北岸上屋後方	屋根瓦葺及側壁煉瓦造	一・八〇	六・四八	一・〇	七三	九
全	大棧橋起點北側	全	二・〇	六・〇	一・〇	六九	九
一號倉庫	大棧橋起點北側	木造屋根引鐵板側壁葺	二・〇	六・〇	一・〇	六九	九
二號倉庫	全	全	二・〇	六・〇	一・〇	六九	九
三號倉庫	全	全	二・〇	六・〇	一・〇	六九	九
四號倉庫	大棧橋起點南側	全	二・〇	六・〇	一・〇	六九	九
五號倉庫	全	全	二・〇	六・〇	一・〇	六九	九
六號倉庫	全	全	二・〇	六・〇	一・〇	六九	九
倉庫	南恩賀島町地先理立地	全	二・〇	六・〇	一・〇	六九	九
全	全	全	二・〇	六・〇	一・〇	六九	九
全	全	全	二・〇	六・〇	一・〇	六九	九
計						八、三〇〇	六二

四起重機 大棧橋面上に一噸半揚上架起重機一臺、櫻島片棧橋に同可搬起重機一臺、安治川尻南岸船護岸壁に同二臺を配置す、其他十五噸起重機艇二隻は特種重量品の荷役に對し工事に支障なき限り一般に使用せしめ居れり。

五繫船浮標 大棧橋北方三個、棧橋南方十二個、棧橋繫留網取浮標二個、合計十六個を備ふ。

六其他 航路には桂燈浮標六個を設置して目標たらしめ、倉庫上屋棧橋附近には点燈設備をなし、警報及天氣豫報信號上

屋倉庫間の輕便軌道、大棧橋突端港内見張所等各種の設備あり。

七貿易機關 明治四十四年四月税關輸入部を此地に移轉したる以來、海運業者、回漕店、倉庫會社、金融業者等續々支店出張所を設くるあり、近時市設上屋、同假置場等經營せられんとするありて、各種の貿易機關略は備はるに至れり、因に保税地域及船舶陸地間指定交通場所左の如し。

- 一保 税 地 域
- 大棧橋附近 (四十四年八月指定)
- 一、第三號倉庫
  - 二、全上倉庫前面土地及岸壁
  - 三、第四號倉庫前面土地及岸壁
- 安治川尻南岸 (四十四年八月指定)
- 一、第三及第四號上屋
  - 二、全上接續地
  - 三、全上上屋前面岸壁
- 二船舶陸地交通場所
- 一、第二號上屋
  - 二、全上前面岸壁
  - 三、全上前面棧橋
- 櫻島町地先 (四十四年八月指定)
- 一、第二號上屋
  - 二、全上前面岸壁
  - 三、全上前面棧橋
- 築港埠頭大棧橋一圓 (三十八年三月指定)
- 一、丁字形小棧橋一圓 (四十四年八月指定)
- 櫻島棧橋及之に接續する沿岸地(四十一年十二月指定)

八市有埋立地の整理 埋立工事の竣成に伴ひ、漸次其筋より下附若くは一時使用の許可を受け宅地整理を施し、貿易關係業者始め一般に貸與し、銳意發達を圖れる結果、今や埠頭地方の如きは純然たる市街を形成し、大正元年末現在戸數一千百餘人口四千二百餘人を算するに至れり、其他櫻島地域の如きも船車連絡機關各種工場等に増加するの形勢を示せり。

### 第三節 河 川

#### 第一款 河川の航運

水は大阪の生命にして河川は其脈管たり、淀川の大江東より來りて市内を貫流し分合曲折妙を極め、遂に安治、木津、尻無の三川となりて海に注く、全市の河川其數大小實に四十五條其總延長約四十哩に達す、大阪か古來商業の中心として天下金穀の權を

五

掌握したるもの其地理的位置の然らしむる所なりと雖、亦實に河川航運の便其比儔を見ざるの致す所ならずんはあらず。  
 此等河川の航運状況を見るに淀川、土佐堀、堂島川、安治川、尻無川及木津川等の幹川は、内務省及大阪府に於て斷へず浚渫を  
 施しつゝあるを以て、年々其水深を加へ、築港に臨める安治川の如きは沿岸航路船の碇泊場として七八百噸迄の汽船を通航せし  
 むるに至れり、同尻無川及木津川は共に和洋帆船及大型船の出入頻繁なり、其他淀川、大川、土佐堀、堂島川等の脇川は何れ  
 も大型船の通航に適す、尙各枝川に於ける航運状況の一般を示せば左の如し。

第一級		第二級	
(甲) 東横堀	大型船及各種小艇通航す	(乙) 西横堀	全上
(甲) 道頓堀	全上	(丙) 長堀	全上
(丙) 天満堀川	大型石炭船の通航頻繁なり	(丙) 逆川	大型船及各種小艇の通航頻繁なり
(甲) 堂島堀川	梅田停車場倉庫の關係上大型船の通航多し	(丙) 古川	達磨船を除き大型船通航す
第二級			
(乙) 海部堀	海産物荷役のため各種船の通航頻繁なり	(丙) 京町堀	倉庫多きため各種の通航比較的頻繁なり
(乙) 阿波堀	略全上	(甲) 百間堀	大型以下各種船通航す
(丙) 難波新川	全上	(甲) 堀江	全上
(甲) 木場川	石炭及鐵材載積の各種船通航す	(丙) 高津入堀	石炭鐵材及石材載積の關平船通航多し
(甲) 七瀬川	大型船以下各種小艇の通航頻繁なり	第三級	
第三級			
(甲) 江戸堀	小型船のみ通航す	(甲) 薩摩堀	下流は砂積荷役のため大型船通航す
(乙) 立賣堀	鐵材砂積荷役のため下流に於て船の通航頻繁なり	(甲) 曾根崎川	大型船の通航少し
(丙) 鶴川	主として關平船及小型船通航す	(甲) 中の島堀割	各種船通航す
(甲) 鯉江川	大型船通航するも頻繁ならず	(甲) 十三間川	上流に於て尿管船のみ通航す
(乙) 鴨間川	大型石炭船通航するも頻繁ならず		

備考 級は利用の程度を示し甲、乙、丙は水深の現況舟楫の便否に依り區分す

上述の如く幹川の水深は漸次増加しつゝあるも、近時各種船型の増大著しきを以て、大阪市に於て近く枝川の大浚渫を加ふるの  
 企劃あり、遠からずして航運上の面目を一新するに至るべし

第二款 河岸の利用

市内を貫流する大小河川は百貨集散の航路たると共に、其沿岸地帯は倉庫、工場、荷揚場及荷置場等の理想的好適地として櫛  
 比簇立寸土を餘さざるの盛況を示せり、即ち河岸の總延長九萬六千六百間の利用状況を見るに

工 場	倉 庫	荷 揚 場	空 地	堤 防
六千七百七十五間	八千七百九十一間	八千七百九十一間	一萬二千三百九十一間	三千四百間
此坪數	此坪數	此坪數	此坪數	此坪數
二十萬二千九百四坪	八萬二千七百七十五坪	五萬三千五百九十坪	八萬三千九百九十坪	三十二萬一千四百坪
此坪數	此坪數	此坪數	此坪數	此坪數
四萬一千九百九十二坪	八萬三千九百九十坪	三十二萬九千九百九十坪	三十二萬一千四百坪	
此坪數	此坪數	此坪數	此坪數	
二萬五千六百間				
此坪數				
三十二萬九千九百九十坪				
此坪數				
二萬一千二百間				
此坪數				
三十四萬四千四百坪				
此坪數				

にして、空地道路堤防等の大部は尻無川及木津川の下流沿岸地域に屬し、市街地の河岸にありては殆んど尺寸の地も利用せられ  
 ざるは無し。

第三款 河川水面の利用

市内河川は特り船舶の航運及沿岸地帯の利用のみに止まらず、舊幕政時代より荷揚棧橋竹木材置場等一部水面の占用を許可し來  
 りしか、街區益稠密を加ふるに伴ひ或は家屋其他工作物の一端を河岸より水面上に掛出するもの、物洗場、染物晒場等を設くる  
 もの、又は小廻船料理船の碇繋所として使用するもの等續出し、遂には地上市街以外別種の水郷を現出するに至れり。

現今に於ては府及市は夫々占用規程を設け之を許可することなれり、其種類は大要河川敷地に固着する工作物、竹木浮場、乘  
 客待合所、飲食物販賣、船繋場、物品堆積場、染物洗場、晒場、遊船及船繋場、生洲籠、競技及興行場、船棧橋、物干場、水船繋  
 場、通路等にして其總水面積左の如し。

(大正元年八月現在)

區 別	箇 所 數	面 積	區 別	箇 所 數	面 積
巡 航 船 寄 航 場	四六	六八三・三六	小 廻 船 繫 留 場	三二八	四、四七六・六二

區別	箇所數	面積	區別	箇所數	面積
荷揚棧橋	一八二	一、二二三・五四	材木浮揚場	三七〇	五、一七五・八八
物置場	二八	一、四六二・八一	竹浮揚場	一四	一三二・三七
船塢	六〇	二、二二二・五二	其他	五三四	一〇、五四八・一四八
水汲橋	一三八	一、六五・六五	合計	一、七〇〇	二六、〇九〇・四九八

以上は河川水面の占用として特記すべきもの、みを擧げたるが、此他特に占用を許可せられたるにあらざるも、事實上に於ては彼の帆檣林立安治川を充塞せる石炭船が一種の倉船として、短かくも數日長きは數旬に亘りて一定の場所に滯泊せるか如きは、全く水面を貯炭場を使用せるものと云ふべし、其他木津川に於ける船園場の如き五萬三千九百四十坪の大水面積が船溜として大小無數の和型帆船により填充せられ、舷々相摩すの盛況を呈せるも亦一種の水面占用と認むべきものなるべし。

### 第四節 鐵道及電車

#### 第一款 鐵道

關西に於ける交通運輸は總て大阪を以て中心とし、陸上運輸機關たる鐵道の如きも夙に此地に起れり、明治七年五月大阪神戸間に敷設せられたるを始めとし、同十年には京阪間の開通を見、同十七年には南海鐵道の前身たる阪堺鐵道の創立となり、同二十年私設鐵道條例の發布せらるゝあり、大阪、浪速、關西、西成、高野、南海の各鐵道相尋いで起り、關西に於ける鐵道網は茲に大阪市を中心として四通發達し、其密度に於て全國第一位を占むるに至れり、即ち市の北部には本邦鐵道の大幹線たる東海道本線あり、梅田を中央停車場とし、西は岡山廣島を経て遠く下關に達し、東は京都名古屋を経て東京より青森に及べり、又本土の中部を横斷せる阪鶴線は梅田に起り、神崎に於て分岐し福知山を経て舞鶴に到り、西成線は梅田より市の北西部を繞りて安治川口及築港櫻島に延び、以て海陸の連絡を取れり、其他關西線は市の南部湊町を基點とし、天王寺に於て城東線を分岐し市の東部を迂迴して梅田に至り、本線は奈良、木津を経て名古屋に出で、此所に東海道本線と合し京都に通せり、其他私設南海鐵道は難波を起點とし、天下茶屋より天王寺に到りて關西線と連絡し、本線は堺、岸和田を經由して和歌山市に到り、同じく高野登山鐵道は湊町の西方なる汐見橋より住吉、堺を經由して河内、長野に達せり、以上の各線中東海道本線の外は何れも明治三十九年四月鐵道國有法により買収せられ官營となり私設鐵道としては南海、高野の二線を餘すのみ。

#### 第二款 電車

市街の交通機關としては市營の電氣軌道あり、其延長に於ては東京市に比し遜色ありと雖も、一貫せる市營主義の下に最新式により建設せられたるを以て、其線路網の整備せる、施設の完備せる、蓋し全國市街電車中の首位に在り、現在に於ける既成線未成線左の如し。

既成線			未成線		
線名	起點	終點	線名	起點	終點
築港線	(自九條至築港)	三哩一四	九條高津線	(自西區安治川南通至兩區高津)	三哩七一
東西線	(自九條至谷町六丁目)	二哩七八	天神橋・四筋線	(自樋ノ上町至天神橋四筋)	一哩六〇
南北線	(自梅田至天王寺西門)	四哩一一	難波木津線	(自新川至大黒町)	零哩八三
上本町線	(自天王寺西門至本町二丁目)	一哩八一	西道頓堀天王寺線	(自幸町至惠比須町)	一哩八四
谷町線	(自谷町六丁目至天滿橋南詰)	零哩九七	松島安治川線	(自松島町至安治川南通)	一哩〇三
北濱線	(自天滿橋南詰至北濱二丁目)	一哩一二	野田線	(自中ノ島七丁目至西野田)	零哩五〇
天滿橋島線	(自天滿橋南詰至上福島中五丁目)	二哩五六	西野田福島線	(自西野田至安井町)	零哩七三
中ノ島線	(自九條至梅田)	二哩八三			零哩五〇
堺筋線	(自大江橋至日本橋三丁目)	二哩			
玉造線	(自谷町六丁目至玉造)	零哩七一			
震造線	(自惠比須町至震造)	零哩二三			
本町線	(自谷町三丁目至川口町)	二哩〇七			
合計		貳拾四哩三三	以上線踏延長概算		十哩七四



此他市内の交通機關としては私設電軌の市内線、梅田、天王寺間を連絡せる鐵道院城東線及築港、九條、梅田、湊町間に於ける市營手荷物電車等を數ふへし。

更に市外附近の交通機關として阪神、京阪、箕面、南海、阪堺、高野等の各私設電車は、神戸、京都、箕面寶塚、和歌山、河内長野等の附近都市若くは勝地と大阪との間を連絡せるものにして、南海、高野の二鐵道は旅客のみ電車輸送を爲せるものなり、此他近く開通すべき大阪電氣軌道は奈良大阪間を連絡するものとす、今各電鐵の線路延長を示せば左の如し。

名	稱	起	終	經	由	地	延	長
阪神電氣鐵道		大阪梅田	神戸三ノ宮	尼崎、今津、西宮、住吉、御影、				一九二六
京阪電氣鐵道		大阪天滿橋	京都五條大橋	守口、枚方、八幡、伏見				三〇・〇〇
箕面有馬電氣軌道		大阪梅田	寶塚塚温泉	岡町、池田、				一五・三七
全支線		石橋	箕面公園					二・四四
南海鐵道		大阪難波	和歌山市	天下茶屋、住吉、堺、濱寺、岸和田、淡輪、				四〇・〇〇
全支線		天下茶屋	院線天王寺驛に連絡					二・〇〇
全支線		住吉	天王寺西門					三・一七
阪堺電氣軌道		大阪今宮戎町	濱寺	天下茶屋、住吉、堺、				九・八二
高野登山鐵道		大阪沙見橋	南河内郡長野					一七・〇〇

## 第五節 航運業及航運關係業

### 第一款 航運業の沿革

大阪が往古より我國航運業の中心地として知られたるは既に多言を要せず、維新前後各藩の洋型汽船が大阪を目的として航海したるを近世航海史の序幕とし、明治二年米國商館ワツチの所有船往返丸及外人某の所有船千里馬が相前後して大阪神戸間に一般貨客の運輸業を開始したるを我國新式商船の嚆矢とす、次て川口居留地のオールド商會が汽船通商丸を以て大阪横濱間の航海を

開始し同時に政府は各藩所用の汽船を拂下げ、民間の事業に委ぬる等船舶の増加、航路の開拓漸く新面目を呈し來れり、此時大阪中之島に通商司なるもの設立せられ商業革新の機關たると共に海陸輸送の業を開き各藩船其他の新式汽船を以て大阪横濱間の航海に従事し一時我國の海運業を獨占せるの觀ありき、之より先米國太平洋汽船會社は桑港より横濱を経て神戸長崎に至る航路を開き精銳の汽船を操縦して頻りに我沿岸航業を覬覦するもの、如くなりき、此に於て我航海業者亦新鋭船を増加し政府も亦其所屬船數隻を以て大阪を基點とし横濱長崎間に航路を開き、同時に回漕會社なるものあり始めて濱阪間に定期航海を開始し、相共に外船に當り、明治五年更に政府が各藩より收容せる船舶を回漕取扱所に拂下げ、茲に日本政府郵便蒸氣船會社(郵船會社の前身)の成立を見るに至れり、之れが爲め大阪通商司は大打撃を受け遂に解散するに至りしも、是れ恰も一商店の廢業せしに過ぎずして大阪に於ける海運は日に益々發達し、明治十年西南役後には海運業の好況に伴ひ、大阪附近を目的とせる各汽船會社一時に勃興するの盛運に會せり。

斯くて明治十二年の頃には關西各港間を航行する船舶百十餘隻所有船主七十餘名を算し、爰に端なくも相互間に一大競争を惹起し其極悲惨なる状態に陥るに至れり、當時政府は頻りに諭告を發し船主又互に盟約して百方救済の途を講じ、遂に數十船主相團結して明治十七年五月を以て大阪商船會社を創立せり。

然れども此團結に加はらざる船舶尙多く依然として競争の態度を持続したるも、互に其弊に堪へず二十三年七月關西汽船同盟を組織し運賃の合併計算を行ふこと、なれり、其後日清役北清事變等に際する毎に大阪は常に軍事輸送の一大策源地として益航運業の發達を見、爾來大型船舶の増加著しく、明治三十六年個人貨物船主相團結して日本船主同盟會を起す、其西部本據を大阪に置き以て今日に至れり日本郵船會社は明治十五年其支店を大阪に置き専ら力を之に集注したるが其後同社の航運業は、漸次世界的に發展し來りたる爲め四十年以來支店を廢して荷扱所と爲せり、然れども日本の航海業として商工業の中心地たる大阪を等閑視する能はざるものあるを以て大正元年十一月再び大阪荷扱所を支店に復し、内外各航路船を寄港せしめ主力を此地に注ぐに至れり、此他貨物船主中の覇者たる三井船舶部は四十一年以來其遠洋航路の大型船を、主として大阪に寄港せしむるの方針を取り、大正元年には五十五隻百二十餘萬噸の貨物を輸入し、尼崎汽船部は大阪を基點として沿岸及朝鮮航路に従事せり。

要之現今に於ける大阪の航運業は大阪商船、日本郵船、關西汽船同盟、日本船主同盟及三井船舶部、尼崎汽船部等によりて支配せらるゝものと云ふべく、沿岸及東洋各港に至る我國汽船の大部は、實に大阪を根據として活動しつゝあるものなり。右の外沿岸航海を主とする帆船が内國貿易の中央市場たる大阪を中心として活動せるは謂ふ迄もなし、就中和型帆船は古來四境よりして大阪に輻輳し安治、木津、尻無、傳法の四川に出入せり、其種類を概括せば菱垣船、樽船、北國船、諸國廻船、乗合船及小廻船の六種にして菱垣船は九店船と十三店船との二あり、九店船は鐵、油、紙、砂糖、菜種、木綿、蠟、綿、松魚の九種を限り十三店船は其他の雜貨を搭載し孰れも江戸大阪間を航海せり、船型は千五百石乃至二千石にして御用船たるの資格を備へ當時威權を擅にせり、樽船は灘の銘酒を搭載し江戸に航海せるものにして千六百石乃至千五百石を有す、北國船は鯨尾布其他の産物を搭載して西國に下るものにして其大さ千石乃至千五百石を有し、秋季大阪に寄泊せり所謂木津川筋圍船なるものなり、諸國廻船と稱するは専ら瀬戸内海諸港より阪地に物貨を輸送するものにして土佐堀川其他横堀に廻航せり、乗合船は即ち客船にして瀬戸内海の各港を目的とし、小廻船五十石以下の小船にして上荷船茶船遊船等の河船なりとす。以上和船は現在にありては河解船の用に供せらるゝ、小廻船を除くの外、多くは其跡を止めざるも、洋型帆船及合の子船等之に代りて原料品粗製品等の沿岸輸送に従事せり。

第二款 船 主

大正元年三月末現在調によれば、大阪市に船籍を有する船舶は汽船四百二十三隻二十二萬三千餘噸洋型帆船二百五十三隻二萬八百餘噸にして、此他船籍を當地に有せざるも營業の本據を此地に置けるもの汽帆船六百餘隻二十萬餘噸を有す、左に是等團體、會社及個人船主なるものに付其營業狀態の一斑を記さん

一關西汽船同盟 本同盟の沿革は、所謂關西即ち瀬戸内海の沿岸地域に屬する四國、中國、九州及山陰一部の沿岸を航行する汽船の貨客爭奪の惡弊を矯正し、相互の共同利益を増進するの目的より運賃共通計算を行ふものにして、大正元年に於ける同盟船主は大阪商船内航部七拾五隻、尼崎汽船部の二十四隻、大川運輸の四隻、宇和島運輸の七隻、阿波共同の四隻、興隆汽船の三隻等を主として其他二十有餘の大小船主之に加盟し、所屬船舶百三十八隻、總噸數八萬九千五百噸を計上す、之が本部を北區

富島町に置き支部を神戸、高松、多度津、今治、三津濱、別府、大分、八幡濱、宇和島、宇品、關門の十一ヶ所に設置せり

二日本船主同盟會西部 事務所は中之島四丁目にあり總噸數五百噸以上の不定航貨物船主の組織する所なり、其前身は船主及回漕店により成立せられたるが加盟船舶の増加と共に明治三十六年日本船主同盟會と改稱せり、其目的とする所は同業者相團結して斯業の發達進歩を圖り弊害を矯正し相互の利益を増進するに在り

現在會員は七十四名加盟船舶二百十三隻四十四萬八千餘噸にして、我國船舶の四割餘を占め内大阪港に營業の本據を置けるものは岸本兼太郎の十三隻五萬二千餘噸原田十次郎の十一隻二萬五千餘噸、山本藤助の四隻一萬餘噸、大家七平の三隻七萬八千餘噸、中村準策の三萬六千餘噸を主なるものと合計八十五隻十六萬餘噸に達す、此等社外船の航路明治二十五年前後に在りては内地航路を主とし稀に朝鮮北支那方面に航海するのみなりしが、二十七八年戰役後船腹の大過剩を來したる結果、逐次印度南洋方面より南北亞米利加及歐洲に及び全然世界的海運場裡に活動するに至れり

三日本帆船同盟會 北區安治川一丁目に事務所を置き、社團法人組織にして其目的は日本帆船業並に海員の弊風を矯正し斯業の發達を企圖するにあり

四大阪商船會社 前述の如く、我國海運界に於て最も古き歴史を有し會社としての組織を見るに至りたるは明治十七年にして本社を大阪市西區富島町に置けり大正元年末現在の資本金千六百五十萬圓外に社債七百四拾貳萬圓あり、所有汽船百八隻總噸數十六萬九千餘噸を有し、我國に於ける航運會社として日本郵船に亞ぎ第二位を占む、創立の當初に於ては主として關西地方の内海不定期航を營むに過ぎざりしが、明治二十年より八年間五萬圓宛の國庫補助を得て船舶の改良を行ひ定期航路を開始し二十三年始めて大阪釜山線を開き二十五年仁川に延長し、二十九年には臺灣航路三十二年には南清航路を開始するに至れり爾來業務擴張資金の増加社債の募集を屢々し、三十八年以降更に大阪大連線北清南洋及浦鹽等の各航路を開始し、四十二年には新に香港シャートル線を開き大正二年三月孟買航路を開始し大阪に寄港せしむること、せり

五日本郵船會社大阪支店 前記の如く日本郵船會社は曩に一度大阪支店を廢し荷扱所となしたるも時運の發展に伴ひ大正元年末更に支店に復し東廻北海航路を始め其他内外船舶の寄港に努めつゝあり、支店所在地は北區富島町なり。

六尼崎汽船部 大阪に於ける海運業としては最も古き歴史を有し、明治十二年尾勢航路を開始せる以來逐次船隻を増加し同十八年より播州線中國航路及九州西廻線を開き、現在關西汽船同盟會中大阪商船に亞げる大船主たり、日露戰役後更に朝鮮航路を開始し、現在所有船隻二十隻一萬餘噸に達す、其營業所は北區富島町にあり

七其他 岸本汽船會社は社外船中の最大船主にして十三隻五萬二千餘噸を有す營業所は西區南堀江通五丁目、原田商行十一隻二萬五千餘噸を擁し岸本に亞ぎ關西社外船の重鎮たり營業所西區阿波堀通五丁目、廣海仁三郎 古き海運業者にして現に五隻一萬四千餘噸の船隻を有す營業所西區江の子島、山本藤助 四艘一萬餘噸を有す營業所南區安堂寺橋通五丁目、大家七平 三隻七千餘噸を有す營業所西區幸町通二丁目、中村準策 三隻六千餘噸營業所西區薩摩堀東之町、林竹三郎 三隻五千餘噸營業所西區立賣堀北通六丁目、田中省三 二隻三千餘噸營業所西區金屋町一丁目、濱口駒太郎 二隻三千餘噸西區西長堀北通三丁目、永田三十郎 七隻三千餘噸營業所西區新炭屋町、森平藏 二隻三千餘噸營業所西區境川町、笠原六三郎 三隻二千餘噸營業所西區西長堀北通三丁目、鷹野隆三 二隻一千七百餘噸營業所東區久寶寺町一丁目、田中次太郎 一隻一千六百餘噸營業所北區下福島二丁目、小野清吉 二隻一千一百餘噸營業所西區中口町、對外貿易株式會社 二隻一千二百餘噸營業所北區船大工町、宇和島運輸會社支店 從事船六隻二千八百餘噸營業所北區富島町、阿波共同汽船會社 從事船六隻二千餘噸營業所北區富島町にあり。以上は汽船一千噸以上の所有者を擧げたるものにして、此他の小船主は枚舉に遑わらず。

第三款 航路

大阪港は現在に於ては臨港鐵道未だ成らず、諸般の施設尙完備せざるものあるを以て、遠洋航路船の定期寄港するもの比較的尠きも、朝鮮、北支那及内地沿岸航路の各定期船は殆んど大阪港を起點とし、其數近海航路十三線沿岸航路二十二線に達せり、此他孟買線上海線等定期船の臨時寄港するもの少なからず、殊に原料品を積載せる不定期貨物船に至つては、殆んど世界の各港より來致しつゝあり

近海航路

線名	寄港地	使用隻數	航海回数	船主若クハ取扱店
大阪支那線	天津、牛莊、芝罘、上海、名古屋、大阪、神戸、門司、仁川、大連、	三隻	每月二回	日本郵船株式會社
橫濱大連線	神戸、門司、大連、	二隻	隔週一回	大阪商船株式會社
大阪天津線	神戸、門司、大連、	四隻	每週二回	全
大阪仁川線	神戸、門司、(若クハ下關)釜山、木浦、蔚山、仁川、釜山、馬山、木浦、蔚山、仁川、	四隻	每月約八回	全
全	釜山、馬山、木浦、蔚山、仁川、蔚山、蔚山、	四隻	每月約二回	尼崎汽船部
大阪安東縣線	神戸、門司、仁川、鎮南浦、釜山、馬山、木浦、蔚山、仁川、鎮南浦、	一隻	每月約二回	大阪商船株式會社
大阪鎮南浦線	神戸、門司、釜山、元山、西湖津、新浦、城津、	一隻	每月約三回	全
大阪清津線	清津、溇津、西湖津、新浦、元山、釜山、	二隻	每月約一回	三上汽船部
全	神戸、大阪、橫濱、秋之濱、函館、小樽、復航ノ際、名古屋(寄港、	一十二隻	每月十五回	日本郵船株式會社
東廻小樽線	大阪、神戸、門司、基隆、定平、打狗、	四隻	每月四回	全
橫濱起點準定航線	神戸、油津、鹿兒島、大島、沖繩、宮古、八重山、	二隻	每月三回	大阪商船株式會社
沖繩經由大阪基隆線				

沿岸航路

線名	寄港地	使用隻數	航海回数	船主若クハ取扱店
大阪沖繩線	神戸、鹿兒島、大島、	協定船五隻	每月十回	鹿兒島郵船會社
大阪鹿兒島線	神戸、高濱、別府、細島、油津、	三隻	每日一回	大阪商船株式會社
大阪九州線	神戸、多度津、今治、三津濱、下關、博多、唐津、呼子、伊万里、平戸、佐世保、長崎、島原、大川、鹿兒島、	六隻	每月十五回	大阪商船株式會社
大川	門司、博多、呼子、唐津、伊万里、佐世保、長崎、平戸、島原、三	八隻	每月十四回	尼崎汽船部
大阪山陰線	神戸、下關、仙崎、萩、江崎、濱田、温泉浦、杵築、境、馬場、米子、安來、	四隻乃至五隻	每月約十五回乃至廿回	大阪商船株式會社
大阪中國線	神戸、坂手、高松、多度津、新津、尾道、糸崎、忠海、竹原、阿賀、音戸、鍋、吉浦、宇品、宮島、岩國、久賀、柳井、至津、上ノ關、室積、下松、三田尻、新川、門司、下ノ關、小倉、若松、	協定船十隻	每月二回	尼崎汽船株式會社

線名	寄港地	使用隻數	航海回数	船主若クハ取扱店
四國經由大阪下關線	神戸、高松、多度津、觀音寺、和田濱、川之江、三島、新居濱、西條、壬生川、今治、三津濱、中津、宇ノ島、關門、小倉、若松、西	四隻	毎月廿回	尼崎汽船部
大阪四國豐州線	神戸、高松、多度津、今治、高濱、川ノ石、八幡濱、吉田、宇和島、深浦、宿毛、佐賀關、大分、別府、日出、守江、門司、	一隻	毎月七回	大阪商船株式會社
四國經由大阪門司線	高松、高濱、大分、別府、門司、	二隻	隔日一回	全
大阪別府線	高松、高濱、大分、別府、門司、	一隻	隔日一回	全
大阪内海線	神戸、高松、多度津、今治、長濱、守江、日出、別府、大分、佐賀關、白杵、津久見、佐伯、土々呂、難波、	六隻	毎月十回	全
大阪四國線	神戸、高松、多度津、今治、高濱、長濱、川ノ石、八幡濱、吉田、宇和島、深浦、宿毛、(臨時寄港地)三航三航船越、	協定船五隻	毎日一回	全和島運輸株式會社
大阪四國島線	神戸、高松、多度津、觀音寺、川ノ江、三島、新居濱、四國島、西條、壬生川、	一隻	毎月十五回	和合社
大阪岡山線	神戸、牛窓、九幡、岡山、土庄、高松、日比、田ノ口、味野、下津井、丸龜、多度津、	三隻	毎日一回	尼崎汽船部
大阪播州線	兵庫、明石、高砂、木場、飾磨、網干、室津、阪越、相生、	二隻	毎日一回	全
大阪高松線	兵庫、那家、都志、湊、撫養、引田、三本松、津田、志度、	二隻	毎日一回	大阪商船株式會社
大阪高知線	神戸、	三隻	毎日一回	全
大阪由良線	兵、岩屋、俣屋、志筑、洲本、	三隻	毎日一回	全
大阪德島線	兵庫、	四隻	毎日一回	全
大阪甲浦線	加太、山良、沼島、福良、撫養、德島、榑泊、阿部、山岐、日和佐、幸岐、淺川、船浦、吹上、	三隻	毎日一回	全
大阪田邊線	加太、和歌浦、墨江、鹽津、箕島、湯淺、比井、御坊、印南、南部、	二隻	毎日一回	全
大阪三輪線	和歌浦、御坊、田邊、串本、古座、勝浦、	二隻	毎日一回	全

第四款 管海官衙其他

當港に於ける管海事務は北區玉江町一丁目所在大阪通信管理局海事部及大阪地方海員審判所の所管に屬し、船舶海員に關する検査登録及海事審判事項等を管掌す、其他築港及河川水面の行政警察は、大阪府警察部に於て之を管轄し臨時海港檢疫事務を取扱へり、河川行政は幹川及派流は府に於てし、枝川は市に於てす築港は未だ工事中に屬するを以て港務部の設置なきも錨地の指定、

入出港手續の一部等を便宜市役所港灣課に於て取扱ひ、棧橋及繫船浮標使用に對しても出願により無料使用を許可せり

其他帝國海事協會大阪支部(西區九條南通)は共同海損の決定、遭難船の臨檢及海上保險會社の依頼により改良船の檢定等を取扱ひ、日本海員接濟會大阪支部(西區本町三番町)は、下級海員の紹介傷病者の救済及慰安保護方法等に努力せり貨物に就ては郵船等主なる汽船業者協同の下に檢量所(高島町)を設け、押石其他の弊害を防止しつゝあり

水先案内に就ては、定期出入船に在りては之を要するものなきも臨時出入船舶にして水先案内を必要とする場合は、築港に在りては市役所港灣課に於て便宜之が勞を取り、河川出入船にありては水先案内者として免狀を有するもの類る乏しきも、安治川に於ては西區天保町福井某なるもの、又木津川に於ては西區難波島町島藤五郎なるもの専ら其業に當れり

西區本町三番町	磯 畑 安 藏	西區土佐堀	植 木 毅	北區下福島二	井 口 榮 吉
西區江ノ子島東町	日 下 部 直 三 郎	北區古川町	橋 本 仲 次	北區常安町	矢 野 長 四 郎
西區本町三番町	日 本 帆 船 同 盟 會	北區安治川南一	佐 々 木 次 三 郎	西區本町三番町	日 本 海 員 接 濟 會 大 阪 支 部
西區本町三番町	衣 笠 幸 次 郎	北區富島町	小 野 謙 大 郎	西區九條町	宮 嘉 三 郎
北區中之島七	吉 田 有 年	西區九條町	溝 口 時 廣	北區安治川南一	高 木 和 一 郎
西區本町三番町	柴 田 直 亮	西區九條町	中 山 信 成		

第五款 解舟及曳舟業

大阪は往昔より水運の利便最も發達せる所とて各種の解船夥しく、夙に川船業組合なるものありて市内及接續町村に散在せる上荷又は茶船と稱する種類の解船營業を取締り來りしが、其後第二川船業組合なるもの起り劍先テント及平田船等を糾合し前者と相俟つて之が取締に任せり、然れども此等は所謂川船なるものにして小なるは二三十石より大なるも百石を出でず、主として市内枝川へ自由に出入し得るを目的とせるものなるが、近時曳船業の發達に伴ひ阪神間附近沿岸及市内幹川等の曳船に適應せる大型解船の増加著しく、且つ最近石炭輸送の爲め遠く大阪と門司若松間に曳船を現出するに至れり、昨年末現在大阪に於ける此等解船(荷船以外の小舟を包含せず)總數は六千五百餘艘にして、此他大阪市の船鑑札を有せざるも事實上此地に營業せるものを加算

せば一萬餘艘にも達すべく此内曳船用の大型解船を所有し解船營業を爲せる主なるものを舉ぐれば左の如し

所 有 地	艘 數	積 石 數	平均壹艘積石數	所 有 者	艘 數	積 石 數	平均壹艘積石數
大阪商船株式會社	一一七	二七、五七〇	二三六	上 地 同 濟 部	三〇	三七、五五〇	一二五
合資會社富島組	一一七	一八、四九五	一四六	山 口 合 資 會 社	三八	七、八五〇	二〇七
神戸棧橋株式會社	三八一	一一三、五〇〇	三二四	株式會社ニッセル商會支店	五〇	一四、八五〇	二九七
木 元 解 船 部	七五	一七、二四〇	二四三	田 中 芳 松	二五	二、八五〇	一一四
兵 庫 共 榮 組	二五	五、二〇〇	二〇八	株式會社ヘルム兄弟商會出張所	九七	二六、三〇〇	二七一
運 輸 會 社	七〇	一九、六〇〇	二八〇	大 阪 解 船 會 社	三一	三、一〇〇	一〇〇
大 成 組	二〇	二、〇〇〇	一〇〇	其 他	四四	七、四八〇	一七〇
大阪築港曳船株式會社	四九	七、一五〇	一四三	合 計	一一九九	二八八、三三五	一九〇
鐵 政 解 船 部	二〇	一、四〇〇	七〇				

備考 一其他の欄内には個人船主を合算せり。

二神戸棧橋株式會社、兵庫共榮組、株式會社ニッセル商會、株式會社ヘルム商會、運輸會社、山口合資會社所有の解船中には神戸港に船籍を有するものもあるも阪神間を航行するを以て便宜本表中に計上す。

更に此等曳船に使用せる小蒸氣船は百十餘艘二千餘噸にして、其所有者の主なるものは神戸棧橋、ヘルム兄弟商會、木津川曳船大阪商船、多賀鹿藏外七十餘名なりとす。

### 第六款 造船所及船渠

造船所船渠及鐵工所等は安治川及木津川沿岸の各地に散在し、木津川の下流難波島一團及對岸には規模大ならずとも雖も數個の造船所あり、安治川には大阪鐵工所を稱し、其櫻島造船所は天保山分工場と共に造船獎勵法による資格を具備し、八個の船臺を備へ大なるは四千噸級のものを上築し得べし、殊に全所に目下築造中の木造乾船渠は長五百二十尺幅六十尺入渠最大船八千噸に對する設備を有す昨年中大阪鐵工所、原田造船所、小野鐵工所及永田造船所等主なる造船所に於ける新造船は七十隻一萬三千餘噸修繕船は三百六十七隻十九萬噸に達せり、現在の造船所及船渠左の如し

### 造船所

川 筋	名 稱	所 在 地	設 立 年 月	所 有 者
安 治 川	大 阪 鐵 工 所	大阪府北區安治川北通四丁目 西區木屋町	明治 一四・四	範 多 龍 太 郎
	全 全	全 全	全 全	全 全
	安 治 川 造 船 所	北區安治川一丁目	全 全	石 渡 岩 吉
	合資會社安治川鐵工造船所	北區安治川一丁目	全 全	上 野 麻 藏
	相 澤 造 船 所	西區石田町	全 全	相 澤 造 船 所
	藤 永 田 造 船 所	新炭屋町	全 全	永 田 三 郎
	前 田 造 船 所	松島町	全 全	前 田 卯 之 助
	小 野 鐵 工 造 船 所	難波島町	全 全	小 野 清 吉
	小 野 鐵 工 造 船 所	中 口 町	全 全	全 全
	三 原 造 船 鐵 工 所	南區木津川町一丁目	全 全	三 原 萬 之 助
	武 本 造 船 所	西區今木町	全 全	武 本 定 次 郎
	永 田 造 船 所	今 木 町	全 全	永 田 由 次 郎
	眞 柄 造 船 所	南區木津川町一丁目	全 全	眞 柄 要 人
	合資會社原田商行造船部	木津川町三丁目	全 全	合資會社原田商行
	全 全	全 全	全 全	全 全
	盤 飽 造 船 所	西區難波島町	全 全	盤 飽 岩 吉
	尼 崎 造 船 部	難波島町	全 全	尼 崎 伊 三 郎
	中 村 合 名 會 社	中 口 町	全 全	中 村 合 名 會 社
	全 全	全 全	全 全	全 全
	平 安 造 船 所	難波島町	全 全	兵 庫 谷 本 會 社
	大 原 造 船 鐵 工 所	府下西成郡津守村	全 全	大 原 鐵 助

### 船 渠

川筋	構造種類	上管	下管	上管	下管	上管	下管	満潮	干潮	入渠シ得ハ 最大船舶	所有者
安治川	石造	二五九・七	二五九・七	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	二七・七	七・六	一・五	大阪鐵工所
全	木造	一八〇・〇	一八〇・〇	五九〇	五九〇	三三〇	三三〇	九・〇	三・〇	八〇〇	大
全	木造	二八〇・〇	二八〇・〇	六六〇	六六〇	四四〇	四四〇	二・〇	六・〇	八〇〇	安治川造船所
全	木造(工事中)	五〇〇・〇	五〇〇・〇	一〇〇〇	一〇〇〇	六〇〇	六〇〇	三・〇	一・〇	一〇〇〇	合資會社 原田造船所
全	木津川	一三〇・〇	一三〇・〇	三三〇	三三〇	二六〇	二六〇	六・〇	三・六	一〇〇〇	安治川造船所
全	木造	二二〇・〇	二二〇・〇	五〇〇	五〇〇	二五八	二五八	四・八	七・二	三〇〇	合資會社 原田造船所
全	石造	二五〇・〇	二五〇・〇	三三〇	三三〇	二七〇	二七〇	三・〇	六・一	一七〇	藤永田造船所
全	石造	二八〇・〇	二八〇・〇	六〇〇	六〇〇	四〇〇	四〇〇	三・五	九・〇	二〇〇	藤永田造船所
全	木石造	二六〇・〇	二六〇・〇	五〇〇	五〇〇	三三〇	三三〇	三・〇	八・〇	一〇〇	大阪船渠株式會社
全	木石造	三〇〇・〇	三〇〇・〇	一六〇	一六〇	三〇〇	三〇〇	二・〇	九・五	一〇〇〇	大阪船渠株式會社
全	木石造	一六〇・〇	一六〇・〇	一五〇	一五〇	二二〇	二二〇	二・五	七・五	一〇〇〇	小野鐵工造船所
全	木石造	一八〇・〇	一八〇・〇	一七〇	一七〇	二二〇	二二〇	二・五	七・五	一〇〇〇	小野鐵工造船所
全	木石造	一八〇・〇	一八〇・〇	一七〇	一七〇	二二〇	二二〇	二・五	七・五	一〇〇〇	大原造船鐵工所

第七款 倉庫業

一主要倉庫及上屋 倉庫會社の主なるものは東京、大阪、安田及杉村、住友等にして、之を大阪に於ける五大倉庫とす、西濱及井上倉庫等之に次ぐ

五大倉庫要項

倉庫棟	東京倉庫大阪支店	大阪倉庫	安田大阪倉庫部	杉村倉庫	住友倉庫
總棟數	一〇〇	一三七	四二	五三	九二
前坪數	二二七	四三七	一〇二	一一六	二二九
積數(立方坪)	七〇四六	一〇、六八〇	二、五三七	二、四九八	七、四〇九
總棟數	一七六一五	二一、三六〇	六、〇八四	六、二二〇	二五、九三四

底下其他 建築 總棟數	坪數	積數(立方坪)
三	二、二九五	四、五九一
七	二、七四六	六、八六六
一	七一九	一、六三六
六	一、七三三	三、四六
二五	二、六〇六	五、二二

保税倉庫及上屋

(大正二年五月現在)

管理別	區	別	所	在	地	棟數	坪數
官有	大阪關稅	保稅倉庫	北區富島町			壹棟ノ内壹戸前	
	全	輸出入上屋	全			壹千〇叁坪	
	大阪關稅大阪關稅出張所	輸出入上屋	北區梅田町(大阪關稅内)			三百三十一坪	
	大阪關稅關稅出張所	輸出入上屋	北區櫻島地先埋立地			七百九十二坪	
	大阪關稅關稅出張所	輸出入上屋	西區築港埠頭地			九百五十四坪	
私有	大阪倉庫株式會社	私設保稅倉庫	北區中ノ島五丁目玉江町二丁目			壹千壹百八拾壹坪	
	全	私設上屋	大阪關稅内北區梅田町			七拾四坪	
	全	私設上屋	東成郡城北村大字友淵			壹千壹百八拾四坪	
	全	私設上屋	北區櫻島地先埋立地			貳百叁拾壹坪	
	全	私設上屋	北區中ノ島五丁目			叁拾八坪	
	全	私設上屋	東成郡城北村大字友淵			貳百五拾坪	
	全	私設上屋	北區中ノ島五丁目及全玉江町二丁目			八百九坪	
	全	私設上屋	北區富島町			壹百八拾六坪	
	全	私設上屋	北區下福島四丁目			四百七坪	
	全	私設上屋	北區富島町			百九拾貳坪	
	全	私設上屋	北區富島町			百拾七坪	

管理別	區	別	所	在	地	株	數	坪	數
合計	保	稅	倉	庫		五拾六棟			四千百拾參坪
									參千六百七拾壹坪

二倉庫出入貨物 尙ほ大正元年中以上五大倉庫の貨物出入總高竝に私設保稅倉庫に於ける出入總高を擧ぐれば左の如し

重要倉庫出入貨物表

品名	入庫總高		出庫總高		品名	入庫總高		出庫總高	
	入	出	入	出		入	出	入	出
內國米	三,五五八,八四六	三,三三三,〇七二	一,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	人造肥料	一,七〇〇,〇〇〇	一,七〇〇,〇〇〇	二,五〇〇,〇〇〇	二,五〇〇,〇〇〇
外國米	五,四〇〇,〇〇〇	五,三〇〇,〇〇〇	一,九〇〇,〇〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	鐵	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
大麥	三,六〇〇,〇〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	金屬製品	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇
小麥	二,五〇〇,〇〇〇	二,四〇〇,〇〇〇	一,七〇〇,〇〇〇	一,七〇〇,〇〇〇	雜金	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇
雜穀 (稗麥燕麥等)	八,九〇〇,〇〇〇	八,八〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	木	九,〇〇〇,〇〇〇	九,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
豆	三,九〇〇,〇〇〇	三,八〇〇,〇〇〇	五,九〇〇,〇〇〇	五,九〇〇,〇〇〇	雜	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
雜粉	二,三〇〇,〇〇〇	二,二〇〇,〇〇〇	八,五〇〇,〇〇〇	八,五〇〇,〇〇〇	軸	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
雜粉	二,三〇〇,〇〇〇	二,二〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	木	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
雜粉	二,三〇〇,〇〇〇	二,二〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	硝	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
精製糖	二,一〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	硝	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
粗製糖	三,五〇〇,〇〇〇	三,四〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	產	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
海產物	七,七〇〇,〇〇〇	七,六〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	支那	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
乾物類	二,四〇〇,〇〇〇	二,三〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	印度	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
酒類	六,五〇〇,〇〇〇	六,四〇〇,〇〇〇	九,〇〇〇,〇〇〇	九,〇〇〇,〇〇〇	雜	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
食料類	九,〇〇〇,〇〇〇	八,九〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	油及蠟	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇
茶葉	二,五〇〇,〇〇〇	二,四〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	計	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇
製菓	二,五〇〇,〇〇〇	二,四〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇					

私設保稅倉庫出入貨物表

倉庫名稱	品名	入庫		出庫		品名	入庫		出庫	
		入	出	入	出		入	出		
住友倉庫	豆類	二七,〇〇〇	二七,〇〇〇	二七,〇〇〇	二七,〇〇〇	織物	二七,〇〇〇	二七,〇〇〇	二七,〇〇〇	二七,〇〇〇
	砂糖類	三,六〇〇	三,六〇〇	三,六〇〇	三,六〇〇	陶磁器及硝子類	三,六〇〇	三,六〇〇	三,六〇〇	三,六〇〇
	酒類	三,一八一	三,一八一	三,一八一	三,一八一	鐵	三,一八一	三,一八一	三,一八一	三,一八一
	其他飲食物	八〇,七〇〇	八〇,七〇〇	八〇,七〇〇	八〇,七〇〇	其他金屬及全製品	八〇,七〇〇	八〇,七〇〇	八〇,七〇〇	八〇,七〇〇
大阪倉庫	紙類	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	其他	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
	織物類	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	計	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
	其他	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇					
東京倉庫	藥材化學藥及製藥	五,五〇〇	五,五〇〇	五,五〇〇	五,五〇〇	機械類	五,五〇〇	五,五〇〇	五,五〇〇	五,五〇〇
	織物	七,一〇〇	七,一〇〇	七,一〇〇	七,一〇〇	其他製品	七,一〇〇	七,一〇〇	七,一〇〇	七,一〇〇
	金銀類及全製品	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	計	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇

第八款 海上保險

東京、帝國、日本橫濱、共同及神戶等の、各海上保險會社にて協定せる、大阪より各地に至る海上運送保險率左の如し

自大阪至各地汽船貨物保險料率 (保險金百圓に對する特擔分損不擔保割合)

- 一 由長海峽及明石海峽間 金五 錢
- 一 鳴門海峽以西より讚岐三崎迄明石以西兩側の津迄 金五 錢
- 一 所以西上の關三崎以西三津濱 金六 錢
- 二三津濱より佐賀關門司馬關 二 錢

一 佐賀關海峽以南細島迄佐田岬以南既設船迄	金九	一 細島より野田岬に至る迄	金拾四錢
一 小倉より伊萬里迄沿岸	金九	一 平戸以南野田岬に至る九州西海岸	金拾貳錢
一 馬関より伯州境迄	金拾五錢	一 境港より能登國陸奥岬迄	金貳拾錢
一 綠剛岬より龍飛岬迄	金貳拾五錢	一 八月以南大吹岬迄の東海岸	金貳拾錢
一 大吹岬より遠州御前岬迄	金九	一 御前岬より大王岬迄	金七
一 大王岬より土佐室戸岬迄由長海峽鳴戸海峽以南	金六	一 室戸岬より既設船迄	金八
一 尻矢岬より室関に至り龍飛岬より江差に至る沿岸	金貳拾五錢	一 江差より増毛に至る沿岸	金參拾錢
一 増毛より室谷岬に至る沿岸及禮文、利尻島室関より野付に至る沿岸	金四拾錢	一 室谷岬より野付に至る沿岸及國後島	金五拾五錢
一 擇足、千島列島、樺太	金七拾錢	一 大島、琉球	金貳拾錢
一 八重山、臺灣、澎湖島	金四拾五錢	一 朝鮮、對馬	金拾五錢

自大阪至各地船船保險率

一 大阪と神戸、兵庫間 改良船	金八	一 神戸、兵庫と大阪間 改良船	金拾	一 通常船	金參拾五錢
一 堺、大阪間	金六	一 大阪和歌山間(曳船)	金拾貳錢	一 通常船	金貳拾五錢

第九款 回漕店及ステベドリア

海運貨物取扱關係業者たる回漕店、エゼント、ステベドリア、税關貨物取扱人等の主なるもの左の如し

名	稱	所屬	所	在	名	稱	所屬	所	在
---	---	----	---	---	---	---	----	---	---

豐 豫 組	大阪商船	北區富島町	稻垣運輸店	全	上	井上回漕店	全	上	南堀江三番町
宇和島運輸大阪支店	一般貨物	全	和合社回漕店	全	上	外屋回漕店	全	上	北堀江三番町
山本組(エゼント)	社外船	全	大庄回漕店	全	上	大阪船組	全	上	立賣堀南通高島
松井商會	日本郵船	全	松野回漕店	全	上	山中回漕店	全	上	北通六丁目
小今井合資會社	大阪商船	全	五洋商會	全	上	丸池回漕店	全	上	土佐堀五丁目
阿 攝 組	全	上	廣 運 組	全	上	望月回漕店	全	上	親南通二丁目
共成合資會社	一般貨物	全	山口合資會社	全	上	熊谷回漕店	全	上	東區橋三丁目
商船 韓 國 組	大阪商船	全	商船有魚組	全	上	加納回漕店	全	上	上
商船 肥 筑 組	全	上	平尾回漕店	全	上	村田回漕店	全	上	博勞町
商船 組出張所	全	上	日の丸組	全	上	後藤回漕店	全	上	南久寶寺町
商船 紀 勢 組	全	上	小栗合資會社出張所	全	上	平井合資會社	全	上	京橋二丁目
商船 山 陰 組	全	上	三上合資會社大阪支店(エゼント)	全	上				

二 ステベドリア

所	屬	所在	名	稱	所屬	所在	名	稱	所屬	所在	名	稱
内外日本郵船專屬	富島町	神戸棧橋會社支店	富島町	神戶棧橋會社支店	富島町	富島町	ニツケル商會支店	富島町	西長堀南	西長堀南	入江支店	
全大阪商船專屬	富島町	富島町	富島町	富島町	富島町	及標島	ライオン商會支店	富島町	西長堀南	西長堀南	上地大阪出張所	
全尼崎專屬	富島町	丹波	丹波	丹波	富島町	山口運送店	運轉會社支店	富島町	中ノ島	中ノ島	東京倉庫	
全三井物產專屬	富島町	三光合資會社	三光合資會社	三光合資會社	富島町	木元回漕店出張所	共榮組出張所	富島町	及標島	及標島	東京倉庫	
外國外國船及社外船	富島町	ヘルム商會支店	ヘルム商會支店	ヘルム商會支店	富島町	西長堀南	共榮組出張所	富島町	及標島	及標島	東京倉庫	

三 税關貨物取扱人



所	在	名	稱	所	在	名	稱	所	在	名	稱
富島町	築港	尼崎伊三郎	通關合資會社	梅田町及富島町	内國通運會社	富島町	築港	富島町	築港	ニッケル商會	東源號
全		通關合資會社		櫻	東京倉庫	川口町	築港	川口町	築港	東源號	岩崎吉松
全		商船韓國組		梅田町安治川及櫻島	大阪倉庫	櫻島	築港	富島町及築港	築港	岩崎吉松	神戸棧橋會社支店
富島町		ヘルム商會		梅田町及富島町	住友倉庫	富島町及築港	築港				

第十款 仲仕人足

海運貨物取扱人足は大略之を仲仕、濱仲仕、倉庫仲仕、齋仲仕及石炭仲仕等に區別するを得べし、尤も是等各種労働者は或程度迄は相互に移動する場合あるを以て正確なる員數を擧ぐることに困難なるも、大体に於て主なる仲仕業者に就き調査せる常備人足を擧ぐれば左の如し

一 築港埠頭地及櫻島

仲仕種類	常備人數	所	屬	仲	間	名	仲仕種類	常備人數	所	屬	仲	間	名
沖仲仕	七三	大阪商船株式會社		富島組付屬富榮組	濱仲仕	二	税關上屋貨物引取運搬				中	濱	濱
全	五五	日本郵船、神戸棧橋株式會社大阪支店		島田組	全	二	上				上	濱	濱
全	二〇	尼崎濱船部及社外船		間口組	全	二	上				上	濱	濱
全	二八	三井物産株式會社及社外船		三光合資會社	全	五〇	鐵道院其他				濱	中	濱
全	一〇	社外船		天満屋清水竹松	全	五	上				濱	中	濱
全	二八	秋田製材所及社外船		田中秀松	全	三	上				濱	中	濱
全	八	大阪運輸株式會社		黒田竹松	全	一五	井上倉庫及上屋陸揚				濱	中	濱
濱仲仕	一九	税關輸入上屋陸揚		清水仲間倉庫仲仕	全	二〇	櫻島東京倉庫				濱	中	濱
全	六	全上		大石組	全	一五	全大阪倉庫				濱	中	濱
全	四	ニッケル商會税關上屋陸揚及運搬		株式會社ニッケル商會	全	一	全				濱	中	濱
全	二	税關上屋貨物引取運搬		下濱組	全	一	全				濱	中	濱

二 富島濱

仲仕種類	常備人數	所	屬	仲	間	名	仲仕種類	常備人數	所	屬	仲	間	名
濱仲仕	一八	税關專屬		清水組	濱仲仕	二七	富島濱				大	西	久
全	四	全上		留井組	全	四六	日本郵船株式會社				清	水	市
全	九	全上		丹波組	全	一〇	全上				三	國	九
全	一八	富島濱		上濱組	全	四二〇	大阪商船株式會社				富	島	組
全	三三	全上		下濱組	全	一九	北安治川東京倉庫				東	京	倉
全	一〇〇	全上		尼崎濱船部	全	五五	北安治川及富島住友倉庫				東	京	倉
全	一〇	全上		北濱組	全	五	全				住	友	倉

備考 以上の外築港及富島共隨時臨時仲間を使用す其多き時は常備人數以上に達することあり。

右の外南北安治川筋に於ける石炭仲仕は同運搬業組合に於て統一せられ常備三百五十人内外を有し、材木取扱の齋仲間は木津川右岸二百四五十名、同左岸九十名、境川三四十名、尻無川六十名、道頓堀川五六名、西横堀百名、東横堀三十名、長堀川三百名其他天満堀川、高津入堀、梅田堀割、安治川口驛等を合せ總計一千三百人内外を有す、尙陸上運搬に従事する荷車仲仕と稱するもの全市にて六千人内外あり、各河筋に於ける陸揚積込等の一般仲仕は此等の内に包含せらるる以上は何れも常備仲間のみを掲げたものにて、此他「アンコ」と稱する臨時人足を業務の繁閑に應じ使用するものとす。

第十一款 炭水供給附船具商

大阪に於ける石炭賣買は習慣上斤を以て相場に建つ、價格は時に變動ありと雖も目下汽船燃料炭は、切込炭普通一萬斤四拾圓内外粉炭參拾七八圓内外とす、積込には百斤入の番を用ひ船積とし掛廻しにて受渡するを慣例とせり。給水は市營にして、其給水所は築港三條通四丁目及安治川上通一丁目同南通三丁目及三軒家一丁目の四ヶ所にして、養繕水は一噸參拾錢飲料水は一噸參拾五錢なり。

因に市内に於ける船具商及石炭商の主なるもの左の如し

所	氏名	所	氏名	所	氏名
北區安治川南通三丁目	今西林三郎	北區安治川南通三丁目	山本源吉	北區安治川北通三丁目	宗像牛之助
全	石田虎兵衛	全	山川甚三郎	全富島町	中井勝太郎
全	西尾小五郎	全	結城林清	西區北堀江上通三丁目	中野竹次郎
全	小野理三郎	全	三井物産會社	全江戸堀南三丁目	古河鑛業會社出張所
全	若田虎三郎	全	三有石炭商會	東區今橋通四丁目	三菱會社支店
全	加藤佐兵衛	全	宇部鑛業組合	全釣鐘町二丁目	大倉組支店
全					

二船具商

所	氏名	所	氏名	所	氏名
西區立賣堀六丁目	井上萬吉	西區南堀江一番町	藤本伊八	西區西道頓堀六丁目	山本熊吉
全	高田邦三郎	全	越原儀三郎	全靱南通五丁目	堀谷治兵衛
全	住田作五郎	全	木村巳三郎	北區古川町	門田定吉
全	赤尾保	全	遠藤吉太郎	全富島町	衣笠幸七
全	岩本成直	全	桑彌三郎	全安治川南通三丁目	高野商店
全	藤原堀東ノ町	全	山利商店		玉木勸七
全	北ノ町	全	大藤兄弟商會		上野恒三郎
全	京町堀五丁目	全	山本辰吉		
全	南堀江一番町	全			

第六節 商工業

第一款 商業

大阪が古來商業都市として發達し來り徳川幕府の專政時代に於て、尙ほ天下金穀の權を握り諸侯をして大阪商人の鼻息を窺はし

めたるが如き、恰かも古代伊太利に於ける自山都市に彷彿たる者あり、維新後百事改廢都市の盛衰亦地を異にせるものあるも、大阪市の商權は益其勢力圏を擴張し、現在に於ては特り關西に於ける中心市場たるのみならず實に東洋に於ける大市場たるに至り、斯く大阪の商業は其徑路に於て卸賣を本位とするを以て問屋なるもの、發達著しく、此等業務の種別に從ひ各所に一團を爲せるを普通とす、例之安堂寺町の鐵、谷町の古物、本町の綿糸綿布、道修町の藥種、靱の海産物、横堀の陶器に於けるが如し

最近の調査によれば大阪に於ける各種商業家は、國稅納付者のみにても三萬餘人其從業者は約十萬人に及び、其賣上年額は卸賣高三億餘萬圓、小賣高六千餘萬圓に達し各種會社拂込資本金一億八千餘萬圓を算す、之を外國貿易に見るも明治三十三年以前は輸入超過の状態にありしも、三十四年以降は其趨勢一變して輸出超過となり、貿易額は比年激増し既記の如く其半は神戸港を経由せるに拘らず、尙大阪税關扱の外國貿易額は大正元年度に於て一億餘萬圓に達せり、内國貿易は海運貨物のみにて一箇年六百餘萬噸此價格概算六億圓に達す、之に鐵道貨物其他を合せれば大阪市の内外貿易は、恐らく拾億圓を降らざるべく、之を倉庫保管貨物に見るも、市内五大營業倉庫の大正元年中出入貨物は、入庫一億七千七百餘萬圓、出庫一億七千五百餘萬圓にして、之を前年に比し入庫に於て二割四分參千三百萬圓出庫に於て壹割壹千五百萬圓を増加せり、

一取引所 公定相場の市場としては堂島米穀、大阪株式、大阪三品、大阪油の四取引所を有す、最近五箇年間に於ける賣買受渡高左の如し

取引所名	年次	賣買高	價格	受渡高	取引所名	年次	賣買高	價格	受渡高
米穀取引所	四一年	七,三三四,〇〇〇	一三三,五六三,三八	九,一〇〇,〇〇〇	株式取引所	四一年	五,四〇〇,〇〇〇	三六,一五九,五〇〇	二九七,〇〇〇
	四二年	一〇,九九六,〇〇〇	一四四,三〇四,六八	一六,八八〇,〇〇〇		四二年	九,六八八,〇〇〇	三三,一五八,四〇〇	七,八四〇,〇〇〇
	四三年	一一,三三三,〇〇〇	一五四,〇〇〇,九七	一四,三三〇,〇〇〇		四三年	八,六六六,〇〇〇	八四,三三三,七三	七,五〇〇,〇〇〇
	四四年	一八,九五五,〇〇〇	一八,六六八,二二	一九,〇〇〇,〇〇〇		四四年	八,二九九,〇〇〇	七八,九九,〇〇〇	五,三〇〇,〇〇〇
	大正元年	二五,二〇〇,〇〇〇	二九,一〇〇,三六	三〇,〇〇〇,〇〇〇	油取引所	大正元年	九,一四九,〇〇〇	一三三,五八〇,五三	六,〇〇〇,〇〇〇
		三三,三三三,三三	三六,〇〇〇,九一	五,八七〇,〇〇〇		四一年	九,八八五,〇〇〇	三,一七六,二一	一〇,五〇〇,〇〇〇
		一四,八九〇,〇〇	五,八〇〇,五〇	一四,四〇〇,〇〇〇		四二年	七,一六五,〇〇〇	二,一四六,一五	八,八〇〇,〇〇〇
		三,七四〇,〇〇	四九,〇〇〇,三三	三,三五〇,〇〇〇		四三年	七,三三三,〇〇〇	二,七三三,五五	一三,〇〇〇,〇〇〇
		七,三三三,〇〇	一〇,八三〇,九七	一〇,八三〇,〇〇〇		四四年	九,九九〇,〇〇〇	三,五八八,九四	一四,七五〇,〇〇〇
		五,五五五,〇〇	八,〇〇〇,〇〇	九,九〇〇,〇〇〇		大正元年	六,五五〇,〇〇〇	三,四三三,二二	一,一九〇〇,〇〇〇
三品取引所 (綿糸)	大正元年	八,〇〇〇,〇〇〇	一〇,一三三,五五	九,九〇〇,〇〇〇					

二市場 所謂市場とは主として日用食料品中の魚菜、果實、乾物等を羅賣其他の方法を以て賣買する現物市場にして、都市として必要缺くべからざるの機關たり、大阪に於ける此種市場は現在貳拾七箇所を算へ、内許可を経たる公設市場は拾四箇所にして其他は同業者の集合せる結果自然市場の外観を成せるものなり、公設市場は概して卸賣を主とし其他は主として一般小賣を爲すものなり、其名稱所在地左の如し。

東 區		西 區		南 區		北 區	
骨屋町市場	魚菜乾物類	内本町二丁目	空堀市場	魚菜乾物類	空堀二丁目		
難波魚市場	魚介類	江戸堀下通五丁目	三泉共同市場	魚青物	泉尾三軒家上ノ町	築港市場	魚菜乾物類
九條魚市場	魚物	京町堀上通五丁目	九木共同市場	魚菜乾物	木田通三丁目	九條魚市場	生魚
江ノ子島市場	生菜乾物	江ノ子島東ノ町	天保町魚市場	全	天保町	四寶島青物市場	魚
市岡青物市場	青物	市岡町	千島町青物市場	青物	千島町		四寶島町
高津黒門市場	鮮魚青物	高津町九番町	木津青物市場	青物	木津數津町	木津難波魚市場	魚類
木津青物雜市	青物	木津數津町	天王寺青物市場	青物	天王寺大道四丁目	難波青物市場	青物
田島町市場	青物乾物魚類	田島町	川上市場	青物魚鳥	四野田甲龜北ノ町	天滿魚市場	魚類
天滿青物市場	果實蔬菜	河内町一丁目	北野青物市場	果實蔬菜	北野堂山町	福島市場	魚菜乾物類
天滿裏街市場	海産物	天神橋筋町	野田戎市場	魚菜乾物類	西野田草間町		上福島中二丁目

第二款 工業

古來商業都市として發達し來りたる大阪は、維新文明の輸入に伴ひ更に工業都市として偉大なる發達を遂げ、現時に在りては東洋に於けるマンチエスターの稱あるに至れり、之を石炭消費量に見るも最近一箇年の統計は二十五億餘萬斤の多量に上り全國都市の第一位に在り、工業の種類は紡織業を第一とし、之に次ぐを金屬精煉、鐵製品、金屬製品、船舶、船具、製革、燐寸、人造肥料、印刷物等とす、殊に紡織業の如きは其工場數に於ても其錘數に於ても全國の半ば以上を大阪市附近に於て占有し、之が中樞機關たる大日本紡績聯合會、日本綿花同業會の如き何れも當地に設置せられ居れり、蓋し紡織業は本邦工業の最たるものにして大阪は實に其中心地たりとせば、單に此一事を以てするも大阪の工業が天下を風靡しつゝ、ある所以を知るに足るべし、明治四十四年末工場現在調左の如し。

種別	工場數	職 工		種別	工場數	職 工		種別	工場數	職 工	
		男	女			男	女			男	女
紡織	九七、一六六	三、三〇〇	二、七九九	硝子器	一四七	二、七〇六	三、五	紙類	一九一	三、三三三	一、〇九六
金屬精煉	三〇、八六六	一、四八八	五〇、三六〇	人造肥料	五	三、九	一、八	足袋裝束	二〇〇	四、四	一、〇〇〇
毛斯綸	三三	三、五	二、七	製藥	三	三、七	六、九	石	三	三、四	三、五
織物	三三	四、九	二、三	指物	七〇	一、八	三、三	車	三	一、五	一、〇
精米製粉	二四	三、三	三、〇	蠟燭	八	四、四	三、三	セメント	三	一、五	一、〇
染物	一〇	六、九	七、三	紙製品	三〇	七、七	六、八	刷毛	一	一、七	一、〇
製鐵品	八〇、一七九	六、三	一、九	糸物	一〇	二、六	七、七	刷毛	一	一、七	一、〇
金屬製品	四二	八、八	六、六	煉瓦坩堝	二	一、六	三、七	刷毛	一	一、七	一、〇
印刷物	一、九三	一、四	二、九	油味噌	九	一、八	三、三	朝服	九	四、〇	一、七
莫大小	三、四八	二、三	一、四	製油味噌	三	一、六	六、一	洋服	一	一、四	一、〇
製油	二、九	一、八	三、三	製作器具	七	一、七	三、七	化粧品	六	一、〇	一、〇
製革	一、一	三、二	二、六	玩具	一	一、一	三、六	靴	九	一、〇	一、〇
船舶器具	六	三、七	三、三	漆器	六	三、三	三、三	文房具	三	一、四	一、〇
洋傘	三〇	四、四	一、〇	度量衡器	四	三、七	三、三	履物	三	一、四	一、〇
燐寸	三	五、七	九、三	酒類	三	三、八	二、二	染料塗料	一	一、七	一、〇

種別	工場数		馬力	職工		製品価格	種別	工場数		馬力	職工		製品価格
	男	女		男	女			男	女		男	女	
組	三	一	一	五	三	一〇〇	農具	一	一	一	一	一	一〇〇
樂器	三	一	一	三	二	一〇〇	農具	一	一	一	一	一	一〇〇
花簀	三	一	一	三	二	一〇〇	農具	一	一	一	一	一	一〇〇
製造花	三	一	一	三	二	一〇〇	農具	一	一	一	一	一	一〇〇
製造水	三	一	一	三	二	一〇〇	農具	一	一	一	一	一	一〇〇
製造材	三	一	一	三	二	一〇〇	農具	一	一	一	一	一	一〇〇
製造アスベスト	三	一	一	三	二	一〇〇	農具	一	一	一	一	一	一〇〇
製造糖	三	一	一	三	二	一〇〇	農具	一	一	一	一	一	一〇〇
製造木	三	一	一	三	二	一〇〇	農具	一	一	一	一	一	一〇〇
製造力製品	三	一	一	三	二	一〇〇	農具	一	一	一	一	一	一〇〇
アルミ製品	三	一	一	三	二	一〇〇	農具	一	一	一	一	一	一〇〇
弦類	三	一	一	三	二	一〇〇	農具	一	一	一	一	一	一〇〇
蒲鉾	三	一	一	三	二	一〇〇	農具	一	一	一	一	一	一〇〇
蕪物	三	一	一	三	二	一〇〇	農具	一	一	一	一	一	一〇〇

以上は大坂市内に属するもののみを掲げたものなるも、工場の如きは経済關係上多く接續町村に設置せられあるを以て、大坂市の工業を説くに當りては當然是等をも併算せざるへからず、されは事實上に於ける大坂市の工業は恐らく前掲數字の倍額にも上るならんか、尙最近拾箇年間の趨勢左の如し。

年次	工場数	實馬力	職工		製品価格
			男	女	
明治三五年	四二四	三三〇	三〇〇	一三〇	一〇〇
明治三六年	四二八	三三三	三〇三	一三一	一〇一
明治三七年	五〇九	三六六	三三三	一四一	一〇二
明治三八年	五〇九	三六六	三三三	一四一	一〇二
明治三九年	五五六	三九三	三五九	一五三	一〇三

第三款 金融

大正元年末現在銀行数は本店二十七支店出張所六十四行及市内に本店を有せざるもの、支店出張所二十九行總數百二十行なるが市内に本店を有するもの、資本金總額は五千九百二十萬圓拂込額四千四百九十五萬六千二百五圓積立金一千五百一十一萬五千七百八圓にして之を銀行別に區分し營業の一斑を擧ぐれば左の如し。

種類別	銀行數	資本金總額	拂込額		積立金	預金	貸金	割引手形	有價証券	金銀有高
			男	女						
農工銀行	一	五〇〇,〇〇〇	一五五,〇〇〇	一五五,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	八五〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇
普通銀行	二	五〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一八〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一三〇,〇〇〇
貯蓄銀行	三	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
日本銀行支店	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他支店銀行	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	六	一,〇〇〇,〇〇〇	三,一五五,〇〇〇	三,一五五,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇

備考 右表に於て市内に本店を有する支店出張所の請勘定は本店の分に合算せり。  
大正元年末まで一箇年間の爲替關係を示せば左の如し。

爲替手形	農工銀行		普通銀行		貯蓄銀行		日本銀行支店		其他支店銀行		計
	取組高	仕拂高	取組高	仕拂高	取組高	仕拂高	取組高	仕拂高	取組高	仕拂高	
爲替手形	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇
荷爲替手形	六九,三七九	六九,三七九	六九,三七九	六九,三七九	六九,三七九	六九,三七九	六九,三七九	六九,三七九	六九,三七九	六九,三七九	六九,三七九
他所割引及代金取立手形	一八,四〇〇	一八,四〇〇	一八,四〇〇	一八,四〇〇	一八,四〇〇	一八,四〇〇	一八,四〇〇	一八,四〇〇	一八,四〇〇	一八,四〇〇	一八,四〇〇
取組高	三六〇,八〇九	三六〇,八〇九	三六〇,八〇九	三六〇,八〇九	三六〇,八〇九	三六〇,八〇九	三六〇,八〇九	三六〇,八〇九	三六〇,八〇九	三六〇,八〇九	三六〇,八〇九
仕拂高	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇

尙大阪手形交換所に於ける累年交換高左の如し。

年次	一ヶ年交換枚数	同上金額	年次	一ヶ年交換枚数	同上金額	年次	一ヶ年交換枚数	同上金額
明治三十九年	三,三三,三六	一,四三,八〇,二九	明治四二年	三,三六,三〇	一,四三,五三,六元	大正元年	三,〇六,六〇	一,四七,七五,二六
全四〇年	二,四三,六五	一,三二,七九,九六	全四三年	二,四六,四三	一,〇三,八六,七〇			
全四一年	二,六六,四九	一,四八,四二,二九	全四四年	二,七三,七七	一,三六,九八,八四			

## 第二章 船舶

### 第一節 出入船舶増加の趨勢

#### 第一款 築港開放以前の概況

大阪は古來内外貿易の要津として知られたるも、其港灣は遠く西方に展開して風波に曝露せられ、河津の用ふべきありと雖も、幅員水深共に近世の航洋船を容るゝに足らず、加ふるに河口は斷へず土砂の爲に埋没せられ、随つて浚渫すれば随つて堆積するの狀態にて、近時の商港としては殆ど何等の價値を認むる能はざるに至れり。

されば築港開放以前の大阪港なるものは、僅に帆船の出入と小型汽船の滿潮を待つて河川に溯航するものあるのみにて、航洋汽船の殆ど總ては遠く天保山沖に淀泊せり、然かも風波の爲め冬季の如きは荷役に堪へざる狀態にて、海難事故頻出し遂に船主をして大阪入港を嫌忌せしめ、延て貨客集散の關係上當然大阪を基點とすべき各航路も、神戸を基點とし船隻船を以て阪神間の接續を圖るに至れり、此れ今日築港の設備畧は完成せるに拘らず、尙は外航船舶の多くは神戸に入港し、大阪との間に船隻接續を爲せる所以にして、多年の慣習一朝にして變改し難きの致す所ならずんばあらず。

今大阪府入津料取立所の調査により築港以前の船舶出入状態を見るに、明治十年より同二十五年に至る十五個年間は一進一退増加の趨勢遅々として見るに足るべきなしと雖も、唯汽船のみは航運業の勃興に伴ひ漸次増進し、此期間に於て一個年九百八十七隻四萬二千五百餘噸よりして同七千二百二十一隻三十五萬九千二百餘噸に達するに至りたるも、尙其一隻當り平均五十餘噸に過ぎず、爾後明治三十五年即ち築港開放前年に至る十個年間は、日清役後の大膨脹時代に際會せるを以て、此期間に於て汽船は一萬一千餘隻百三十八萬七千餘噸に激増せり、殊に船型の増大著しく、一隻平均噸數は實に十六割餘を増加して一躍百二十六噸に上れり。

其他洋型帆船は亦四百八十隻よりして七千五百餘隻に躍進し、噸數の増加之に伴ひ、間船も亦七割三分を増加したりと雖も、獨

り和型帆船のみは隻數三割五分石數四割の減少を見たり、時連の然らしむる所蓋し當然の成行なるべし。  
 更に全出入船舶に就て之を見るに此十年間に於て隻數に於て三割五分噸數に於て一割一分を増加し、十一萬三千餘隻此噸數概算  
 三百七十餘噸に達せり、(石數船は十石を一噸に間船は一隻二十噸平均を見做し換算せり以下之に準ず)  
 即ち左表の如し。

築港開放前大阪港出入船舶年次表

年次	所名	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數
一〇年	安治川	六七	一	四三三	一	一七、四三〇	一	一八、八三三	一	四三三	一	一七、四三〇	一	一八、八三三	一	四三三	一	一七、四三〇	一
	木津川	一	一	一〇〇	一	八、六四六	一	八、六四六	一	一〇〇	一	八、六四六	一	八、六四六	一	一〇〇	一	八、六四六	一
	尻無川	一	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一
	計	九七	三	五三三	三	二七、一七六	三	二七、五七九	三	五三三	三	二七、一七六	三	二七、五七九	三	五三三	三	二七、一七六	三
一五年	安治川	三六〇	一	三九、九七	一	三、六七〇	一	三、六七〇	一	三六〇	一	三九、九七	一	三、六七〇	一	三六〇	一	三九、九七	一
	木津川	一五	一	九二	一	九、八〇三	一	九、八〇三	一	一五	一	九二	一	九、八〇三	一	一五	一	九二	一
	尻無川	一	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一	一	一〇〇	一
	計	三八五	三	四〇、九八	三	四三、四七三	三	四三、四七三	三	三八五	三	四〇、九八	三	四三、四七三	三	三八五	三	四〇、九八	三
二〇年	安治川	三九三	一	三九、七一九	一	三、九三三	一	三、九三三	一	三九三	一	三九、七一九	一	三、九三三	一	三九三	一	三九、七一九	一
	木津川	六	一	六〇	一	六、〇〇〇	一	六、〇〇〇	一	六	一	六〇	一	六、〇〇〇	一	六	一	六〇	一
	尻無川	一	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一	一	一〇〇	一
	計	三九〇	三	四〇、四九	三	四〇、七三三	三	四〇、七三三	三	三九〇	三	四〇、四九	三	四〇、七三三	三	三九〇	三	四〇、四九	三
二五年	安治川	七〇三	一	五五、一九五	一	五、〇三	一	五、〇三	一	七〇三	一	五五、一九五	一	五、〇三	一	七〇三	一	五五、一九五	一
	木津川	二六	一	七三九	一	七、三九	一	七、三九	一	二六	一	七三九	一	七、三九	一	二六	一	七三九	一
	尻無川	一	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一	一	一〇〇	一
	計	七三〇	三	六三、一〇四	三	六二、四二	三	六二、四二	三	七三〇	三	六三、一〇四	三	六二、四二	三	七三〇	三	六三、一〇四	三

年次	所名	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數
三〇年	安治川	九三六	一	九〇、九七	一	九、三六	一	九、三六	一	九三六	一	九〇、九七	一	九、三六	一	九三六	一	九〇、九七	一
	木津川	八三	一	三、三九	一	三、三九	一	三、三九	一	八三	一	三、三九	一	三、三九	一	八三	一	三、三九	一
	尻無川	一	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一	一	一〇〇	一
	計	一〇二〇	三	九四、四六	三	一三、〇四九	三	一三、〇四九	三	一〇二〇	三	九四、四六	三	一三、〇四九	三	一〇二〇	三	九四、四六	三
三五年	安治川	一〇、一〇	一	一、〇一	一	一〇、一〇	一	一〇、一〇	一	一〇、一〇	一	一、〇一	一	一〇、一〇	一	一〇、一〇	一	一、〇一	一
	木津川	八三	一	二、五五九	一	二、五五九	一	二、五五九	一	八三	一	二、五五九	一	二、五五九	一	八三	一	二、五五九	一
	尻無川	一	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一	一	一〇〇	一	一〇〇	一	一	一	一〇〇	一
	計	一〇、九三	三	三、〇六八	三	三、〇六八	三	三、〇六八	三	一〇、九三	三	三、〇六八	三	三、〇六八	三	一〇、九三	三	三、〇六八	三

第二款 築港開放後の趨勢

明治三十六年八月築港開放後の大阪港は面目一新し、二十八尺の水深は優に一萬噸級の汽船を入港せしめ、棧橋上屋等の諸設備は維繫荷役を自由ならしめたり、加ふるに河川整理の結果七八百噸級の内航船は自由に安治川に溯航するを得るに至りたるを以て、亦往年の不利不便を認むるに由なし、茲に於てか曩に大阪寄港を嫌忌したる船主も進んで航路を延長し來り、或は某点を大阪に移す等漸を逐ふて發達の緒に就けり、今此が進歩の跡を察するに明治三十六年開放初年に於て十二萬餘隻此噸數概算四百十七萬餘噸なりしもの、翌三十七年には十三萬餘艘四百四十一萬餘噸に上れるを始とし、比年増加の趨勢を持続し大正元年には十九萬一千餘艘七百三十二萬噸に達するに至れり、即ち既往九箇年に於て隻數五割二分噸數九割四分を増加したるものにして、之を前拾箇年の増加隻數三割五分噸數一割一分に比し宵壤の差あり、就中噸數の増加異常なるは以て築港開放の影響如何に大なるやを想はしむ。

更に之を汽船のみに見るときは、明治三十六年に於て一萬四千九百餘艘百七十五萬三千餘噸なりしもの、翌三十七年には日露戰役の餘波を受け入港艘數一萬一千餘艘に減退したるも、噸數は反對に百八十七萬餘噸に増大せり、爾來逐年遞増して大正元年には二萬三千五百餘艘三百五十五萬九千餘噸に達し、其増加の比は艘數五割七步噸數十割三分に該當す、而かも築港入港汽船の増

加は同期間に於て隻數三十四割八分噸數十七割に達し、各河川入津汽船の隻數十八割七分噸數五割七分増に比して特異の膨脹を示せり。

其他帆船及間數船の出入も此期間に於て約倍加せり、故に總入港船舶に對する汽船の隻數及噸數は尙ほ比較的尠なきを免がれず、即ち明治二十五年に於て總船舶に對し汽船の比は隻數八分六厘噸數二割一分、三十五年には同隻數九分七厘噸數三割七分、大正元年には同隻數一割二分噸數四割八分にして常に帆船及間數船の下に在り、然れども隻數に比し噸數の増加大なるを見れば今後期年ならずして優位を占むるに至るべし。

蓋し大阪港出入船舶にありて帆船及間數船の斯く多數を占むるものは、一は工業都市として帆船による原料品の入貨多なると、一は慣習上に基く神戸經由船船接續出入貨物の容易に減少せざるが爲めなりとす、而かも近時の趨向に鑑むれば、内國航路船の全部及東南洋航路船の大部が大阪に集中するの目必しも遠きにあらざるべし。

築港開放後大阪港出入船舶年次表

年次	所名	汽船	帆船	和型帆船	合計	換算噸數計	間數船	合計
三七年	築港	一、〇七三	九八、六八八	二、三五五	一、〇七三	九八、六八八	二、三五五	一、〇七三
	安治川	三、三六五	一、三九、一九八	四、七六三	三、三六五	一、三九、一九八	四、七六三	三、三六五
	木津川	一、四六七	六、六七三	二、六七三	一、四六七	六、六七三	二、六七三	一、四六七
	尻無川	一、三	一、三〇	一、三	一、三	一、三〇	一、三	一、三
三六年	築港	五、六	四、八八〇	四、七	五、六	四、八八〇	四、七	五、六
	安治川	二、五五七	一、六〇、一三七	四、六七	二、五五七	一、六〇、一三七	四、六七	二、五五七
	木津川	二、二九七	五、一、六七	二、七九	二、二九七	五、一、六七	二、七九	二、二九七
	尻無川	六、一	四、〇〇	一、	六、一	四、〇〇	一、	六、一

年次	所名	汽船	帆船	和型帆船	合計	換算噸數計	間數船	合計
三八年	築港	一、二八	九、三、一〇六	三、	一、二八	九、三、一〇六	三、	一、二八
	安治川	一、六、一〇七	一、六、六、一五八	四、八、三	一、六、一〇七	一、六、六、一五八	四、八、三	一、六、一〇七
	木津川	二、〇、九	六、六、四〇	三、三、三	二、〇、九	六、六、四〇	三、三、三	二、〇、九
	尻無川	三、	二、六	一、	三、	二、六	一、	三、
三九年	築港	一、九、五五	二、九、九、九六	七、八、七	一、九、五五	二、九、九、九六	七、八、七	一、九、五五
	安治川	一、五、四	一、一、二、五、四	六、	一、五、四	一、一、二、五、四	六、	一、五、四
	木津川	一、九、九	六、〇、三	二、八、三	一、九、九	六、〇、三	二、八、三	一、九、九
	尻無川	二、〇、二	三、九、五、五	八、五、四、八	二、〇、二	三、九、五、五	八、五、四、八	二、〇、二
四〇年	築港	一、五、四	一、一、二、五、四	六、	一、五、四	一、一、二、五、四	六、	一、五、四
	安治川	一、六、五、六	一、九、九、一、七	五、五、〇	一、六、五、六	一、九、九、一、七	五、五、〇	一、六、五、六
	木津川	一、九、九	六、〇、三	二、八、三	一、九、九	六、〇、三	二、八、三	一、九、九
	尻無川	二、〇、二	三、九、五、五	八、五、四、八	二、〇、二	三、九、五、五	八、五、四、八	二、〇、二
四一年	築港	一、五、四	一、一、二、五、四	六、	一、五、四	一、一、二、五、四	六、	一、五、四
	安治川	一、七、三、二	一、七、五、九、三	五、四、九	一、七、三、二	一、七、五、九、三	五、四、九	一、七、三、二
	木津川	一、五、一〇	四、八、九、五	三、五、八	一、五、一〇	四、八、九、五	三、五、八	一、五、一〇
	尻無川	二、〇、二	三、九、五、五	八、五、四、八	二、〇、二	三、九、五、五	八、五、四、八	二、〇、二
四二年	築港	一、五、四	一、一、二、五、四	六、	一、五、四	一、一、二、五、四	六、	一、五、四
	安治川	一、七、三、二	一、七、五、九、三	五、四、九	一、七、三、二	一、七、五、九、三	五、四、九	一、七、三、二
	木津川	一、五、一〇	四、八、九、五	三、五、八	一、五、一〇	四、八、九、五	三、五、八	一、五、一〇
	尻無川	二、〇、二	三、九、五、五	八、五、四、八	二、〇、二	三、九、五、五	八、五、四、八	二、〇、二

年次	所名	汽船		和型帆船		合計		換算噸數計	間數船隻	總合計
		隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數			
四三年	築港	一,五七九	一,三三三,七六一	七	九,三六一	一,五八六	一,三四三,〇七二	一,三三三,〇三三	一	一,五八七
	安治川	一,七九六	一,八九三,三四一	一	一,八四一,〇九〇	三,五八二	三,七三四,一三二	一,八四一,〇九〇	一	三,五八三
四三年	木津川	一,五九九	一,三三三,七六一	一	一,八四一,〇九〇	三,五八二	三,七三四,一三二	一,八四一,〇九〇	一	三,五八三
	計	三,九七四	三,五六一,〇四一	八	三,六八二,一八〇	七,一六四	六,九一七,二六四	三,六八二,一八〇	八	七,一七二
四四年	築港	一,七五二	一,三三三,七六一	一	一,八四一,〇九〇	一,七五三	一,三三三,〇三三	一,七五三,〇三三	一	一,七五三
	安治川	一,七九六	一,八九三,三四一	一	一,八四一,〇九〇	三,五八二	三,七三四,一三二	一,八四一,〇九〇	一	三,五八三
四四年	木津川	一,五九九	一,三三三,七六一	一	一,八四一,〇九〇	三,五八二	三,七三四,一三二	一,八四一,〇九〇	一	三,五八三
	計	三,九七四	三,五六一,〇四一	八	三,六八二,一八〇	七,一六四	六,九一七,二六四	三,六八二,一八〇	八	七,一七二
大正元年	築港	一,七五二	一,三三三,七六一	一	一,八四一,〇九〇	一,七五三	一,三三三,〇三三	一,七五三,〇三三	一	一,七五三
	安治川	一,七九六	一,八九三,三四一	一	一,八四一,〇九〇	三,五八二	三,七三四,一三二	一,八四一,〇九〇	一	三,五八三
大正元年	木津川	一,五九九	一,三三三,七六一	一	一,八四一,〇九〇	三,五八二	三,七三四,一三二	一,八四一,〇九〇	一	三,五八三
	計	三,九七四	三,五六一,〇四一	八	三,六八二,一八〇	七,一六四	六,九一七,二六四	三,六八二,一八〇	八	七,一七二

第三款 築港出入船舶

明治三十六年八月開放以來大正元年末迄に築港に入港せる船舶は、延隻數一萬三千四百隻、噸數九萬五千噸に達せり、之が累年増加の趨勢を見るに、開放翌明治三十七年には僅に三百八十六隻、一萬七千噸に過ぎざりしも、九箇年後の大正元年には二千二百七十九隻、百四十七萬五千噸に上り、隻數に於て五倍九分強、噸數に於て二倍八分強を増加せり、入港船舶の大部は汽船に

して洋型帆船之に次ぎ、就中一千噸未満の小型汽船多數を占むるも、増加の趨勢は大型汽船に著しきものあるは左表の示す處なり、但三十七八兩年は日露戰役に際し大型御用船の出入多かりし爲め、其一隻平均噸數は格段なる増加を示せり。

築港入港船舶年次表

年次	五百噸未満		一千噸未満		一千噸以上		計	均噸數	洋型帆船		汽船		計	噸數	隻數
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數			隻數	噸數	隻數	噸數			
三六年(八月)	三三	七,六〇〇	三〇	二七,四四四	四	六,八六六	六六	三,四六六	一	四七三	三三	三,四六六	三,四六六	一〇〇	一〇〇
三七年	三三	三,一九四	一八	一五,三二九	二	三,二四八	五三	五,七二〇	一	三三	三三	五,七二〇	五,七二〇	一〇〇	一〇〇
三八年	三三	三,三三三	六〇	五三,〇七六	一	一,〇〇三	九三	九,八六六	一	三三	三三	九,八六六	九,八六六	一〇〇	一〇〇
三九年	三三	一,七五九	五三	六二,一五〇	六	一,三三〇	九二	九,三〇六	一	三三	三三	九,三〇六	九,三〇六	一〇〇	一〇〇
四〇年	三三	一,三五六	五八	四八,〇三七	三	一,一五七	九三	九,五五〇	一	三三	三三	九,五五〇	九,五五〇	一〇〇	一〇〇
四一年	三三	一,九七四	五九	四三,九三三	三	一,一五七	九三	九,五五〇	一	三三	三三	九,五五〇	九,五五〇	一〇〇	一〇〇
四二年	三三	二,〇五二	五五	四〇,四九一	三	一,一五七	九三	九,五五〇	一	三三	三三	九,五五〇	九,五五〇	一〇〇	一〇〇
四三年	三三	一,六三四	五六	四二,一〇八	三	一,一五七	九三	九,五五〇	一	三三	三三	九,五五〇	九,五五〇	一〇〇	一〇〇
四四年	三三	三,六八八	六二	四七,七四一	四	一,一五七	九三	九,五五〇	一	三三	三三	九,五五〇	九,五五〇	一〇〇	一〇〇
大正元年	三三	三,〇八一	六〇	四四,九六七	四	一,一五七	九三	九,五五〇	一	三三	三三	九,五五〇	九,五五〇	一〇〇	一〇〇
計	三三	一,〇〇,〇〇〇	三〇	三,〇〇〇,〇〇〇	四	一,〇〇,〇〇〇	六六	一,〇〇,〇〇〇	一	三三	三三	一,〇〇,〇〇〇	一,〇〇,〇〇〇	一〇〇	一〇〇

備考 本表の外内外國軍艦一三〇艘出入せり尙和型帆船及間數船は之を含まず。

第二節 大正元年出入船舶

第一款 入港船舶と碇泊場所

大正元年中大阪入港船舶は汽船九千七百餘隻、三百二十九萬四千餘噸、洋型帆船一萬四千五百餘隻、百五萬一千餘噸、和型帆船四萬一千五百餘隻、五百三萬六千餘石、間船五萬六千三百餘隻にして、石數船を十石一噸、間數船を一隻平均二十噸に換算するときは、總出入船舶は十二萬二千餘隻、五百九十三萬六千餘噸に達す、之を荷役場所により區別せば、



一、汽船 安治川は汽船總隻數の八割一分を占むるも多くは三百噸以下の小型船なるを以て、其噸數は五割四分に當るに過ぎず、之に反し築港は隻數に於て一割八分を有するに過ぎざるも、主として五百噸以上の大型船なるを以て、噸數に於ては四割四分を占む、其一隻平均噸數は築港八百二十九噸、安治川二百三十一噸、木津川百〇二噸にして、合計一隻平均噸數は三百三十五噸なりとす。

二、洋型帆船 其入港隻數は安治川五割四分、木津川二割九分強にして、築港及尻無川は兩者を合せて、僅かに六分弱に過ぎず其一隻平均は築港九十四噸、安治川七十八噸、木津川六十四噸及尻無川二十九噸にして總平均一隻は七十二噸なりとす。

三、其他 和型帆船は木津川其大部を占め尻無川、安治川之に次ぐ、總一隻平均石數は百二十一石に相當す、間數船は安治川、尻無川、木津川及築港の順序にして安治川四割四分強、尻無川三割弱、木津川二割弱、築港五分強の割合を示せり。

之を要するに築港は汽船、安治川は小型汽船及洋型帆船、木津川は和洋型帆船、尻無川は間數船及和型帆船の碇繋場と見るべきなり、尻無川に間數船の比較的多數に入津するは市内中心への最捷路たるに依るものにして、同川改修の曉は間數船の大部を吸収するに至るべし。

更に總入港船舶の一日平均を算出するに汽船二十六隻八千八百九十一噸、洋型帆船三十九隻三千噸弱和型帆船百十三隻一萬三千七百六十石、此換算噸數千三百七十六噸、間船百五十四隻換算噸數三千八十噸、總計概算三百二十二隻一萬六千三百餘噸とす、之が入港の徑路を見るに、築港關門を通過して入港するもの一日平均、汽船二十六隻八千八百五十噸、洋型帆船二十三隻二千噸、和型帆船四千七隻七千四百七十餘石、間數船百三十餘隻、合計換算二百二十六隻一萬四千餘噸にして、内築港に碇泊するもの汽船四隻三千八百八十餘噸、帆船其他十二隻、安治川を溯航するもの、汽船二十一隻四千九百六十餘噸、帆船其他百二十一隻、尻無川に入津するもの帆船其他八十隻なり、此外築港關門を通過せずして直に木津川に入るものは、汽船一隻弱四十噸餘、帆船其他九十三隻に過ぎず、以上の外阪神其他よりの曳船用小蒸氣船及築港河川間航行の各種船舶六萬六千二百六隻、此噸數概算百三十三萬餘噸あり、之等を併算するときは各河川を溯航する船舶の一日平均は、安治川三百四十九隻木津川百十六隻尻無川百二十三隻に達すべきなり、以て各河川の能力か如何に極度に發揮せられつゝあるやを窺ふに足らんか。

大正元年大阪入港船舶表

船種別	築港		安治川		木津川		尻無川		計	
	隻數	又噸數	隻數	又噸數	隻數	又噸數	隻數	又噸數		
五十噸以上	九	五,〇四六	六七	六,七六八	一〇〇	九,五〇〇	一一	八,六六一	一八七	一,〇〇,七七八
百噸以上	三三	三,〇六一	一一〇	九,五三七	五〇	五,七五〇	一一	五,六一	一九五	九四,七七八
三百噸以上	四	一〇,五三三	一九	六,二一六	一	一	一	一	六	二,〇六九
五百噸以上	六	四,〇八七	二七	一六,三三三	一	一	一	一	八	四七,〇四八
千噸以上	二	三,七三九	一	五,五〇八	一	一	一	一	五	五五,〇四八
二千噸以上	一	二七,三九	一	一,八六五	一	一	一	一	四	二七,五九
計	一七六	一,四三,三三三	七六〇	一,八六,五三三	一五〇	一五,二五〇	一一	九,七六六	一,〇三六	三,一五四,二四六
一隻平均噸數	五	八元	一三	二四元	一五	一〇一元	一	八六元	一三	二八元
三十噸以下	一五	五	一三六	一,七〇,四四	九五	一,五,四〇六	二二	一,九六五	一五七	三,四五四
三十噸以上	一一	五,四九	三三	一五,一三七	一〇八	一〇,〇八	七	二,五九	一五九	六四,九九九
五十噸以上	三三	三,〇六一	一一〇	九,五三七	五〇	五,七五〇	一一	五,六一	一九五	九四,七七八
百噸以上	四	一〇,五三三	一九	六,二一六	一	一	一	一	六	二,〇六九
千噸以上	二	三,七三九	一	五,五〇八	一	一	一	一	五	五五,〇四八
計	一七六	一,四三,三三三	七六〇	一,八六,五三三	一五〇	一五,二五〇	一一	九,七六六	一,〇三六	三,一五四,二四六
一隻平均噸數	五	八元	一三	二四元	一五	一〇一元	一	八六元	一三	二八元
五十噸以上	九	四,八七三	六七	六,七六八	一〇〇	九,五〇〇	一一	八,六六一	一八七	一,〇〇,七七八
百石以上	三三	三,〇六一	一一〇	九,五三七	五〇	五,七五〇	一一	五,六一	一九五	九四,七七八
百五十石以上	四	一〇,五三三	一九	六,二一六	一	一	一	一	六	二,〇六九
二百石以上	六	四,〇八七	二七	一六,三三三	一	一	一	一	八	四七,〇四八
三百石以上	二	三,七三九	一	五,五〇八	一	一	一	一	五	五五,〇四八
四百石以上	一	二七,三九	一	一,八六五	一	一	一	一	四	二七,五九
計	一七六	一,四三,三三三	七六〇	一,八六,五三三	一五〇	一五,二五〇	一一	九,七六六	一,〇三六	三,一五四,二四六
一隻平均噸數	五	八元	一三	二四元	一五	一〇一元	一	八六元	一三	二八元

船場	種別	築港		安治川		木津川		尻無川		計
		隻数	又ハ石数	隻数	又ハ石数	隻数	又ハ石数	隻数	又ハ石数	
間	五百石以上	三	一、六六九	三〇	一、四七四	四六	二、四一〇	一、三二〇	三、二二〇	五、〇六六
	一隻平均石数	五〇九	六、六六八	二五四	一、四七四	一七〇	二、二九七	一、三二〇	三、二二〇	五、〇六六
總計		五九六	一、五四八、八九九	五、四四三	三、〇〇三、三三三	三、四二六	八、〇〇八、八九九	二、九三六	四、三、五五五	一三、一、二四四

曳船用小蒸汽船及築港河川間航行船舶

船場	種別	築港		安治川		木津川		尻無川		計
		隻数	又ハ石数	隻数	又ハ石数	隻数	又ハ石数	隻数	又ハ石数	
流	帆	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	帆	一	一	一	一	一	一	一	一	一
和型	帆	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	帆	一	一	一	一	一	一	一	一	一
間	帆	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	帆	一	一	一	一	一	一	一	一	一
換算噸數計		一	一	一	一	一	一	一	一	一

第二款 出入船舶航路關係

一内外航路の消長 大阪港出入船舶の従事航路は内航にありては全國各港に及び、所謂津々浦々の末迄も航路の通せざるなき有様なるか、外航にありては定期航路は朝鮮北支那方面に至るものを主とし、遠洋航路船の寄港するもの尠なし、斯く内航船舶の比年増加するに拘らず、外航船舶の甚だ振はさるものあるは、主として大阪築港の設備未だ備はらざると、臨港本線の未だ埠頭地に達せざるに基因するも、亦外國貿易多年の商慣習上容易に神戸より離脱する能はさるものあるか爲のなり、然れども臨時寄港船は殆んど世界の各港より來至し、定期航路船の寄港も漸次増加するの趨勢を有するを以て、築港設備の進捗と俟つて遠

からすして其面目を一新するなるべし。

之を大正元年に見るに、入港汽船總數九千七百二十六隻、三百二十五萬四千噸中、内航船は隻數に於て九割五分、噸數に於て八割三分を占め、外航船は僅に隻數に於て五分、噸數に於て一割七分を有するに過ぎず、即ち内航九千二百二十四隻、二百七十萬四千噸に對し、外航は五百二隻、五十四萬九千噸にして、一隻平均噸數は内航二百九十四噸、外航一千九十四噸なり、而して内航船は安治川を溯航するもの最も多く、隻數八割五分、噸數六割七分を占む、築港に碇繋するものは隻數一割三分、噸數三割三分に相當す、其一隻平均は安治川二百三十一噸、築港七百十八噸なり、外航船は水深の關係上總て築港に碇泊するものにして内、外國船十八隻、五萬六千六百六十五噸あり、其大部は原料品を搭載せるものにして、英國船多數を占む。

大正元年入港汽船内外航路表

内外航路	従事船内外別		築港		安治川		木津川		尻無川		計
	内國	外國	隻数	噸數	隻数	噸數	隻数	噸數	隻数	噸數	
内航	一、三六	一、三六	八、五三六	七、八五八	一、八五五	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	二、七四四	
外航	一、八	一、八	三九、〇三	五〇、六六五	一、八	一、八	一、八	一、八	一、八	四九、〇三	
計	一、三七	一、三七	八、五七五	七、八七六	一、八六三	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	二、七九三	

因みに當港は原料品積載の不定期船比較的多きを以て、是等の船舶は概して片荷なるを免かれず、故に出港船にありては無載貨船尠ならず。

大正元年出入載貨船及空船隻數表

出入別	内航		外航		計		内航		外航		計
	隻数	噸數	隻数	噸數	隻数	噸數	隻数	噸數	隻数	噸數	
載貨船	八、四二	二、三四七、七六	一、八	四、六六	一〇、二〇	二、三四二、四二	八、八五	二、三四九、〇〇	一、八	四、七〇	一〇、二〇
空船	八、三	二、三四七、七六	一、八	四、六六	一〇、一	二、三四二、四二	八、八五	二、三四九、〇〇	一、八	四、七〇	一〇、一

二 瀨船の航路 大正元年大阪港出入瀨船中、内國航路にありて従事船の最も多数なるは、瀬戸内海各航路即ち四國中國各港より九州沿岸に至るものにして、出港六千三百餘隻百四十六萬七千餘噸、入港六千五百餘隻百五十七萬五千餘噸に達し、總出入瀨船の過半を占む、其主なるものは淡路由良線の二千餘隻を首とし、九州各港の一千九百餘隻、徳島線の一千五百餘隻之に次く、其他高松、四國、中國各線の來往頗る頻繁にして、航路の殷盛實に全國に冠たり、然れども此等内海航路の船型は概して小にして二百噸乃至七百噸を出でず、總て貨客兼用船なり、蓋し瀬戸内海沿岸地域は天與の寶庫にして、物資の豊富なる、海岸線の屈曲多き、海内其比を見ざる處なり、就中四國沿岸地方は鐵道連絡の便を缺くを以て、關西の中心市場たる我大阪との航運關係は最も密接にして、一日平均四十餘隻の瀨船は、煤煙相望み舳舻相啣みて此等沿岸各港を縫航しつゝあり。

瀬戸内海に次くを南海岸即ち紀伊沿岸線の出入一千七百餘隻及高知線の同七百餘隻とす、共に紀淡海峽より太平洋に出て、一は東して紀伊各港を訪ひ、一は西して高知に至るものなり、兩者を合して出港一千百餘隻三十一萬四千餘噸、入港一千二百餘隻二十九萬七千餘噸にして、一隻平均噸數前者は二百噸後者は四百噸内外なり、沖繩及臺灣との航運も比較的頻繁にして、出港百六十一隻十五萬三千六百餘噸、入港二百三隻二十一萬四千餘噸を算し、入港に偏傾せり、殊に臺灣航路を然りとす、之れ原料品を搭載せる不定期船の入港多きか爲なり、而して前者は貨客併用船なるも、後者は貨物を主とし一隻平均前者は八百噸内外、後者は一千五百噸なりとす。

日本海に面せる山陰北陸航路は、出港二百四十隻十萬二千餘噸、入港二百六十二隻十一萬四千餘噸にして、従事船型は四百噸乃至六百噸なりとす。

東海沿岸より北海道方面に至る各航路は、名古屋線の出入約八百隻を除けば、他は東京方面及北海道の各一百餘隻あるのみにて、北海道よりは入港船多し、此れ木材海産物等積載の臨時船多きに依る、従事船型は五港定期東廻り線の二千八百噸を最とす、其他北海樺太線、西廻り北海線等あるも擧ぐるに足らず、因に元年末以降五港定期其他北海方面への定期寄港船増加せるを以て、今後同方面への航運は著しく増加すべきならんか。

朝鮮航路は出港二百七十三隻二十萬七千餘噸、入港二百七十二隻二十萬四千餘噸にして、其大部は大阪を基点とせる貨客併用の定期船なり、船型は北朝鮮航路に大にして、一隻平均一千三百噸内外を有するも、其出入は一箇月僅に四、五回を算するのみ、之に反し南朝鮮航路は一隻平均六百餘噸に過ぎざるも、其航海回数は十八九回以上に達せり。

外國航路は出港二百五隻二十八萬八千餘噸、入港二百十隻三十一萬二千餘噸にして、一隻平均噸數は出入とも一千四百餘噸に過ぎず、是れ主として近海航路に限られ、且つ定期航路としては僅に大連線及北支那航路を有するのみなるによる、大連線は定期不定期を合して、出港百十九隻、入港九十四隻、北支那航路は出港六十四隻入港七十七隻を算す、其他の航路は總て不定期船にして、入港は孟買棉花搭載船、上海線の臨時寄港、米國のタンパー及亞弗利加のサファジャ、スワツクス等よりの燐礦石積載船并に南洋方面よりの砂糖及米積取船等を主とせり。

之を要するに内航にありては瀬戸内海沿岸より九州を経て沖繩に至る區間最も密にして、東海より北海及北陸、山陰方面に疎なり、朝鮮航路は南沿岸を主とし、北沿岸は比較的閑散なり、其他大連及北支那方面へは大阪を本位として航運頻繁なるも、要するに外航は東洋方面の一局部に偏し、遠洋航路に依る貨物は殆んど神戸を経由しつゝあるものなり。

瀨船航海別表

航路線名	出				入			
	隻數	總噸數	登簿噸數	從事船一隻平均噸數	隻數	總噸數	登簿噸數	從事船一隻平均噸數
内地	八六	三〇三、三六	一三三、六三	三〇〇	五三	三六、七三	一六、五八	三三
紀伊	一、〇一〇	三九、四九	三三、七〇	三三	一、〇一〇	三九、四九	三三、七〇	三三
山	三〇〇	六、七六	三、三六	二二	三〇〇	六、八二	三、三九	三三
甲	七七	一四、八〇	一四、七四	三三	七七	一四、八〇	一四、七四	三三
徳島	五五	一〇、五九	六、七八	一八	五五	一〇、八四	六、一七	三三
高松	五五	一〇、〇九	四、八三	一八	五五	一〇、五五	三、二四	三三
高知	五五	一〇、〇九	四、八三	一八	五五	一〇、五五	三、二四	三三
四國	五五	一〇、〇九	四、八三	一八	五五	一〇、五五	三、二四	三三
播洲	三〇〇	三六、〇二	三三、七五	三三	三〇〇	三六、〇二	三三、七五	三三

航路線名	出		入	
	隻	噸	隻	噸
岡山線	365	6,710	364	6,793
下ノ関線	589	12,913	580	12,306
内海線	384	3,018	353	1,693
別府線	1	1	33	28,000
鹿兒島線	331	1,695,334	328	1,704,233
大川線	36	3,000	59	38,000
九州線	37	4,377	68	5,979
沖繩線	27	1,151	29	1,150
南大東島線	1	2,103	3	4,326
横打線	15	4,170	16	38,866
其他臺灣沿岸線	28	4,154	34	15,644
山陰線	34	1,199	33	1,575
大北線	36	2,896	33	27,888
名古屋線	397	1,966,733	405	1,900,000
其他東海沿岸線	54	1,000,677	57	1,000,000
東山沿岸線	10	8,499	17	33,877
東冠小樽線	1	5,101	5	19,799
北海道及樺太沿岸線	11	2,431	8	10,404
朝鮮計	842	3,635,777	845	4,000,000
北朝鮮	33	37,000	33	28,555
南朝鮮	33	11,000	52	100,000
北朝鮮	33	11,000	52	100,000
計	3,733	36,850,000	3,733	36,850,000

外 國	出		入	
	隻	噸	隻	噸
關東洲	219	2,684,486	219	2,684,486
北支那	6	107,553	7	118,733
長江流域	10	21,800	7	16,836
交趾支那	1	1,559	2	5,836
英領印度	1	1	1	1
南洋諸島	3	5,599	3	4,033
英吉利	1	1	1	1
亞米利加	1	1	1	1
亞弗利加	1	1	1	1
計	235	2,713,200	236	2,713,200
總計	888	44,463,200	869	44,563,200

三帆船の航路 帆船の出入は汽船と異なり、一定の航路なるものを有せず、隨時隨所に航海するものなるを以て、之に關する調査の困難なるは實に意料の外にあり、當港に出入する帆船は一日四五百隻の多數を占め、帆走獨航するもの、曳船せらるるもの、相望み相追ふて寸刻だも休止するなし、此等の載貨は同漕店の取次によるものあり、貨主直接の托送に依るものあり、或は委託販賣に屬するものあり、其運輸關係頗る錯雜せるを以て、碇繋場所の如きも一定せず、荷役も一日にして積卸を終るものあり、或は旬日、月餘に渡りて滞泊し而かも空船にて出港するものある等殆んど模索するに苦むものあり、入港にありては幸にして大阪府入津料取立所の協力を得、稍完全なる調査を爲すを得たるも、出港に關しては一部分を除くの外、任向地、船種等詳細を缺くの已むなきに至れり、故に茲には暫らく入港帆船の仕出地關係を記述するに止むるも任向地關係亦是と大差なかるべきか。

大正元年中帆船の入港は十一萬二千三百餘隻にして、其仕出地は多方面に亘れりと雖も、大部瀬戸内海沿岸及當地附近より來

航するものにして、遠く隔絶せる地方よりするものは稀なり、外航の如きは僅に三隻千六百餘噸あるのみにして、内二隻はポーランドより米利堅松を積載し來り、一隻はカムチャツカより魚類を輸送し來れるものなり、而して航行の最も頻繁なるは阪神間航行の所謂解船なるものにして、其延入港隻數實に三萬三千餘隻に上れり、是等は悉く神戸經由大阪出入貨物の接續運送に従事せるものにして、其積量大なるは二三百噸に達し小なるも二三十噸を下らず、之に次で淡路の一萬三百餘隻、紀伊の九千三百餘隻、播磨の八千三百餘隻及神戸を除ける攝津沿岸各港の六千七百餘隻とす、内淡路、播磨及攝津各港よりするものは百石以下の和型帆船及間數船多數を占め、紀伊よりするものは洋型帆船多く、一隻平均積量四十二噸を示せり、筑前よりするものは大部洋型帆船にして船型も亦大に、従事船一隻平均九十三噸に達す、此は主として若松港積出石炭の回漕に従事するものにして、河川隨所に見る石炭船即ち是なり、其他四國及中國沿岸地方より入津するもの亦少なからず、内海に面せる地方よりするものは、其船型概して小にして和型帆船多し、阿波よりするもの、如きは、三千百餘隻中二千三百餘隻は和船にして、洋型帆船は七百五十隻に過ぎず、其一隻當りも洋型二十七噸和型百十餘石なりとす、然れども太平洋に面せる土佐各港よりするものは、一千八百餘隻中和型帆船は僅に百餘隻にして、其一隻平均噸量も洋型六十六噸、和型百五十石内外を示せり、尙ほ長門よりするものは船型比較的大なり、是れ本山炭積載船多きに依る、其他九州各港、東海及日本海方面よりの入港は、其數少なしと雖も大型船多し、蓋し瀬戸内海は風波平穩にして帆船の航行に適せると、大阪輸入品の大部を占むる原料品の輸送は帆船を利益とし、且つ大阪港に於ける河川の自由なる脈絡は、帆船の入津に至大の便宜を與ふるか爲ならずんはあらず、因に帆船は精製品の輸送に適せざるを以て出港に際しては其七八割迄は空船なりとす。

入港帆船仕出國別

内地	國名	洋型帆船		和型帆船		計	平均噸量		間數船					
		隻數	噸數	隻數	噸數		隻數	噸數						
神戸		三、〇六	八、八六	一、〇八	一、九三	九六	三、九七	四、一三	五、四〇	二、四〇	三、六七	六、〇七	九、〇七	一、九六

沖繩	肥後	肥前	筑前	筑後	豊前	薩摩	日向	日向	豊後	長門	周防	安藝	備前	備中	備後	播磨	土佐	伊豫	讃岐	阿波	淡路	紀伊	和泉	其他攝津
五	二	二	一〇	一〇	六	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
八	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

國名	入港帆船		洋		型		帆船		和		型		帆船	
	總隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
臺灣	1	100												
石見	3	300												
出雲	1	100												
伯耆	1	100												
但馬	1	100												
伊勢	1	100												
志摩	1	100												
尾張	1	100												
三河	1	100												
武藏	1	100												
伊豆	1	100												
越前	1	100												
越後	1	100												
北海道	1	100												
外國	1	100												
計	11	1100												
總計	11	1100												

四隻船用小蒸汽船 大阪港出入汽船の一隻平均噸數が常に低位にあるは、河川湖航の小型船多數を占むるが爲なるも、一は曳船用小蒸汽船の出入頻繁なるに依るものなり、前掲入港船舶統計表中、築港以前天保山沖に淀泊せる大型船舶に就ては、記録

散佚して統計の徴すべきものなし、故に三十六年築港開放以前の船舶統計數字は、入津料取立所の調査による河川入津船舶のみを掲げたるものなれば、事實上の大阪入港船舶としては多少の遺漏あるを免かれず、而して入津料取立所の調査表は載貨の有無を區別せざるを以て、既往に溯りて貨客搭載船のみの數字を求むるに由なし、今假りに河川入津汽船を百噸以上と以下に分つに、後者は常に前者に比し多數を占むるも増加數は著しく遜色あり、且つ一隻當り平均噸數も漸次低下せるを見れば、曳船用小蒸汽船は其大部分なるを認むるに足る。

百噸未満河川入津汽船表

年次	百噸以上		五十噸以上		五十噸以下		年次	百噸以上		五十噸以上		五十噸以下	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數		隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
明治十年	4	590	1	100	1	100	明治三十年	3	345	1	100	1	100
全十五年	15	1,976	1	100	1	100	全三十五年	5	594	1	100	1	100
全二十年	5	536	1	100	1	100	全四十年	6	647	1	100	1	100
全二十五年	2	273	1	100	1	100	大正元年	7	733	1	100	1	100

更に明治四十一年以降五箇年間に就き、安治川に入津せる曳船用小蒸汽船を調査したるに、常に入津汽船の過半を占め、百噸以下のものは大部是に屬す、即ち明治四十一年には入津汽船一萬七千餘隻中五割三分を、大正元年には同一萬九千餘隻中六割一分を有し、共に百噸以下の九割以上に該當す、木津川には百噸以上の入津汽船頗る少なく、尻無川は殆んど之を認めず、即ち其全部は曳船用小蒸汽船なるを知る、而して大正元年入津汽船中曳船と貨客搭載船とは、六と四との比を示し、百噸以下の一萬四千五百八十二隻中、一萬三千七百八十五隻迄は、實に曳船用小蒸汽船なるに見れば、大阪出入汽船平均噸數の低位にあるは、全く是か爲なるを知るに足る、即ち左の如し。

年次	百噸以上		五十噸以上		五十噸以下		年次	百噸以上		五十噸以上		五十噸以下	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數		隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
四一年	9	725	2	200	2	200	四三年	1	100	1	100	1	100
四二年	9	858	1	100	1	100	四四年	9	811	1	100	1	100



### 第三章 海運貨物

#### 第一節 集散貨物の種類

##### 第一款 品類別

大正元年中大阪港に集散せる海運貨物の總額は

出 貨	二百二十六萬五千九百七十二噸
入 貨	五百八十七萬六千八百八十六噸
合 計	八百十四萬二千五百八十八噸

にして、出二割七分八厘、入七割二分二厘に相當し、差引三百六十一萬百十四噸の入超を示せり、是を明治三十三年に於ける市調査に對比するに、當時の海運出入貨物は

出 貨	百六萬三千三百四十一噸
入 貨	二百五十萬五百八十五噸
合 計	三百五十六萬三千九百二十六噸

にして、爾來十二個年間に出貨二十萬二千六百餘噸、入三百三十七萬五千五百餘噸、合計四百五十七萬八千餘噸を増加せり、而して其割合は出貨十二割弱、入貨十三割強、合計に於て十三割弱を示し、一個年の平均増加率は約七分に相當せり、今之を食料品、原料品、原料用製品、全製品及其他雜品の五種に分類するに

食料品は一割五分六厘百二十七萬餘噸を占り、其出入割合は出二割六分、入七割一分にして、五十四萬二千餘噸の大入超を示せり、其主なるものは、出貨にありては砂糖の八萬三千噸、米の三萬四千噸、和洋酒の四萬三千噸等を算し、入貨にありては、米の二十三萬五千噸、砂糖の十六萬二千噸を最とし、豆、乾糖魚類等之に次ぐ。

原料品は四割七分八厘、三百八十九萬八千餘噸を有し、海運出入總量の約二分の一に該當す、而して其出入割合は、出貨一割入貨九割にして、三百二十三萬六千餘噸の大入超なりとす、是れ入貨にありては石炭の百八十八萬七千噸、木材の四十一萬八千噸薪炭の三十二萬五千噸、棉花の二十四萬一千噸等を始めとし、其他石材、土砂等巨大なる噸量を有する貨物多きも、出貨にありては礫石類の十三萬噸、木材の七萬七千噸等あるに過ぎざるか爲なり。

原料用製品は一割七分五厘、百四十一萬九千餘噸にして、其出入割合は出三割七分、入六割三分に相當し、之亦三十六萬六千餘噸の入超なり、出貨の主なるものは人造肥料類の十二萬七千噸、綿糸の八萬八千噸等にして、入貨の主なるものは鐵材の二十八萬九千噸、煉瓦及瓦の二十三萬八千噸、雜肥料の十一萬七千噸等なりとす。

全製品は一割八分六厘、百五十一萬一千餘噸にして、出貨六割七分、入貨三割三分の割合に相當し、此に於て始めて五十二萬一千餘噸の出超を示せり、出貨の主なるものは雜貨類の二十二萬八千噸、硝子製品の九萬噸、綿布の七萬二千噸、鐵製品の六萬三千噸、燐寸の五萬八千噸、和洋紙の五萬三千噸及メリヤス類三萬四千噸等にして、入貨は和洋紙の七萬五千噸、雜貨類の七萬二千噸、敷物の四萬噸、繩臥の三萬六千噸等を算ふべし。

之を要するに大阪は商業の中心地たると共に、大工業都市たるの關係上、入貨は原料品、原料用製品を主とし、出貨は加工製造されたる全製品を最たるものとするは蓋し自然の理なり、加之精製品の出荷は鐵道に依るもの多きを以て、海運の噸量は常に多大の入超を示すを免かれず、然れども之が價額に於ては、大阪港の外國貿易が常に巨額の出超を示せるが如く、噸量と反對の結果を呈しつゝあるは疑ふべからず、尙食料品の大入超は、接續町村を合せ百五十萬の人口を抱擁する大都市の消費貨物として是亦必然の趨勢たるへし。

出入貨物品類別表

品類名	出貨	入貨	計	出入超過	原料用製品	出貨	入貨	計	出入超過
食料品	三、四三、三三	九、六、八三	一、三〇、七〇	△ 五、四三、三九	原料用製品	五、六、三九	八、九、八七	一、四、四八	△ 三、五〇、四八
原料品	三、〇、八七	三、五七、八六	三、六八、七三	△ 三、三三、九元	全製品	一、〇、六、三七	四、九、〇六	一、五、一、三五	△ 三、八、〇二

其他	二、六、三七	一、三、八五	四、〇、六二	一、四、二、五三	合計	二、一、五、九七	五、八、六、〇六	八、〇、二、〇三	△ 三、九、〇、〇六
----	--------	--------	--------	----------	----	----------	----------	----------	------------

第二款 品種別

大正元年中海運出入貨物を前記五種類に大別し、更に之を百十七品種に類別するに、入貨にありては石炭の百八十八萬餘噸を第一位とし、木材の四十一萬噸、薪炭の三十二萬噸、鐵材の二十九萬噸、棉花の二十四萬噸、米の二十三萬噸等之に次ぎ、煉瓦、土砂、砂糖、雜肥料、豆類、和洋紙、燐礦石、乾鹽魚、果實、瓦、金屬材、和酒、敷物類等亦尠なしとせす、出貨にありては人造肥料類の十二萬噸を最とし、之に次では燐礦石の十一萬噸、鐵材并に硝子類の各九萬噸、綿糸及砂糖の各八萬噸等を擧ぐべく木材、綿布、鐵製品、燐寸、和洋紙、雜肥料、繩臥、棉花、メリヤス及タオル、米、藥品、金屬製品、陶磁器等亦重要品たるを失はず。

海運出入貨物品種別表

品種品名	出貨	入貨	品種品名	出貨	入貨	品種品名	出貨	入貨
食料品	三、四三、三三	九、六、八三	煙草	一、〇、四、七四	一九、三三	其他	一、九〇	二、九、〇〇
米	三、四三、三三	三、五〇、三三	鹽造	一、七、四九	三、七、四四	石炭	三、〇、八七	三、五七、八六
豆	一九、三三	九、三、三三	蔬菜	五、九八	二、六、九	コークス	五、三九	一、八、七、五二
雜穀	四、八五	三、三、三六	果實	一、八、〇三	六、一、五二	燐礦石	一、〇、一、五	五、一、五七
砂糖	五、三三	一、二、九四七	魚	九、八	二、六、六四	燐礦石	一、五、八七	六、六、七九
菓子	六、六〇	五、五五	魚	三、九八	高、五、八	石膏	八七	一、七、八七
鹽	四、三	二、六、一三	乾鹽魚	三、九八	八、五八	其他礦物	一、四、三	九、八八
和酒	三、九三	四、四、四三	乾物	二、五、三〇	二、七、九	其他礦物	一、九、九三	二、六、一、四九
洋酒	一、六、〇〇	八、三、三	穀粉及澱粉	四、六、一	三、三、四一	石炭	三、〇、八七	三、五七、八六
茶及コーヒー	六、〇〇	二、八四	布	一、六、八八	一、四、八八	土砂	一、〇、一、五	一、七、八七
飯料	二、九、二七	一、七、五〇	草	一、七、五	六、三、八	木材	七、〇、九	四、八、〇二



品種品名	出	貨	入	品種品名	出	貨	入	品種品名	出	貨	入
竹材及藤	五、七三		三〇、八三三	綿糸	八、七七八	二九、八七五		度量衡器	九、九〇	二九、四〇	
薪炭	四、三六八		三五、五五六	其他糸	二、六四七	五、五九四		工匠器具	二、三九九	四、七〇	
棉花	三、五二七		二四、一五三	油類	三、二八八	二〇、二七九		農具	三、三三三	三、三三三	
棉實	一、〇〇〇		七、七三六	工業用塗料	一、六四〇	三〇、八七〇		船具及漁具	一、三三三	一、三三三	
パルプ	二、二五三		二、二五三	工業用藥品	一、五三〇	三、三九九		木製器具	四、九三三	二、二七五	
臘燭及屑物	二、一八〇		七、〇六八	其他	四、三三三	七、三三五		竹及藤製品	二、八〇九	二、八〇九	
獸皮及獸骨	三、七〇三		五、三三三	全製品	一、〇六三	四、〇七六		硝子及全製品	九、〇三三	三〇、四七〇	
羽毛類	四、七〇三		三、三三三	石	三、三三三	六、七〇七		皮革製品	四、二二四	一、四〇〇	
麻苧及シヨロ	二、八四〇		一、九四六	數物	九、四九九	二、九三六		漆器	八、七一	八、七一	
其他	二、八三三		三、三九八	繩	二、〇七七	四、〇三三		陶磁器	七、三三〇	三、二二〇	
原料用製品	一九、八九四		二〇、〇九三	麻苧製品	五、二六六	三、六九八		荒物	三〇、五三三	二、五四九	
鐵材	五、六三九		八、九三三	鐵管	七、〇九九	二、六四四		和傘及提灯	一、四七九	四、五〇九	
鋼材	九、六五九		二、九六八	鐵製器具	五、八四九	一、四九一		扇子及團扇	二、七〇五	八、八〇	
金	二、九三三		四、七三三	釘及ボルト	九、五五三	三、五八八		刷子及刷毛	二、五〇五	三、六〇六	
セメント	一、六八八		三、三三三	鐵製線	四、九七七	一〇、八〇〇		綿布	七、七三三	一、〇〇〇	
石灰(火山灰を含む)	一、〇三三		二、四〇四	金製器具	六、四九九	六、四九九		綿服大物類	七、三九九	三、三六六	
煉瓦	一、四六八		一、四六八	金製線	三、〇〇六	三、〇〇六		洋反物類	九、三九九	六、九九七	
瓦	一、四六八		五、〇〇六	金製計器	二、二二二	二、二二二		綿服小及タオル	四、三三三	一、六六六	
石粉	六、一〇三		四、〇〇五	時計	二、二二二	四、五七七		莫大小及タオル	三、三三三	一、三三三	
人造肥料	二、七五九		二、七五九	金屬製機	六、三〇八	九、七〇四		被服	五、三三五	二、七七八	
其他肥料	五、〇六四		二、六二七	電氣用品	三、五〇八	一、三三三		洋傘	四、〇〇六	一、三三三	
徑木及麥稈眞山	五、六九七		二、六二七	醫療用品	三、五〇八	七、四〇〇		朝服	七、三三三	九、七〇	
軸木	一、七六四		二、〇八七								
加工木材	三〇、六六五		三〇、〇一八								

品種品名	出	貨	入	品種品名	出	貨	入
裝身用品	三、六九三		一、三三六	印刷物	三、三三三	三、三三三	
履物	一〇、三三三		一、七六六	藥品	三、三三三	三、三三三	
石鹼	六、八九九		八、四〇〇	火藥	一、六六六	一、六六六	
小間物及化粧品	二、三三三		三、三三三	車輻	六、七〇〇	六、七〇〇	
文房具	一〇、二六六		一、六六六	其他雜品	三、八三三	三、八三三	
玩具	六、〇三三		七、三三三	金銀塊寶石	二、八三三	二、八三三	
娛樂用品	一、四六六		一、九三三	種子及苗木	三、三三三	三、三三三	
和洋紙	五、三三三		五、三三三				
畜産品				雜品	三、三三三	三、三三三	
牛				合計	二、三三三	二、三三三	
馬				備考 生鳥一籠ハ平均二十羽ヲ收容ス以下同シ	二、九三三	二、九三三	
家畜及家禽					五、八六六	五、八六六	
雜品					二、三三三	二、三三三	
合計					二、三三三	二、三三三	

第三款 月別集散關係

大正元年中海運貨物の月別集散關係を見るに、一月より次第に遞増し、三月に至りて最も高潮に達し、出貨二十二萬三千餘噸、入貨五十六萬三千餘噸、計七十八萬七千餘噸に達し、四月五月は一退一進、六月より漸次低下して所謂夏枯期の症狀を現出せり、其最低位たる九月の出貨十六萬七千餘噸、入貨三十八萬五千餘噸、計五十五萬二千餘噸を、三月の最盛期に比するに、出三割四分、入五割餘、合計に於て四割三分弱を減少せり、斯くて十月より恢復期に入り、次第に遞増して十二月には三月の最盛時に比し、多く遜らざるの成績を示せり、即ち左表の如し。

海運出入貨物月別總量表

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
出	一四、九〇〇	一〇、六〇〇	二二、三三三	一四、六六六	二五、七三三	一四、七六六	一七、五〇〇	一七、〇三三	一六、三九九	三九、九七七	二〇、四七六	一六、四七七	二、三三三
入	四三、三三三	五七、三三三	五三、九九九	五〇、二二二	五八、六六六	四〇、九九九	四三、三三三	四五、四四四	三六、九九九	四四、八八八	五九、九九九	五八、四四四	二、三三三
合計	五八、四三三	六七、九三三	七六、三三三	六四、八八八	七四、三三三	五五、四六六	六〇、三三三	六二、四六六	五二、六九九	八四、八六六	七九、九九九	七四、八八八	二、三三三
入	二八、三三三	三三、三三三	三三、三三三	三五、四四四	三五、四四四	三三、三三三	三三、三三三	二八、三三三	二八、三三三	二七、四四四	三五、五五五	三五、五五五	二、三三三
出	三〇、一〇〇	三四、六〇〇	四三、〇〇〇	二九、四四四	三八、八八八	二二、一三三	二七、一六六	三三、一三三	二四、三三三	一七、四四四	三三、九九九	三三、九九九	二、三三三

尙此他出入貨物の月別移動狀態、季節貨物の消長關係等考査すべきもの尠なからざるも、陸運との關係上後項に譲り、茲には各

品種月別集散噸量を示すに止む。

大正元年海運集散貨物品種月別表  
出 貨 之 部

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
米	二〇,五五三	二七,七五四	三九,八八八	三〇,六三三	三〇,七六六	三六,四三三	二九,七九七	三三,五六四	三三,〇三二	四〇,七九三	三六,九三三	三九,八〇三	三九四,三三四
豆	一,一三四	四,〇〇八	三,九三三	五,四九九	三,三七七	五,四三三	三,八三四	一,一六七	一,一三四	一,一四九	一,七四五	一,九〇〇	三九,六四三
雑穀	六〇九	七,七五	一,三〇八	二,一九七	二,〇〇七	一,六六六	二,二五	一,三六二	一,二六〇	一,五九〇	一,九三九	二,三三七	一九,三三九
砂糖	三,九	三,八六	六,四	三,〇九	一,四	三,七六	三,五二	三,五	五,五	五,九	六,三	三,六九	四,八五五
菜子	五,二四	四,一九七	五,二四八	四,七八八	六,一九	四,六八	六,四三	四,九九〇	六,四九六	二,〇五六	八,七五	六,一八二	六三,六〇
鹽	一,四	二,五五	二,五	五,六六	五,四五	五,七五	六,四	六,六	九,九	九,九	九,九	九,九	九,九
和酒	一,九九	二,三三	一,七四六	二,三五九	二,八九	一,八五三	一,四四六	一,五〇〇	一,六八	一,六八	一,六八	一,六八	一,六八
洋酒	三,四六	五,四三	一,四七六	二,一〇六	二,一〇三	二,二四	二,五八	一,八二	九,九	六,九	六,九	六,九	六,九
茶及コーヒー	八九	一,九八	四,四六	五,九〇	七,五	五,九四	六,三	五,四	五,六	五,六	五,六	五,六	五,六
飲料	二,九	一,〇一	一,六七	一,〇〇	二,九	一,七〇〇	一,六三	一,九三	三,五	一,〇〇	一,四	一,〇	一,〇
煙草	一,三〇	一,三三	二,三三	一,九〇八	一,四〇	二,五三	九,五	一,六〇〇	一,五	一,五	一,五	一,五	一,五
醸造品	一,八三	一,〇五	一,八〇	二,七五	一,〇	一,八〇	一,三	九,九	一,〇	一,〇	一,〇	一,〇	一,〇
菓菜	二,三	五,九	三,五	三,六	二,二	一,五	五,五	六,六	六,六	六,六	六,六	六,六	六,六
鮮魚	二,五〇	七,九	一,五	六,九	四,六	四,七	二,〇	二,二	二,二	二,二	二,二	二,二	二,二
乾魚	一,七	八,二	六,七	四,八	二,八	三,〇	三,五	三,五	三,五	三,五	三,五	三,五	三,五
乾糧	一,八七	五,八二	六,四	五,三	四,四	六,六	一,〇	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一
漬物	一,〇三	二,三	二,九四八	一,八〇八	二,四	三,〇	一,九	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一
穀粉及澱粉	三,三	一,〇,三	三,六	五,九	六,八	五,二	八,三	八,六	六,三	七,九	七,九	八,八	八,八

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
昆布	二,四三	五,三	三,七八	三,三八	六,七八	四,六七	一,一三七	一,一三七	一,一三七	一,一三七	一,一三七	一,一三七	一,一三七
海草	二,九	一,八	一,九	一,六	一,五	一,四	一,三	一,二	一,一	一,〇	九	八	八
其他	六,五	一,八	一,九	一,六	一,五	一,四	一,三	一,二	一,一	一,〇	九	八	八
原料	二,〇〇	三,九	三,九	三,九	三,九	三,九	三,九	三,九	三,九	三,九	三,九	三,九	三,九
石炭	九,八	九,八	九,八	九,八	九,八	九,八	九,八	九,八	九,八	九,八	九,八	九,八	九,八
コークス	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
煉石	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
金礦	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
其他礦物	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
土砂	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
木材	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
竹材	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
薪炭	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
棉花	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
棉實	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
パルプ	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
纖維及屑物	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
獸皮及獸骨	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
羽毛類	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
麻苧及シロ	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
菜子	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
其他	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇
原料用製品	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇	一,一〇



品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
扇子及團扇	三三	五	一〇	一七	二八	一五〇	四八	三六	三六	二八八	二七	一五	二五〇五
刷子及刷毛	九〇	八	一〇	九	七	一〇	五	五	五	五	五	五	三、八六六
家布類	八〇	二、三二	一、五〇	一、六三	一、二八	一、三〇	一、〇九	一、一四	一、三三	一、三三	二、〇三	一、四六	一七、二七三
綿服大物類	三、五九	二、七〇	六、九六	五、八七	六、六四	五、〇三	五、八三	六、八三	七、八八	八、三三	一、三三	七、六三	七、九九九
洋反物類	三、八	一、三二	一、六九	一、三〇	七、三	五、三九	四、四七	五、〇〇	六、九	七、一	七、一	四、七	九、三三三
綿服小物類	一、四九	一、〇八	五、六	四、八〇	四、五	三、八七	二、七五	三、四三	三、四三	三、四三	三、四三	三、四三	三、四三
莫大小及マール	一、三三	一、二六	二、〇八	一、四七	二、五七	一、〇三	三、四三	四、五〇	二、八〇	四、五〇	一、九八	三、七二	一、〇〇三
被服	一九七	三、三	三、五	五、五	六、四	三、四	二、五	四、九	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三
洋傘	一、〇〇	八〇	四、〇	三、六	三、六	三、六	三、六	三、六	三、六	三、六	三、六	三、六	三、六
帽	四、〇	四、〇	四、〇	四、〇	四、〇	四、〇	四、〇	四、〇	四、〇	四、〇	四、〇	四、〇	四、〇
裝身用品	一、二〇	一、三九	三、三	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
石鹼	五、五	七、八	五、五	五、八	八、六	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六
小間物及化粧品	五、五	七、八	五、五	五、八	八、六	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六	六、六
文具	六、五	八、九	六、五	六、八	九、六	七、六	七、六	七、六	七、六	七、六	七、六	七、六	七、六
玩具	四、三	五、四	四、三	四、六	五、四	四、三	四、三	四、三	四、三	四、三	四、三	四、三	四、三
娛樂用品	七、三	八、四	七、三	七、六	八、四	七、三	七、三	七、三	七、三	七、三	七、三	七、三	七、三
和洋紙	二、六	三、七	二、六	二、九	三、七	二、六	二、六	二、六	二、六	二、六	二、六	二、六	二、六
印刷物	三、三	四、四	三、三	三、六	四、四	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三
藥品	二、六	三、七	二、六	二、九	三、七	二、六	二、六	二、六	二、六	二、六	二、六	二、六	二、六
火藥	二、六	三、七	二、六	二、九	三、七	二、六	二、六	二、六	二、六	二、六	二、六	二、六	二、六
車輛	三、〇	四、一	三、〇	三、三	四、一	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
雜貨	二、三	三、四	二、三	二、六	三、四	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
其他雜品	一、三	二、〇	一、三	一、〇	一、七	二、四	一、五	二、二	一、六	二、三	一、八	二、五	二、八、三
金銀塊寶石	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
種子及苗木	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一
雜品	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一
合計	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇	三、〇
家畜及家禽	九	七	八	五	五	一〇	二	二	三	二	九	二	二、二
牛	九	七	八	五	五	一〇	二	二	三	二	九	二	二、二
生馬	九	七	八	五	五	一〇	二	二	三	二	九	二	二、二

同入貨の部

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
食料品	三、九	六、七	八、八	九、九	七、七	八、八	五、五	三、三	五、五	八、八	三、三	五、五	三、九
米	三、九	六、七	八、八	九、九	七、七	八、八	五、五	三、三	五、五	八、八	三、三	五、五	三、九
豆	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇	八、〇
雜穀	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三	二、三
砂糖	六、三	六、三	六、三	六、三	六、三	六、三	六、三	六、三	六、三	六、三	六、三	六、三	六、三
菓子	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
鹽	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九
和酒	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二
洋酒	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三	三、三
茶及コヒー	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
飲料	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二	二、二
煙草	九、〇	九、〇	九、〇	九、〇	九、〇	九、〇	九、〇	九、〇	九、〇	九、〇	九、〇	九、〇	九、〇
鹽造品	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九	一、九

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
蘇菜	1,155	1,488	2,000	1,290	1,255	1,335	3,588	2,865	2,855	3,658	5,505	2,955	29,799
菓實	3,368	2,655	2,148	933	840	5,890	3,999	2,670	3,900	1,470	5,535	9,435	30,355
鮮魚	3,553	2,355	3,955	2,600	1,700	1,455	1,975	1,655	2,000	3,278	3,278	3,305	28,665
乾魚	2,528	4,261	1,543	2,407	3,408	2,555	4,335	4,335	1,930	1,097	9,584	2,266	60,568
乾鹽魚	3,373	6,777	1,379	2,333	858	4,455	3,335	3,335	1,930	5,078	7,755	5,588	85,868
穀粉及澱粉	3,368	1,333	3,368	1,560	1,538	1,535	868	868	670	1,000	3,335	3,335	23,448
昆布	3,551	2,166	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	40,868
海草	1,600	3,551	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	40,868
其他	1,600	3,551	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	3,368	40,868
原料品	2,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	42,000
石	2,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	42,000
焦炭	1,900	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
金礦	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	18,000
其他礦物	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	18,000
石	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	18,000
其他	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	18,000
土及砂	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	18,000
木材	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	18,000
竹材及籐	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	18,000
新炭	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	18,000
棉花	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	18,000
棉實	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	18,000

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
パルプ	5,900	1,800	1,255	4,000	1,290	1,255	810	810	775	1,521	1,477	933	22,000
襪及屑物	3,835	5,000	6,811	7,755	7,755	5,170	5,740	6,310	4,770	4,770	6,310	5,900	70,868
獸皮及獸骨	1,237	1,400	1,400	3,755	1,290	2,035	3,330	1,600	2,035	2,035	1,995	2,740	25,335
羽毛類	1,237	1,400	1,400	3,755	1,290	2,035	3,330	1,600	2,035	2,035	1,995	2,740	25,335
麻芋及シヨロ	6,600	3,500	7,870	1,300	1,565	2,555	1,470	2,220	1,770	2,220	2,170	2,170	25,335
菜子	1,400	4,000	5,000	7,870	1,300	1,565	2,555	1,470	2,220	1,770	2,170	2,170	25,335
其他	6,600	3,500	7,870	1,300	1,565	2,555	1,470	2,220	1,770	2,220	2,170	2,170	25,335
原料用製品	6,600	3,500	7,870	1,300	1,565	2,555	1,470	2,220	1,770	2,220	2,170	2,170	25,335
鐵材	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
金鋼材	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
セメン	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
石灰(火山灰を含む)	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
煉瓦	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
瓦	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
石粉	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
人造肥料	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
其他肥料	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
經木及參茸真田	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
軸木	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
加工木材	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
綿糸	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
其他糸	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
油脂及蠟	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
染料	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000
工業用藥品	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	30,000

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
竹及藤製品	69	82	112	75	115	112	117	101	109	127	111	117	1,268
硝子及全製品	69	82	112	75	115	112	117	101	109	127	111	117	1,268
皮革製品	22	25	38	28	45	42	47	31	39	47	31	37	400
護謨製品	33	39	58	43	70	67	72	46	58	70	46	52	550
漆器	100	120	180	130	210	200	210	130	160	190	130	150	1,700
陶磁器	80	95	140	100	160	150	160	100	120	140	100	120	1,300
荒傘及提灯	15	18	27	20	30	28	30	18	22	27	18	22	250
和傘及團扇	20	24	36	27	40	38	40	24	30	36	24	30	350
扇子及刷毛	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
家具	50	60	90	65	100	95	100	65	80	95	65	80	900
綿布類	60	72	108	80	120	115	120	80	96	115	80	96	1,100
吳服大物類	60	72	108	80	120	115	120	80	96	115	80	96	1,100
洋反物類	50	60	90	65	100	95	100	65	80	95	65	80	900
綿ネ	60	72	108	80	120	115	120	80	96	115	80	96	1,100
莫大小及タオル	30	36	54	40	60	57	60	40	48	57	40	48	550
被服	40	48	72	53	80	77	80	53	64	77	53	64	750
洋傘	30	36	54	40	60	57	60	40	48	57	40	48	550
朝服	30	36	54	40	60	57	60	40	48	57	40	48	550
裝身用品	30	36	54	40	60	57	60	40	48	57	40	48	550
履物	20	24	36	27	40	38	40	24	30	36	24	30	350
石鹼	30	36	54	40	60	57	60	40	48	57	40	48	550
小問物及化粧品	30	36	54	40	60	57	60	40	48	57	40	48	550
文房具	30	36	54	40	60	57	60	40	48	57	40	48	550
玩具	30	36	54	40	60	57	60	40	48	57	40	48	550

品名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
其他	1,060	1,272	1,917	1,425	2,145	2,067	2,177	1,425	1,740	2,177	1,425	1,740	20,000
全製品	4,260	5,040	7,290	5,325	8,580	8,202	8,580	5,325	6,570	8,580	5,325	6,570	75,000
石油	61	73	109	81	121	116	121	81	97	116	81	97	1,100
石油	1,090	1,272	1,917	1,425	2,145	2,067	2,177	1,425	1,740	2,177	1,425	1,740	20,000
敷物	3,730	4,416	6,381	4,710	7,260	7,035	7,260	4,710	5,832	7,260	4,710	5,832	68,000
繩索類	3,330	3,996	5,742	4,245	6,420	6,180	6,420	4,245	5,280	6,420	4,245	5,280	62,000
麻苧製品	2,090	2,508	3,615	2,670	4,005	3,870	4,005	2,670	3,360	4,005	2,670	3,360	40,000
織物	1,970	2,364	3,495	2,595	3,892	3,774	3,892	2,595	3,240	3,892	2,595	3,240	39,000
鐵管	1,330	1,596	2,391	1,770	2,655	2,571	2,655	1,770	2,220	2,655	1,770	2,220	27,000
釘及ホルト	690	828	1,242	915	1,372	1,323	1,372	915	1,140	1,372	915	1,140	14,000
鐵製	3,400	4,080	5,958	4,395	6,612	6,393	6,612	4,395	5,472	6,612	4,395	5,472	66,000
金製	1,850	2,220	3,270	2,415	3,622	3,507	3,622	2,415	3,030	3,622	2,415	3,030	37,000
金製	1,300	1,560	2,340	1,740	2,610	2,526	2,610	1,740	2,190	2,610	1,740	2,190	27,000
時計	100	120	180	130	210	200	210	130	160	210	130	160	2,000
金屬製機械	100	120	180	130	210	200	210	130	160	210	130	160	2,000
電氣用品	30	36	54	40	60	57	60	40	48	57	40	48	550
醫療用品	20	24	36	27	40	38	40	24	30	36	24	30	350
度量衡器	10	12	18	13	21	20	21	13	16	21	13	16	200
工器具	10	12	18	13	21	20	21	13	16	21	13	16	200
農具	10	12	18	13	21	20	21	13	16	21	13	16	200
船具及漁具	10	12	18	13	21	20	21	13	16	21	13	16	200
木製品	100	120	180	130	210	200	210	130	160	210	130	160	2,000

品名	月												合計	
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		
娛樂用品	一九	一八	一〇	二二	一四	三	四	二〇	七	三六	六	二〇	一九	一九
和洋紙	六四三	五五八	六三六	七六三	六九二	六六四	六三三	五三四	一九四	五七七	五二四	七三〇	六九八	六三三
印刷物	一六七	四一	五二	二二	四三	三九	七	八	一九	七	九	九	五八	一、四八
藥品	四、三五	三、三	五、八	三、四	六、五	六、九	五、三	二、二	七、八	一、四	八、〇	三、七	六、〇	三、三
車輛	四〇	四	九	四	九	五	六	七	一〇	一	九	三	四	一、三
雜貨	八、三	五、〇	九、八	七、八	六、三	八、八	四、七	三、八	四、八	一、七	三、八	三、九	三、九	七、三
其他雜品	四	七	三	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
金銀地寶石	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：
種子及苗木	六	一	二	二	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
雜品	三六〇	六六	一、五	九	八	九	一	一	一	一	一	一	一	一
合計	四三、三	五七、三	五三、九	五〇、二	五八、六	四〇、九	四三、三	四三、三	四三、三	四三、三	四三、三	四三、三	四三、三	四三、三
家畜及家禽	一、〇	八	一、〇	九	七	七	七	八	九	九	九	九	九	九
牛	一、〇	八	一、〇	九	七	七	七	八	九	九	九	九	九	九
馬	一、〇	八	一、〇	九	七	七	七	八	九	九	九	九	九	九

### 第二節 内外貿易關係

#### 第一款 大阪港の對外地位

一重要諸港の對外貿易 大藏省の調査に依れば大正元年中我國の對外貿易品價額は、輸移出五億七千四百九十二萬餘圓、輸入六億三千六百三十六萬餘圓、合計十二億一千二百二十九萬圓にして、前年に比し出一割七步八厘、入二割〇一厘、出入總額に於て一割八步九厘を増加し、九箇年前即ち明治三十六年大阪築港開放當年の全國貿易額、出二億八千九百五十萬圓、入三億一千七百十三萬圓に比し、約十割を増加せり。

今大正元年の全國貿易額に對する重要各港の地位を見るに、輸移出にありては横濱は四割五步四厘、神戸は二割六步七厘、大阪は一割四步四厘に當り、輸移入に於ては横濱は三割四步一厘、神戸は四割七步九厘、大阪は五步二厘を有し輸移出入總額に於て、横濱は三割九步五厘、神戸は三割七步六厘にして各全國貿易額の三分の一以上を占むるに對し、大阪は僅に九步七厘を有するのみにて、全國貿易額の十分の一にたも充たす。

對外貿易品價額各港出入累年比較表

年別	出		入		合計	
	輸	出	輸	入	合計	合計
大正元年	八、〇八二、一六四	五、七三三、〇七三	一、五九七、七二二	二、七〇一、六五二	五、三三〇、八二五	五、三三〇、八二五
明治四十四年	三、六六六、三九一	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治四十三年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治四十二年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治四十一年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治四十年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治三十九年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治三十八年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治三十七年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治三十六年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
大正元年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治四十四年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治四十三年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治四十二年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治四十一年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治四十年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治三十九年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治三十八年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治三十七年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
明治三十六年	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇
合計	三、四〇三、四三〇	二、三三三、八六二	一、九五七、七二八	一、九五七、七二八	四、六二四、一六〇	四、六二四、一六〇

年次	出別		入別		計
	大	神	大	神	
明治三十九年	一八,七五七,七五	一,九二九,一六	一八,七五七,七五	一,九二九,一六	二〇,六八六,九一
明治三十八年	一八,四九九,八三	一,八六四,〇五	一八,四九九,八三	一,八六四,〇五	二〇,三六三,八八
明治三十七年	一六,七七五,三三	一,四八五,〇一	一六,七七五,三三	一,四八五,〇一	一八,二六〇,三四
明治三十六年	一六,五八六,四八	一,四八五,〇一	一六,五八六,四八	一,四八五,〇一	一八,〇七一,四九
大正元年	二七,四六六,二五	一,九二九,一六	二七,四六六,二五	一,九二九,一六	二九,三九五,四一
明治四十四年	二〇,六五五,三三	一,八七二,五八	二〇,六五五,三三	一,八七二,五八	二二,五二七,九一
明治四十三年	一八,一七九,〇五	一,八七二,五八	一八,一七九,〇五	一,八七二,五八	一九,〇五一,六三
明治四十二年	一七,〇二二,六八	一,八七二,五八	一七,〇二二,六八	一,八七二,五八	一八,八九五,二六
明治四十一年	一七,〇二二,六八	一,八七二,五八	一七,〇二二,六八	一,八七二,五八	一八,八九五,二六
明治四十年	一七,〇二二,六八	一,八七二,五八	一七,〇二二,六八	一,八七二,五八	一八,八九五,二六
明治三十九年	一七,〇二二,六八	一,八七二,五八	一七,〇二二,六八	一,八七二,五八	一八,八九五,二六
明治三十八年	一七,〇二二,六八	一,八七二,五八	一七,〇二二,六八	一,八七二,五八	一八,八九五,二六
明治三十七年	一七,〇二二,六八	一,八七二,五八	一七,〇二二,六八	一,八七二,五八	一八,八九五,二六
明治三十六年	一七,〇二二,六八	一,八七二,五八	一七,〇二二,六八	一,八七二,五八	一八,八九五,二六

備考 明治四十三年以降移出輸入額を含む

二重要諸港貿易の増進率 然れども是を其増進率に徴するときは、或は反対の現象を呈するなきを保せず、即ち明治三十六年より大正元年に至る九箇年間に於て、横濱は出入總額に於ては八割七分強、出入總額にありては八割五分七厘を、神戸は出六割九歩五厘、入九割七歩二厘、出入總額に於て八割七分を増加したるのみにて、何れも全國貿易の増加率に及ばざるに反し、特り大阪は出三十五割一步五厘、入十割〇八厘強、總額に於て二十三割六歩四厘の大増加を示せり、即ち此期間に於ける一箇年の平均増加率は全國八歩、横濱七歩強、神戸八歩弱、大阪は一割五歩弱に相當す、蓋し此の大増加は主として築港開放後三箇年間の激増基因するものなるを以て、之を常態と見るは穩當を缺く嫌ひ無きにあらざると雖も、大正元年の前年に對する増加率は約二割に

相當し、爾後の趨勢益良好なるものあるに徴せば、經濟界の狀勢により時々消長無きにあらざるへし雖も、概して此趨勢を持續するものと見て差支へなからん。  
 されど以上は單に税關統計上の數字より見たるに過ぎず、事實上大阪港の對外貿易品は、後章に於て述ぶるか如く、神戸税關に於て輸出入手數を爲すもの尠ならず、大正元年に於て神戸港貿易中三割三分即ち概算一億五千萬圓餘は實に大阪の輸出入品に屬せり、故に事實上に於ける大阪の外國貿易は約二億七千萬圓に達し、大阪の貿易品を控除せる神戸の貿易額三億圓に比して多くの遜色を見るるなり。

十箇年間各港外國貿易増加歩合表

(明治三十六年を一〇〇とす)

年次	輸出		輸入		計
	大	神	大	神	
明治三十九年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
明治三十八年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
明治三十七年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
明治三十六年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇
大正元年	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇

尙最近十箇年間の我國對外貿易額に對する各港の地位を、百分率により表示すれば左の如し。

全國對各港外國貿易十箇年對照表

(全國を百とす)



年次	輸出				輸入			
	全國	大阪	神戸	横濱	其他	全國	大阪	神戸
明治三六年	100	6.3	3.3	5.6	2.8	100	5.3	4.5
三七年	100	9.6	2.7	5.5	9.5	100	4.6	4.8
三八年	100	17.4	2.6	4.7	11.6	100	3.8	4.6
三九年	100	17.4	2.6	4.7	11.6	100	3.8	4.6
四〇年	100	13.9	2.6	4.7	11.6	100	3.8	4.6
四一年	100	13.2	2.6	4.7	11.6	100	3.8	4.6
四二年	100	11.4	2.6	4.7	11.6	100	3.8	4.6
四三年	100	11.3	2.6	4.7	11.6	100	3.8	4.6
四四年	100	11.3	2.6	4.7	11.6	100	3.8	4.6
全四元	100	11.3	2.6	4.7	11.6	100	3.8	4.6
大正元年	100	14.4	2.6	4.7	11.6	100	3.5	4.7

三重要諸港と對各國貿易 大正元年中の統計によれば、帝國の對外貿易は亞細亞への出二億六千六百餘萬圓、入二億七千七百餘萬圓、計五億四千四百餘萬圓を最とし、歐洲への出一億一千四百餘萬圓、入二億三百餘萬圓、計三億一千七百餘萬圓之に次ぎ、亞米利加への出一億七千五百餘萬圓、入一億二千九百餘萬圓、計三億四百萬圓、其他諸洲への出一千五百餘萬圓、入一千九百萬圓計三千四百萬圓を算せり、而して之を重要諸港に見るに亞細亞貿易にありては、輸移出に於て神戸と大阪は殆んど伯仲の間にありて總貿易額に對し各三割餘を占め、横濱は之に次て一割二分を有す、輸移入に於ては神戸五割強、横濱二割強、大阪一割弱にして、出入合計に於て神戸は四割二分強、大阪二割強、横濱一割六分強の割合を示せり、歐洲貿易にありては出入共に横濱を第一位とし神戸之に次ぎ大阪は遙かに低位に在り、亞米利加貿易にありては神戸を第一とし横濱、大阪之に次ぐ其他諸洲亦之に同じ、之を要するに大阪は亞細亞貿易就中輸移出貿易に於て最も重要な地位を占め、歐米其他の貿易に對しては定期航路船の寄港なきを以て、税關統計上未だ多く見るに足るものなきは蓋し已むを得ざる所なり。

大正元年輸移出品價額國別表

國名	輸出		輸入		其他諸港	合計
	大阪	神戸	横濱	長崎		
亞細亞	15,755,310	2,955,995	3,066,980	3,566,953	1,800,000	27,745,298
朝鮮	4,000,000	4,000,000	11,000,000	1,500,000	1,111,333	21,511,333
支那	13,555,310	5,455,995	1,966,980	2,066,953	1,000,000	24,045,298
東洲	1,555,310	1,555,995	1,066,980	1,566,953	1,000,000	6,745,298
香港	1,555,310	1,555,995	1,066,980	1,566,953	1,000,000	6,745,298
英領印度	1,555,310	1,555,995	1,066,980	1,566,953	1,000,000	6,745,298
英領海峽殖民地	3,000,000	3,000,000	2,000,000	2,000,000	1,000,000	11,000,000
全英領	3,000,000	3,000,000	2,000,000	2,000,000	1,000,000	11,000,000
佛領印度	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	2,000,000	16,000,000
佛領海峽殖民地	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	2,000,000	16,000,000
露領亞細亞	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	2,000,000	16,000,000
露領海峽殖民地	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	2,000,000	16,000,000
比領實諸島	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	2,000,000	16,000,000
暹羅	4,000,000	4,000,000	3,000,000	3,000,000	2,000,000	16,000,000
合計	65,333,310	12,333,995	17,333,980	20,333,953	11,333,333	126,733,571
歐羅巴	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	66,000,000
英吉利	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	66,000,000
佛蘭西	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	66,000,000
獨逸	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	66,000,000
白耳義	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	66,000,000
伊太利	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	66,000,000
瑞西	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	66,000,000
瑞地	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	66,000,000
和利	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	66,000,000
瑞典	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	66,000,000
諾威	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	16,000,000	66,000,000

國名	大阪	神戶	橫濱	長崎	門司	函館	其他諸港	合計
露西亞	77,900	2,439,880	2,439,880	3,350	1,150			2,443,780
西班牙	2,600	2,600	2,600					7,800
丁抹牙	1,200	6,830	6,830					13,200
土耳其	101,000	5,600	5,600					106,600
葡萄牙	4,000	8,200	8,200					12,200
計	2,088,500	3,788,500	8,092,330	3,350	1,150			12,974,280
亞米利加								
北美合衆國	2,600	3,000	3,000					8,600
英領亞米利加		1,700	1,700					3,400
秘魯		5,900	5,900					11,800
智利		4,500	4,500					9,000
亞爾然	2,600	2,600	2,600					7,800
計	2,600	12,700	17,700					28,000
其他諸洲								
濠洲刺利	3,600	3,600	3,600					7,200
布哇	3,000	3,000	3,000					6,000
埃及		4,500	4,500					9,000
喜望峯殖民地及ナタル		2,700	2,700					5,400
計	3,900	13,800	18,700					26,400
其他	1,700	3,800	1,300					6,800
合計	5,088,200	7,630,100	16,984,330	3,350	1,150			23,706,980

大正元年輸入品價額國別表

國名	大阪	神戶	橫濱	長崎	門司	函館	其他諸港	合計
亞細亞	7,755,500	2,586,300	1,847,300	3,300	1,298,700	5,800	3,552,900	17,043,000
朝鮮	4,522,800	2,500,900	2,866,400	2,700	2,400,000	5,700	7,668,300	15,366,100
支那	6,482,300	7,600,500	9,200,900	7,700	1,452,400	2,000	6,081,200	25,727,300
香港	4,687,000	2,523,900	4,700,000	1,900	4,800	1,000	4,800	11,713,600
英領印度	9,044,800	8,952,000	16,506,900	5,100	7,666,400	2,000	2,860,000	34,938,100
全海峽殖民地	4,588,000	3,200,000	1,456,200	4,800	1,500	3,000	1,000	9,748,000
關領印度	3,995,900	2,857,000	5,700,900	7,700	4,800	3,000	1,600,000	13,960,500
佛領印度	1,098,500	4,307,300	3,500,000	1,000	2,700	1,000	6,000	9,606,800
露領亞細亞	8,200	1,388,800	3,900,000	1,900	8,900	1,000	4,700	6,998,600
比律賓	1,368,000	1,452,300	3,766,800	1,400	2,900	2,000	3,900	5,588,400
暹羅	2,715,000	3,007,500	2,892,000	3,900	2,900	1,000	1,100	8,936,900
計	27,150,000	14,000,300	55,992,300	4,800	17,898,600	3,800	33,600,300	112,645,300
歐羅巴	3,150,800	5,233,900	5,233,900	4,000	2,500,300	4,800	9,500,000	25,627,700
英吉	4,600,000	2,900,000	2,900,000	1,000	4,800	1,000	5,800	11,406,600
佛蘭	1,600,000	2,900,000	2,900,000	1,000	4,800	1,000	5,800	7,306,600
白耳	1,600,000	2,900,000	2,900,000	1,000	4,800	1,000	5,800	7,306,600
伊太	2,000,000	5,000,000	5,000,000	1,000	4,800	1,000	5,800	12,011,600
瑞利	1,000,000	5,000,000	5,000,000	1,000	4,800	1,000	5,800	11,011,600
瑞地	9,500,000	1,100,000	1,100,000	1,000	4,800	1,000	5,800	11,706,600
和利	1,500,000	6,000,000	6,000,000	1,000	4,800	1,000	5,800	13,511,600
瑞典	5,900,000	1,600,000	1,600,000	1,000	4,800	1,000	5,800	9,111,600
計	15,900,800	26,733,900	26,733,900	4,000	17,898,600	3,800	48,000,000	77,270,000
合計	43,050,800	40,734,200	82,986,230	8,800	35,797,200	7,600	81,600,300	190,916,380

國名	大阪	神戸	横濱	長崎	門司	函館	其他諸港	合計
諸國	14	19,777	36,400	2,840	9,334	13	1	69,485
露西	1	15,969	4,196	5,333	43	3	2,555	32,109
西班	1	14,833	101,085	2,333	1	1	1	133,264
丁抹	1	3,899	2,487	2,899	30,566	1	1	41,853
土耳	1	5,733	6,093	4	10	1	1	11,941
葡牙	1	2,582	9,998	559	1	1	1	13,142
計	4,965	92,992	94,093	50,974	51,707	53,406	1,405	333,882
亞米利加								
北美合衆國	1,254,253	6,667,733	5,244,677	3,264,988	4,549,898	2,797,744	4,944,254	27,707,556
英領亞米利加	1	1,605	5,554	159	2,626	3	1	6,450
墨西哥	1	133	1,000	1	2	1	1	1,138
智利	1,033	7,643	1,046	1	6,890	1	1	11,625
亞爾然	1	8	1,105	1	1	1	1	1,116
計	1,256,286	6,677,080	5,251,227	3,266,149	4,558,516	2,799,749	4,949,256	29,554,955
其他諸洲								
濠洲	2,591	6,166,900	6,579,287	9,491	33,569	5	113	13,275,948
布哇	1	11,101	9,999	3,009	3,094	7	7	29,428
埃及	1,250	2,340,475	3,872,399	3	5	1	1	6,463,673
喜望峯殖民地及ナタル	3,844	8,530,299	10,464,445	2,523	6,668	5	1	19,121,997
計	7,687	17,048,776	20,926,140	15,033	54,346	13	13	46,891,833
其他	9,523,264	1,062,338	3,940,710	10,533	54,666	133	33,557	14,691,833
合計	33,588,557	344,768,102	377,377,100	330,919	261,407,633	354,133	36,552,550	676,681,218

四亞細亞貿易と阪神及横濱港 更に帝國の對外貿易中最も重要な亞細亞貿易に對する大阪、神戸及横濱三港の消長を見ん

とす、大正元年の全國亞細亞貿易出二億六千六百餘萬圓、入二億七千七百餘萬圓、合計五億四千四百餘萬圓を大阪築港開放當時の明治三十六年に比するに出十一割弱、入五割弱、合計に於て七割強を増加せり。

此期間に於て神戸港は出五千七百七十二萬圓、入九千二十五萬圓、合計一億四千七百九十八萬圓よりして出九千七十二萬圓、入一億四千七萬圓、合計二億三千七百九十九萬圓に増進し、其増加割合は出五割七分強、入五割四分弱、合計に於て五割六分弱に當り全國貿易の増加割合に比し出入合計にありて一割四分強、出にありて五割三分を輸し唯入に於てのみ四分強の優位を保持せり。

横濱は同期間に於て出一千九百四十一萬圓、入四千四百二十二萬圓、合計六千三百八十四萬圓よりして出三千三百二十六萬圓、入五千五百九十萬圓合計八千九百十七萬圓に増進し出七割一分弱、入二割六分強、出入合計に於て四割弱の増加を示せり即ち全國の増加割合に比して出に於て三割九分入にありて三割四分を輸し、合計にありて三割方の下位にあり。

大阪は同しく出一千八百二十一萬圓、入六百四十八萬圓、合計二千四百六十九萬圓よりして出八千二百五十三萬圓、入二千七百十五萬圓、合計一億九百六十八萬圓に躍進し出三十五割強、入三十二割弱、合計に於て三十四割弱の激増を示せり、之を全國の増加割合に對比すれば出二十四割、入二十七割強、出入合計に於て二十七割弱方の大優勢を示せり、蓋し亞細亞貿易に對する大阪港の地位は本邦商工業の中心地たる關係上嶄然頭角を現し他の追隨を許さざるものあり、神戸の増加率比較的劣れるものあるは從來神戸を經由せる大阪の亞細亞貿易を、築港の開放により大阪に恢復したるか爲にして、敢て神戸港其もの、貿易は前記の割合以上に増進しつゝあるものなるは疑ふべからず。

亞細亞貿易に對する大阪港の地位は上述の如くなるか、就中支那及朝鮮貿易に對する増加率は更に一層大にして、朝鮮貿易の如きは現に全國貿易額の約五割五分を掌握するに至れり、支那貿易に就ては後項に於て更に詳説すべし。

重要各港亞細亞貿易品價額十箇年對照表

輸移出之部

國別	年次	全 國 各 港									
		朝 鮮	支 那	關 東	香 港	英 領 印 度	海 峽 殖 民 地	關 領 印 度	佛 領 印 度	露 領 亞 細 亞	比 律 賓
大正元年	1912	47,942,917	24,833,777	27,544,518	28,722,958	33,648,774	8,892,259	4,323,899	3,941,399	5,554,477	1,336,555
明治四十四年	1911	46,843,433	24,152,792	27,033,188	28,523,958	33,033,333	7,152,755	4,323,899	3,941,399	5,554,477	1,336,555
明治四十三年	1910	32,864,955	19,077,544	19,148,456	23,449,911	28,722,958	6,549,661	3,333,998	3,041,000	4,444,444	1,111,111
明治四十二年	1909	26,999,999	15,000,000	15,000,000	18,000,000	22,000,000	5,000,000	2,500,000	2,500,000	3,500,000	900,000
明治四十一年	1908	30,251,711	17,000,000	17,000,000	20,000,000	25,000,000	5,000,000	2,500,000	2,500,000	3,500,000	900,000
明治四十年	1907	33,792,476	19,000,000	19,000,000	22,000,000	27,000,000	5,000,000	2,500,000	2,500,000	3,500,000	900,000
明治三十九年	1906	25,292,796	14,000,000	14,000,000	17,000,000	21,000,000	4,000,000	2,000,000	2,000,000	3,000,000	700,000
明治三十八年	1905	26,684,677	15,000,000	15,000,000	18,000,000	22,000,000	4,000,000	2,000,000	2,000,000	3,000,000	700,000
明治三十七年	1904	20,392,736	11,000,000	11,000,000	14,000,000	17,000,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	2,500,000	600,000
明治三十六年	1903	21,764,953	12,000,000	12,000,000	15,000,000	18,000,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000	2,500,000	600,000

合 計	神 戶 港									
	朝 鮮	支 那	關 東	香 港	英 領 印 度	海 峽 殖 民 地	關 領 印 度	佛 領 印 度	露 領 亞 細 亞	比 律 賓
42,522,735	2,955,977	4,000,000	5,000,000	5,000,000	10,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
42,522,735	2,955,977	4,000,000	5,000,000	5,000,000	10,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
42,522,735	2,955,977	4,000,000	5,000,000	5,000,000	10,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
42,522,735	2,955,977	4,000,000	5,000,000	5,000,000	10,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
42,522,735	2,955,977	4,000,000	5,000,000	5,000,000	10,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
42,522,735	2,955,977	4,000,000	5,000,000	5,000,000	10,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
42,522,735	2,955,977	4,000,000	5,000,000	5,000,000	10,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
42,522,735	2,955,977	4,000,000	5,000,000	5,000,000	10,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
42,522,735	2,955,977	4,000,000	5,000,000	5,000,000	10,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
42,522,735	2,955,977	4,000,000	5,000,000	5,000,000	10,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000







年次	輸出	輸入	計	輸出入超過額 △印入超	年次	輸出	輸入	計	輸出入超過額 △印入超
明治二九年	一、四三三、三六四	四、三三九、九一四	五、七七三、二八〇	三、〇〇五、四四六	明治三八年	五、六六八、〇〇八	一八、四九八、八三三	二四、一六六、八四一	一三、八二八、八二五
全 三〇年	二、三三三、四七〇	四、四四四、七三三	六、七六八、二〇三	二、〇〇五、〇三三	全 三九年	五、九〇〇、三三三	二四、八六八、七五五	三〇、七六八、〇八八	一八、九六八、四二二
全 三一年	三、一五五、〇八二	三、五五五、九七〇	六、七一一、〇五二	三、五九五、八六八	全 四〇年	六、三三七、五七九	三〇、四三三、六四三	三六、八一一、二二二	二四、〇九三、〇六四
全 三二年	六、三三三、九八八	六、四四四、〇九二	一二、七八八、〇八〇	一、一一一、〇九二	全 四一年	四、四七三、八八四	三、八八七、八八四	八、三六一、七六八	五、五八六、〇〇〇
全 三三年	九、六六六、五五五	九、七七七、四七七	一九、四四四、〇三二	一、一〇七、九二二	全 四二年	四、四七三、八八四	三、八八七、八八四	八、三六一、七六八	五、五八六、〇〇〇
全 三四年	二、六六六、五五五	一〇、四四四、〇三二	一三、一一一、〇三二	七、七七七、四七七	全 四三年	五、四四四、〇三二	三、〇〇〇、〇〇〇	八、四四四、〇三二	二、四四四、〇三二
全 三五年	一、五五五、〇九九	二、八八八、七三〇	四、四四四、七三〇	一、三三三、七三〇	全 四四年	六、六六六、五五五	三、七三三、七三三	一〇、四〇〇、二八八	六、六六六、五五五
全 三六年	一、八八八、七三〇	二、六六六、五五五	四、五五五、二八五	二、六六六、五五五	大正元年	五、〇〇〇、〇〇〇	三、三三三、三三三	八、三三三、三三三	一、六六六、六六六
全 三七年	三、〇〇〇、〇〇〇	一、六六六、五五五	四、六六六、五五五	三、〇〇〇、〇〇〇					

第二款 集散貨物の内外貿易別

外國貿易品價額より見たる前款の記述は、大阪港外國貿易中、單は大阪税關に於て輸移出手續を了へたる一小部分に過ぎざるを以て、眞に大阪港の地位を説かんとせば、更に全集散貨物につき精細なる觀察を施さるへからず。

大正元年中の大阪港海運集散貨物八百十四萬噸中、内地貿易は六百三十萬七千餘噸にして、總量の七割七分五厘を占め朝鮮貿易は二十六萬餘噸、同三分二厘を有し、外國貿易は百五十七萬餘噸、同一割九分三厘に該當す、而して其出入割合は内地貿易にありては出二割五分、入七割五分に當り三百九萬二千餘噸の大入超を示せり、朝鮮貿易は出五割五分、入四割五分の比にして二萬五千餘噸を出起し、外國貿易は出三割三分、入六割七分にして五十四萬二千餘噸の入起なりとす、即ち外國貿易品價より見たる税關統計にては、大阪は常に多大の出超を示せるに拘らず、貨物噸量に於て大入超を示せるは、既記の如く大阪が價格低く噸量大なる原料品を輸入し、價格大にして噸量の少なき精製品を輸出するが爲なりとす。

價格に就ては内地貿易品の如き千種萬様に於て、之が調査は殆んど不可能に屬するのみならず、假りに多大の勞費を以て之を算出することあるも、到底精確なる數字を得るの望みなきを以て之を省略するの已むなきに至れり、然れども當港外國貿易中の一

小部分たる、大阪税關經由のもの、みにても尙は一億一千七百萬圓の巨額に達するを見れば、全内外貿易貨物の價額より見たる、大阪港の地位は全國各港中の第一に位すへきは疑ふの餘地なからん。

因に茲に謂ふ所の外國貿易貨物中には神戸税關を經由して大阪港に出入する事實上の外國貿易をも包含せしめたり（後節輸送経路参照）

内外貿易別總量表

内 外 別	出	入	計	出 入 超
内 地	一、六〇七、六三四	四、七〇〇、三六〇	六、三〇七、九九四	△ 三、〇九二、七二六
朝 鮮	一四二、九八〇	一一七、三九七	二六〇、三七七	△ 二五、五八三
外 國	五五、三五八	一、〇五八、三二九	一、〇一三、〇〇〇	△ 五四二、九七一

第三款 内外貿易貨物月別噸量

内外貿易貨物の月別集散状態を見るに、内地貿易にありては出貨は一月冬枯期の十萬一千餘噸を最低とし、二月より三月に至りて最高位を示し、四、五、六月は一退一進著しき變動なく、七、八、九の三箇月に亘りて漸次遞減して夏枯の症状を呈し、冬物出廻り期の十月より十一月、十二月の、歳末荷動きと引續き好況を以て終を告げたり入貨も同じく一月より遞増し三月の四十五萬九千噸を最高潮とし逐次減少して六月には三十二萬八千噸に低下し、七、八兩月は稍恢復したるも九月には三十一萬四千噸に激落し、十月より漸増して十二月には四十三萬一千噸に達せり、即ち荷動季節は出入とも大差なきも梅雨季の影響は入貨に甚たしきもの如し。

朝鮮貿易貨物は移出は二月の五千八百噸を最低とし、三月より遞増して六月には一萬二千噸に達し、七、八兩月は九千噸臺に激落したるも九月には一躍一萬三千噸に恢復し、十月には一萬六千噸の最高潮に達し十一月、十二月と好況を持続せり、移入は二月の不況三月の好況は移出と同様なるも四、五と漸落し六月には俄然増加し、七、八、九、十は不況を持続、十一月に至りて又もや急激に増加し、十二月には最高潮に達せり、即ち出入とも二月は北鮮の結氷により大不況を示せること十一月、十二月の歳末終航荷動き



に活況を呈せるとは同様なるも、移出は概して季節の變化甚しきに對し移入は季節關係よりも寧ろ其主要品たる穀物類の市況如何に依るか如し。

外國貿易貨物は輸出は一月の二萬五千噸を最低とし、爾後遞増して三月には五萬噸を算し四、五、六、七の四箇は多少の増減あるも概して不況を示し、三萬噸臺より四萬噸の間の彷徨せり、八月より漸増して十月には五萬六千噸の最高潮に達し、十一月、十二月と遞減せり、輸入は一月より三月迄は遞増し、四月に於て一度減少したるも五、六は最好況を示し十一萬噸臺に上れり、七月より漸落し、九月には六萬三千噸の最低位に陥り、十月より恢復し十二月には再び九萬五千噸に達せり。

之を要するに大体に於て内地貿易は上半期に於て活躍し、下半期は稍沈靜するの傾きあるも朝鮮及外國貿易は寧ろ下半期に旺盛なるもの如し。

内外貿易貨物月別噸量表

出 貨

月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
内地	10,733	14,339	16,125	14,750	15,166	14,566	16,997	14,677	11,061	16,261	13,616	13,723
朝鮮	8,559	5,555	2,186	2,222	2,186	3,379	9,577	9,677	13,304	16,533	15,061	15,009
外國	25,268	13,400	50,334	36,933	41,996	9,999	6,266	4,166	43,999	56,666	50,999	43,666

入 貨

月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
内地	37,709	45,200	49,666	43,433	33,666	38,333	37,999	36,591	34,666	50,777	43,666	43,666
朝鮮	10,999	5,999	11,371	8,666	6,666	15,447	7,667	5,222	7,777	7,333	11,333	18,008
外國	26,710	39,201	38,295	34,767	26,999	22,916	30,332	30,900	26,889	43,444	32,333	25,658

第四款 内外貿易貨物の品類別

内地貿易貨物六百三十萬噸中、一、食品は一割五分、九十四萬二千噸にして出入割合は出二割七分弱、入六割三分強に相當し、四十七萬一千餘噸の入超を示せり、是れ米穀の二十一萬噸、砂糖の十萬噸等大量貨物の入貨あるに因る、二、原料品は五割四分三百四十一萬六千噸を占め出貨九分強入貨九割一分弱の割合にして二百七十九萬九千餘噸の大入超を示せり、即ち入貨は石炭の百八十五萬噸、木材の四十萬噸、薪炭の三十二萬噸及石材の二十一萬噸等大阪に於ける消費及原料品の大部を包含せるに反し、出貨は僅に礫石類の十二萬餘噸を算するのみ、三、原料用製品は一割六分、九十七萬一千餘噸を有し、出入割合は出貨四割四分弱、入貨五割六分強に當り是又十四萬五千餘噸の入超を呈せり、出貨には各種肥料の十六萬噸、鍍材の八萬四千噸、綿糸の三萬四千噸等を算するも入貨には煉瓦の十八萬三千噸、鍍材の六萬九千餘噸、雜肥料の六萬四千噸、瓦の五萬四千噸等巨大なる貨物多きに依る、四、全製品は一割五分九、十三萬九千餘噸内出貨六割六分強、入貨三割四分弱にして三十二萬噸の出超を示せり、出貨の主なるものは雜貨類の十七萬六千餘噸を最とし鍍製品四萬四千噸、硝子製品の三萬六千噸、和洋紙の三萬八千噸、綿布類の二萬九千噸、藥品の二萬五千噸等にして入貨は和洋紙の九萬三千噸、敷物類の三萬九千噸、繩隊の三萬六千噸、石油の一萬六千噸等なりとす。

朝鮮貿易貨物出入總量二十六萬噸中 一、食品は總量の四割五分十一萬六千噸にして、内移出は一割六分弱、移入は八割四分強に當り七萬九千噸の入超を示せり、食品の移入は朝鮮貿易中の首位を占むるものにして、米の三萬九千噸、豆の五萬一千噸等を算するも、移出は和洋酒の七千三百噸に指を屈するのみ、二、原料品は僅に總量の九分二萬四千噸にして、移出は木材の五千噸、棉花の四千噸等移入は棉花及棉實の八千噸、獸皮獸骨の一千六百噸等を主なるものとし出入割合は畧は相俟はせり、三、原料用製品は同一割一分三萬八千餘噸内、移出八割二分弱、移入一割八分強にして一萬八千噸の出超を示せり、其主なるものは移出の鍍材八千八百噸、綿糸、石粉、セメントの各二千噸等にして移入は僅に雜肥料の三千噸あるのみ、四、全製品は同三割五分九十萬噸にして其全部は輸出と見るべく、僅に三厘弱の移入あるのみ、即ち全製品は移出貿易の第一位を占むるものにして其主なるものは繩隊の二萬八千噸、燐寸の四千噸、鍍製品の一萬三千噸、綿布の七千噸、和洋紙の四千噸を始め、硝子製品、家具類、

各種雜貨等なりとす、之を要するに朝鮮貿易は食料品の供給を彼に仰ぎ全製品を移出するものにして、殖民地貿易の特徴を遺憾なく發揮したるものなり。

外國貿易貨物百五十七萬三千噸中 一、食料品は總量の二割三分二十一萬一千餘噸にして輸出五割四分弱、輸入四割六分強に相當し、八千餘噸の出超を示せり、其主要なるものは、輸出にありては砂糖の二萬六千噸、昆布の一萬一千噸、乾物、醸造品及果實の各九千噸、米の七千噸、和酒の三千噸等を擧ぐべく輸入にありては砂糖の五萬六千噸、米の一萬八千噸、豆の一萬二千噸等とす、而して其輸出は支那及關東洲に對するもの過半を占む、二、原料品は同二割九分四十五萬七千噸にして其九割六分迄は輸入に屬し、四十三萬六千餘噸の大入超を呈せり、其主なるものは棉花の二十二萬噸、棉質の三萬四千噸、礫石類の六萬七千噸等にして輸出は擧ぐべきなし、三、原料用製品は同二割七分四十一萬九千噸を有し内輸出は二割二分強輸入は七割八分弱にして是亦二十三萬九千噸の入超なりとす、輸出の主なるものは鏡材の二十一萬八千噸、雜肥料の四萬九千噸等にして、輸入は綿糸の五萬一千噸を最とす、四、全製品は同三割一分四十八萬二千餘噸を占め内輸出は六割強、輸入は四割弱にして十二萬三千噸の出超を示せり、其主なるものは輸出にありては雜貨の四萬五千噸、燐寸の五萬一千噸、硝子及同製品の四萬九千噸、綿布の三萬五千噸、メリヤスの二萬二千噸及裝身用品の一萬一千噸等を算し、輸入は鏡製品の二萬三千噸、金屬線の二萬一千噸、硝子類の一萬五千噸、鏡管の一萬三千噸等を擧ぐべく其對外國關係は輸出は支那、輸入は歐米を主なるものとす。

内外貿易貨物品類別噸量表

Table with columns: 品類別 (Product Category), 内貨 (Domestic Goods), 内地 (Domestic Region), 移出 (Export), 移入 (Import), 外貨 (Foreign Goods), 外國 (Foreign Region), 輸出 (Export), 輸入 (Import). Rows include 食料品 (Food), 原料用製品 (Raw material products), 全製品 (Total products), 其他 (Others).

第五款 内外貿易貨物の品類別

内外貿易貨物の品類別觀察は前款の如くなるか、更に之を各品種に區分せば左表の如し、之に關する説明は前款と畧は同一なる

を以て省略す。

内外貿易貨物品種別表

Table with columns: 品名 (Product Name), 内貨 (Domestic Goods), 内地 (Domestic Region), 移出 (Export), 移入 (Import), 外貨 (Foreign Goods), 外國 (Foreign Region), 輸出 (Export), 輸入 (Import). Rows include 食料品 (Food), 海草 (Seaweed), 其他 (Others), 原料品 (Raw materials), 其他 (Others), 海草 (Seaweed), 其他 (Others), 原料品 (Raw materials).

品名	内地		朝鮮		国外		品名	内地		朝鮮		国外	
	入	出	入	出	入	出		入	出	入	出	入	出
漆器	六八四九	三、三六八	二四〇	—	—	—	二	—	—	—	—	—	—
陶磁器	三三三三	二、四九〇	二八四四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
磁器	二、四九〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
和傘及提灯	二、三三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
扇子及扇	一、〇九九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
刷毛及刷具	一、〇九九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
家布類	一、〇九九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
綿服大物類	三、九四四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
洋反物類	三、九四四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
綿服小及タオル	二、二九九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
被服	四、四四八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
洋傘	一、六六〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
朝服	三、八八七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
裝身用品	一、一五三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
履物	七、八七〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石鹼	四、五五六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
煉瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石灰(火山灰を含む)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石炭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
人造肥料	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他肥料	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
經木及多程直田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
軸木	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
加工木材	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
綿糸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他糸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
油脂及蠟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
染料	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
工業用藥品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全製	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石油	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

品名	内地		朝鮮		国外		品名	内地		朝鮮		国外	
	入	出	入	出	入	出		入	出	入	出	入	出
小間物及化粧品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
文房具	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
玩具	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
娛樂用品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
和洋紙	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
印刷物	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
藥品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
火藥	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
車輪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
雜貨	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他雜品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
金銀塊寶	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
種子及苗木	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
雜品	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
家畜及家禽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
牛	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
生鳥	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
馬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第六款 重要輸出入品の消長

大阪港の内國貿易に關する統計は從來之を缺くを以て之が對照を見るに由なし、外國貿易にありては大阪稅關統計の輸出入品價額により、不完全ながら其一斑を窺ふに足るを以て茲に掲げて參照に資せり。

大阪港輸出入重要品三十ヶ年對照表

年次	綿	織	糸	綿	布	精	糖	清	酒	米	及	豆	種	花	砂	糖	入
明治一六年	〇	〇	〇	〇	八、八六九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	八、九四四
一七年	〇	〇	〇	〇	一〇、〇八一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一〇、〇九〇
一八年	〇	〇	〇	〇	一七、八八六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一七、〇五七
一九年	〇	〇	〇	〇	一一、三三八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一〇、五五七
二〇年	〇	〇	〇	〇	四、六四八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一〇、五五七
二一年	〇	〇	〇	〇	一、三四四	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一五、二六八
二二年	〇	〇	〇	〇	一、一〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一四、三三七
二三年	〇	〇	〇	〇	三、三三八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一三、二二六
二四年	〇	〇	〇	〇	五、八六五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二七、七七〇
二五年	〇	〇	〇	〇	九、六六八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二九、三六三
二六年	〇	〇	〇	〇	一三、七五五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三〇、七四四
二七年	〇	〇	〇	〇	一三、七五五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三〇、七四四
二八年	〇	〇	〇	〇	一四、五七六	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六、七〇二
二九年	〇	〇	〇	〇	一五、一六三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六、七〇二
三〇年	〇	〇	〇	〇	一五、八四九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六、七〇二
三一年	〇	〇	〇	〇	一六、八五八	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六、七〇二
三二年	〇	〇	〇	〇	一六、九七九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六、七〇二
三三年	〇	〇	〇	〇	一六、九七九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六、七〇二
三四年	〇	〇	〇	〇	一六、九七九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六、七〇二
三五年	〇	〇	〇	〇	一六、九七九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六、七〇二
三六年	〇	〇	〇	〇	一六、九七九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六、七〇二
三七年	〇	〇	〇	〇	一六、九七九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六、七〇二
三八年	〇	〇	〇	〇	一六、九七九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六、七〇二
三九年	〇	〇	〇	〇	一六、九七九	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三六、七〇二

備考 四十四年元年は移出入を含む

### 第三節 輸送系路

#### 第一款 汽船貨物と航路關係

大正元年中出港九千七百餘隻登簿噸數三百二十二萬餘噸、入港九千七百餘隻同三百二十五萬餘噸の大阪港出入汽船により、輸送せられたる貨物は、出九十三萬餘噸、入百六十九萬餘噸にして、此中より空船を控除し一隻平均載貨を求めれば、出にありては、百五噸、入にありては百八十二噸に相當せり、即ち汽船の登簿噸一噸に對する載貨割合は、出三割四分、入五割六分にして、常に汽船の方載貨多し、更に之を内外航路別に見るに

一内地航路 内地航路從事汽船により輸送せられたる貨物は、出六十九萬餘噸、入百四十三萬二千餘噸にして、一隻平均載貨は出港時八十三噸、入港時百六十二噸に當り、登簿一噸に對する平均載貨は出三割一分、入五割六分なりとす、而して一隻當り載貨の最も大なるは北海航路從事船にして、出入共に一千噸以上を有し殆んど滿載の好況を呈せり、然れども大正元年十月以前は寄港船少かりしを以て、一箇年を通しての輸送貨物は出一萬六千餘噸、入十二萬八千七百餘噸に過ぎず、是に次ぐを臺灣航路及九州各港を経て沖繩に至る航路とし、一隻平均載貨は臺灣航路にありて出入共に一千餘噸、登簿一噸當り七割、九州沖繩線にありて出百五十噸、入二百四十噸、登簿一噸當り出二割入三割に相當す、一箇年の輸送高は出三萬九千餘噸、入八萬七千餘噸なりとす、如斯北海道及臺灣線の入貨多量なるは從事船の多數が片荷輸送の不定期船なるか爲なるへし、之を載貨の種類に見るも入港時にあ

全	八、五九三、五三三	一〇、二九一、六七七	六、七五九、三三三	一、九〇八、八四二	二、三三〇、三三九	五、六五五、〇七二	一、一三三、〇三二	八、七三三、五三〇	四、〇九二、四六六	八、七七一、四一四
全	六、九二一、〇三六	八、六八八、六六九	九、五六一、六六九	一、七三三、二六八	二、四五一、七五五	五、二四六、七四四	一、四二一、九三三	五、九八八、〇三〇	四、八四四、七九九	五、六〇三、四三三
全	九、〇八九、九六八	一一、〇八五、五二二	一、六五五、一八七	一、五五二、〇三三	二、七六四、五五五	三、五六一、一七六	一、五二四、七四四	八、八八九、七一一	三、〇〇四、六三七	六、五六一、六六八
全	三、七四三、八八九	一一、九四四、九六〇	一、一〇三、五五九	一、一六〇、〇三三	二、四〇三、七七八	二、九一九、三三三	一、八五二、四四六	一、四〇三、〇七二	二、五五五、五三三	六、〇〇三、五九九
全	一、三、五九九、八六六	一、六、六六六、六六六	八、八、五五五	一、八、三、三、三	二、四、六、二、三	二、〇、五、三、三	三、七、五、四、三	八、〇、三、七、一	五、一、九、一、六、〇	五、八、七、五、三
全	一、九、三、三、六九五	一、六、六、六、六六六	八、八、五五五	一、八、三、三、三	二、四、六、二、三	二、〇、五、三、三	三、七、五、四、三	八、〇、三、七、一	五、一、九、一、六、〇	五、八、七、五、三
大正元年	一、九、三、三、六九五	一、六、六、六、六六六	八、八、五五五	一、八、三、三、三	二、四、六、二、三	二、〇、五、三、三	三、七、五、四、三	八、〇、三、七、一	五、一、九、一、六、〇	五、八、七、五、三

りては北海道線は木材、海産物、魚肥料等、臺灣線は砂糖、礫石、及米等を滿載し來るもの多きも、出港時は雜貨類の如き輕量品を積載するに過ぎず、殊に北海道線にありては社外船の臨時輸送に従事するもの多く、之等は空船のまゝ、出港するか或は他航路に向ふものにして、益片荷の傾向を助長せり、故に大阪よりの北海道行貨物は從來多く神戸を經由したるも、近時に至り日本郵船が東廻定航船の寄港を開始したるを以て、大正二年以降北海道航路の貨物關係は一變すべきを疑はず。

之に次て瀬戸内海各航路即ち四國、中國、九州東海岸各港に至るものは、従事船數に於ても航海度數に於ても大阪出入汽船の過半を占むるを以て輸送量亦從て多大なり、然れども船型概して小なる貨客併用船多きを以て一隻平均載貨は少量なるを免れず、而して此中にありて九州各航路従事船は、多くは中國沿岸に寄港し且不定期船をも包含するを以て、其各航路一隻平均載貨は出百三十噸内外、入二百噸より三百噸内外に達し、登簿一噸當りも出は二割より五割、入は三割より十割に及べり、一箇年の輸送量は出二十六萬二千餘噸、入五十四萬五千餘噸なりとす、四國、中國及淡路沿岸各航路は貨客併用の小型定期船のみなるを以て、一隻平均載貨は多きも出百噸入二百噸内外を出てす、少なきは出八噸より十六噸、入十六噸内外のものあり、前者は中國線及下の關線にして四國、中國、沿岸各港に寄港し且貨物本位なるを以て登簿一噸當り載貨も出四割、入八割八分に當れり、後者は淡路及高松線等にして共に直航航路にして寄港地少なく且旅客を本位とするを以て載貨最も少なく、登簿一噸當りも僅に六分より一割四分内外に過ぎず、然れども瀬戸内海各航路船の一隻載貨量は如斯少量なるに拘らず、其従事船の多數なる結果一箇年の總輸送高は出四十七萬一千餘噸、入九十九萬四千餘噸に達せり、以て其運輸交通關係の如何に密接なるかを想はしむるに足らん。

南海岸に至るもの即ち紀州各港及高知線従事船も又貨客併用船にして船型小なりと雖も、陸路交通運輸の便なきを以て載貨比較的多量にして平均一隻載貨、出にありては前者は三十八噸、後者は百四十八噸、入にありては前者は六十六噸後者は百五噸に達し、兩者を合して一箇年の輸送量は出八萬五千餘噸、入九萬四千餘噸を算す。

其他山陰及北陸線の出貨三萬六千噸、入貨七萬四千噸、名古屋線の出入五萬一千噸、東海、東山沿岸各港の出入四萬五千噸等あり、之等の一隻平均載貨及登簿一噸當り載貨は共に良好なり、之れ多くは貨物本位なる不定期船を包含するか爲なるべし。

二朝鮮航路 本航路従事船により輸送せられたる貨物は移出十三萬二千噸、移入十一萬餘噸、計二十四萬二千餘噸にして一

隻平均載貨は出四百八十五噸、入四百三噸、登簿一噸當り出六割三分、入五割四分に相當す、本航路船は大部貨客併用の定期船なるも、殆んど大阪を起点とせるものなるを以て其載貨比較的多量なり、殊に雜貨類の如き高價品を以て出港載貨四百八十五噸を算するに至つては、如何に移出貿易の旺盛なるやを知るに足らん。

而して従事船の一隻平均載貨は南朝鮮と北朝鮮とにより大差なきも、前者は航海度數多きを以て輸送總量は出十萬七千餘噸、入九萬六千餘噸に達するに反し、後者は出二萬五千噸、入一萬三千噸を算するのみ、是れ素より人口の粗密、文化進運の遲速、港灣の良否等諸他の關係上已むを得ざる所なるも、京元線開通の曉には此形勢に一大變化を與ふるなるべし。

三外國航路 外國航路従事船の未だ大阪に寄港するもの少なきを以て、是等により輸送せらるるものは僅に大阪稅關經由貨物の四割二分、總外國貿易貨物の一割六分、即出十萬餘噸、入十五萬五千餘噸に過ぎず、他は悉く神戸港碇泊本船に積卸せられたるものなり、此中にありて大連線は大阪を基點とせる定期航路なるを以て、貨物も從て多く出六萬餘噸、入二萬六千餘噸を算し、北支那航路も又定期船の出入多きを以て出入貨五萬餘噸に達せり。

此兩航路船は貨客併用船にして一隻平均、載貨比較的多量なり、其他の各航路は殆ど輸入のみにして不定期船大部を占む、從つて其平均載貨量は多大なりとす。

航路別汽船積載貨物表

航路別	出		入		航路別	出		入	
	積載貨物	従事船平均	積載貨物	従事船平均		積載貨物	従事船平均	積載貨物	従事船平均
内地	三三、三二	三六	五八、九七	三三	高松線	八五元	二六	八六四	一七
紀伊線	七、六四	八	一、二七	二	高知線	五、三二	一四八	三、一五	一〇
山真線	二、三三	三	一、三六	二	四國線	六、二二	一三	五、〇七	一〇
甲浦線	二、三三	三	一、三六	二	播州線	二、二九	三	一、三〇	三
德島線	四、九	五	三、三九	四	岡山線	一八、四三	五二	三三、〇六	六

航路別	出		入		航路別	出		入	
	積載貨物	従事船平均積載貨物	積載貨物	従事船平均積載貨物		積載貨物	従事船平均積載貨物	積載貨物	従事船平均積載貨物
下ノ關線	65,586	110	14,237	37	朝鮮計	67,822	110	14,237	37
中國線	43,586	97	8,659	19	北朝鮮	17,146	48	4,615	11
内海線	48,833	177	1,779	8	南朝鮮	50,676	62	13,622	26
別府線	—	—	—	—	計	117,498	172	27,859	43
鹿兒島線	25,536	133	4,638	18	外	33,322	65	11,026	22
西廻九洲線	26,677	129	4,144	17	關東	6,633	15	4,999	12
沖繩線	18,555	159	2,633	10	北支那	27,904	50	3,998	13
南大東島線	336	3	2,205	7	長江流域	3,299	3	480	2
横打線	19,333	126	1,645	6	交趾支那	—	—	—	—
其他臺灣沿岸線	1,577	3	9,966	4	英領印度	—	—	—	—
山陰線	3,194	15	5,626	23	南洋諸島	8,434	13	3,659	11
大北線	4,339	14	1,450	6	英吉利	—	—	—	—
名古屋線	26,268	73	3,022	11	亞米利加	—	—	—	—
其他東海沿岸線	16,477	30	5,144	8	亞非利加	—	—	—	—
東山沿岸線	2,003	10	2,333	7	計	100,290	191	16,683	33
東廻小樽線	1,100	5	5,434	19	計	33,453	65	11,683	23
北海道及樺太線	2,666	13	1,333	6	計	—	—	—	—

第二款

帆船船貨物と國別沿岸關係

大正元年中帆船船により大阪に出入せる貨物は出百三十三萬五千餘噸、入四百七十七萬八千餘噸、計五百五十一萬七千餘噸を算するも、此中には阪神間接續輸送貨物出入百九十四萬二千餘噸を包含し、是に屬する貨物の運輸系統は自ら異なるものあるを以て之を控除せば其他の帆船船輸送は出貨五十六萬八千七百餘噸、入貨三百萬一千餘噸にして、帆船貨物の大部は入貨に屬す、今阪

神間接續輸送貨物を除きたる、入港帆船七萬九千餘隻に充つるときは、入港時の一隻平均積載貨は三十八噸弱に相當す、出港時にありては其七八割迄は空船なるを以て正確なる一隻平均積載貨を求むるに由なし、而して輸送量の最も大なるは九州各國沿岸にして出入總量百四十萬二千餘噸を算するも内、百三十二萬四千餘噸は入貨に屬し、出貨は僅に七萬七千噸に過ぎず、就中最も多量なるは筑前沿岸の出入貨にして出一萬九千噸、入百十二萬二千餘噸に達し、帆船輸送貨物の約三分の一を占む、是れ若松炭の大輸送あるに依る、豊前の出入七萬五千餘噸も又注意を惹くに足る、殊に出貨の三萬二千餘噸を顯著なるものとす。之に次くを大阪附近即ち攝津、和泉、紀伊、及淡路沿岸への出貨十二萬八千餘噸、入貨六十七萬三千餘噸、計八十萬一千餘噸及中國沿岸諸國即ち播磨より長門に至る七箇國沿岸の出二十三萬四千噸、入三十六萬七千餘噸、計四十九萬餘噸なりとす、内出貨にありては備前への十一萬二千餘噸、神戸を除きたる攝津各港への八萬四千噸、播磨への六萬八千噸、阿波への四萬五千噸及設岐、伊豫への各三萬三千噸を主なるものとす、入貨にありては和泉よりの三十一萬一千餘噸を最とし、長門よりの二十五萬七千噸、紀伊よりの十七萬八千噸、播磨よりの十五萬五千噸、土佐、淡路よりの各十一萬噸、讃岐よりの十萬三千噸等を算す。其他東海沿岸地方は關係頗る疎にして出入僅に一萬一千噸に過ぎず、日本海に面せる山陰北陸方面は入貨の三千噸あるのみ、外航としてはカムサツカより魚類の二百餘噸、北米ポートランドより木材等の入貨あり。之を要するに帆船貨物の出入は特に瀬戸内海沿岸地域に集中せられ、他は謂ふに足るべきなし、而して帆船積載貨の主なるものは入にありては石炭を第一とし、薪炭、木材、石材等之に次ぐ、石炭の仕出地は筑前の若松、長門の本山等とし、薪炭は土佐の安藝、奈半利、下田、須崎各港、木材は紀伊の新宮、日和佐及土佐各港、石材は讃岐の小豆島、播磨の家島、備中の北木、安藝の倉橋等なり。

帆船船輸送貨物國別表

國別	出		入		國別	出		入	
	貨	噸	貨	噸		貨	噸	貨	噸
内地	65,586	110	14,237	37	和泉	9,966	33	3,133	11
播磨	—	—	—	—	紀伊	3,133	7	17,146	43
					淡路	—	—	—	—
					阿波	—	—	—	—
					波路	—	—	—	—

國別	出	入	國別	出	入	國別	出	入
薩摩	三、五〇〇	二、六七〇	志摩	—	—	伊勢	—	—
大隅	—	—	越前	—	—	尾張	—	—
日向	—	—	越前	—	—	三河	—	—
豐後	—	—	但馬	—	—	武藏	—	—
長門	—	—	伯耆	—	—	伊豆	—	—
周防	—	—	出雲	—	—	北海道	—	—
安藝	—	—	石見	—	—	計	—	—
備後	—	—	壱波	—	—	外	—	—
備前	—	—	肥後	—	—	カムサツカ	—	—
播磨	—	—	肥前	—	—	ゴートランド	—	—
土佐	—	—	筑後	—	—	計	—	—
伊豫	—	—	筑前	—	—	合計	—	—
讃岐	—	—	豊前	—	—	合計	—	—
讃岐	—	—	豊前	—	—	合計	—	—

第三款 阪神間帆船船貨物

大阪港出入帆船船貨物中阪神間輸送に属するものは、特殊の關係を有すること前記の如し、蓋し大阪築港開放以來出入船舶の増加顯著なるものありと雖も、其大部は内國沿岸航路船にして、外國航路は未だ遠く伸ふるに至らず、内國航路にありても尙其一部は定期船の寄港を見ざるを以て、外國貿易貨物の大部及内地貨物の一部は今尙神戸港に於て中継接続せらるゝを免れず、即ち阪神間航行帆船積載貨物の殆ど全部は此種の中継接続貨物に屬し、事實上阪神兩地間の貿易に屬する貨物は僅に其一小部分を占むるのみ、此間の航行に従事せるものは曳船用大型解船約五百隻の外、獨航し得る帆船數十隻を算し、大正元年中の延航行數三萬三千餘回、一日平均出入約二百隻に達し、其輸送總量は出七十六萬六千餘噸、入百十七萬六千餘噸、合計百九十四萬三千餘噸

を算せり、即ち一隻平均載貨は出二十噸強、入三十六噸に相當す。

此中外國貿易貨物に屬するもの輸出四十一萬五千噸、輸入八十九萬九千噸、計百三十一萬四千餘噸、朝鮮貿易に屬するもの移出一萬餘噸、移入七千二百餘噸、計一萬七千餘噸、内地貿易に屬するもの出三十四萬一千噸、入二十六萬九千噸、計六十一萬噸にして内地貿易貨物中十萬一千噸、入貨四萬五千噸、計十四萬六千噸は事實上阪神間貿易貨物と認むべき如し。

阪神間帆船船貨物表

内地	出	入	外	出	入
朝鮮	—	—	計	—	—
内地	—	—	計	—	—
合計	—	—	計	—	—

第四節 阪神運輸關係

第一款 輸送狀態

大阪港の運輸狀態を説かんとせば先づ神戸港との關係を明かにせざるべからず、阪神兩港は共に大阪灣頭に位置し、海上僅に十六哩を隔て、指呼の間にあり、之を兩港に區別するよりは寧ろ一大港と見るを至當とするの感なくんばならず、蓋し神戸港は往時の堺、武庫、住吉浦の如く大阪の外港として發達し來りたるものなるも、時運の大勢は運輸機關をして直に貨物の集散地に接続せしむるを必要とするものあり、於茲てか大阪に一大築港を起し、大阪集散貨物は直に大阪に於て船舶に接続せしむるに至れり、されは大阪の外港としての神戸港の任務は既に其終りを告げたるべき筈なるも大阪築港の設備未だ完たからず、商取引機關尙備はらざるに加へて、多年の因襲容易に變改し難きものあり、今尙外國航路船の多くは大阪に寄港せずして、輸出入貨物の大部は依然神戸港に於て本船に積卸せられつゝあり、然れども如斯大勢に背馳し、利害探算を度外視せる現象は、恒久的性質を帯ぶるものにあらずして、貨客集散事情の周知せられ設備の完成するに伴ひ漸次移動すべきものたるは、現に年々歳々新航路寄港船の大阪に増加しつゝあるに徴して明なるべし。

阪神間現在の運輸關係は前項畧叙せるか如く頗る複雑を極め、一見之か真相を知るに苦しむものあり、今之か總ての場合を列舉せんか。

出 貨 の 場 合

- 一、大阪にて輸出手数を了へたる後、神戸に回漕し、直に碇泊本船に移載するもの。
- 二、神戸に回漕し、直に神戸税關にて輸出手数をなし、本船に移載するもの。
- 三、神戸に回漕陸揚の後税關手数を了し本船に積込むもの。
- 四、神戸に回漕一旦倉庫に收容せられたる後更に輸出手数を受け本船に積載するもの。
- 五、大阪税關梅田出張所にて輸出手数を了し、鐵道にて神戸に輸送し、直に本船に積込むもの。
- 六、鐵道にて神戸に輸送後、同地税關に於て輸出手数をなすもの。
- 七、鐵道にて神戸に輸送後、一旦倉庫に收容せられ、後同地税關に輸出申告をなすもの。

入 貨 の 場 合

- 一、神戸入港本船より解舟に移し、大阪に回漕後大阪税關にて輸入手續を爲すもの。
  - 二、同解舟に移したるまゝ、神戸税關の輸入手数を受け、直に大阪に回漕するもの。
  - 三、神戸税關上屋に陸揚し、輸入手数を了へたる後、大阪に回漕するもの。
  - 四、同輸入手数終了後一旦倉庫に收容せられ、後更に大阪に回漕するもの。
  - 五、神戸陸揚後保税倉庫に收容せられ、後保税のまゝ、大阪に回漕し來りて大阪税關の手数を受くるもの。
  - 六、神戸税關輸入後鐵道にて大阪に輸送するもの。
  - 七、保税のまゝ、鐵道にて大阪に輸送し來り、大阪税關梅田出張所にて輸入手数をなすもの。
  - 八、神戸税關輸入、一旦倉庫に收容後更に鐵道にて大阪に輸送せらるゝもの。
- 以上は外國貿易貨物の場合を擧げたるものにして、内國貿易貨物の場合は是より税關々係を除きたるものと知るべし。

叙上の如く運輸關係の錯雜せる結果、阪神間接續貨物の調査は最も困難を極めたりと雖も、税關當局者の多大なる援助と運輸關係業者の好意とにより辛ふして其大要を知るを得たり。

之に依れば阪神間海運總集散貨物二百二萬八千餘噸中、神戸を中繼港として各港との間に集散したるもの、即ち阪神間接續貨物は出六十六萬四千噸、入百十三萬一千噸、計百七十九萬六千餘噸を有し、大阪港海運總集散量の二割二分に該當す、而して此内解船によりし出十萬一千噸、入四萬五千噸、計十四萬六千噸及汽帆船によりし出六萬七千噸、入一萬八千噸、計八萬五千噸、兩者を合して出入二十四萬一千噸は、純然たる大阪兵神兩地間の需給關係と見るべきものなるも、尙此中には幾分調査洩となりたる中繼貿易貨物を包含するなきを保せず、されど本統計には姑く是を兵神出入貨物として計上せり、倍之に依りて大阪港海運總集散貨物出二百二十六萬五千餘噸、入五百八十七萬六千餘噸、計八百四十四萬一千餘噸中、大阪直接出入と神戸接續出入との比を見るに、出貨にありては大阪積五割三分、神戸積四割七分、入貨にありては大阪卸七割八分、神戸卸二割二分に相當せり、其神戸接續の比較的出貨に多くして入貨に少なき所以は、入貨の場合は不定期船により大量の原料品を滿載し來るもの多く、而して是等は直に仕向地たる大阪港に入港し神戸を経由せざるに依るものなり。

第 二 款 内 外 貿 易 別

更に之を貿易關係により見るときは、内地貿易貨物にありては、大阪港直接出入五百八十四萬四千噸、神戸經由四十六萬三千噸にして其比は九割二分五厘と七分五厘に相當し、朝鮮貿易貨物は大阪直接出入二十四萬二千噸、神戸經由一萬七千噸にして其比は九割四分と六分に當れり、斯く内地及朝鮮貿易貨物は神戸を経由するもの比較的少なしと雖も、外國貿易貨物に至りては尙神戸經由の方遙かに優勢を占め、大阪直接出入は僅に一割六分二十五萬八千餘噸にして、神戸經由は八割四分百三十一萬四千餘噸の多きを算せり、即ち阪神間接續貨物百七十萬餘噸中、内地は二割六分、朝鮮は一分、兩者を併せて二割七分に過ぎざるに反し、外國貿易貨物は其七割三分を有せり。

從來大阪港の對外貿易と稱するものは所謂大阪税關通過貨物にして、事實上の大阪對外貿易に就ては單に臆測するに止まりしか今回調査の結果神戸經由貨物の仕出及仕向地關係を詳かにするを得たるを以て、本書には神戸税關に於て輸出入手数を爲したる



も事實上大阪に出入せる貨物は、大阪税關取扱貨物と共に之を大阪港の外國貿易貨物として計上せり此種の神戸税關經由外國貿易貨物は、輸出二十五萬六千餘噸、輸入七十一萬三千餘噸、合計九十五萬五千餘噸にして、大阪税關取扱貨物即ち大藏省の貿易統計に表はれたる所謂大阪港外國貿易貨物は、輸出二十五萬九千餘噸、輸入三十五萬五千餘噸、計六十一萬四千餘噸なり、之に依つて見れば從來の大阪港外國貿易統計なるものは、大阪港に於ける事實上の外國貿易貨物の三割九分を計上せるに過ぎざるを知るべきなり、而して上記大阪税關取扱の外國貿易貨物中にも神戸に於て本船積卸を爲したるもの比較的多く、輸出十五萬八千餘噸、輸入十九萬六千餘噸、計三十五萬五千餘噸を算し、大阪税關取扱貨物中の五割八分に當れり。

是等神戸經由貨物の大部は、大阪港に航路を有せざる地方に集散するものなりと雖も、現に大阪よりの定期航路を有する地方にすら尙神戸經由貨物尠ならず、是は素より従事船の多少、荷役の關係及積洩れ等諸種の事情によるものならんも、慣習の久しき今日の狀態を馴致し、阪神間の接續回漕費に年々百餘萬圓（一噸六十錢と假定す）を徒消して敢て怪むべきは不可思議の現象と謂はざるべからず。

大阪海運集散貨物貿易別輸送経路表

内 地	大阪		神戸		大 阪		神 戸		計
	積	卸	積	卸	積	卸	積	卸	
大阪税關手數	1,368,556	3,921,264	1,267,534	4,455,868	3,445,511	4,700,330	1,267,534	4,455,868	11,198,052
朝鮮 神戸税關手數	1,311,111	10,269,611	1,311,111	10,269,611	1,311,111	10,269,611	1,311,111	10,269,611	23,553,356
大阪税關手數	100,226	1,581,912	100,226	1,581,912	100,226	1,581,912	100,226	1,581,912	3,857,382
外國 神戸税關手數	100,226	1,581,912	100,226	1,581,912	100,226	1,581,912	100,226	1,581,912	3,857,382
計	1,268,113	6,485,997	2,679,097	16,909,303	2,679,097	16,909,303	2,679,097	16,909,303	24,876,500

以上の外鐵道に依り阪神間に出入せる貨物は、出六萬二千九百餘噸、入八萬七千三百餘噸、計十五萬餘噸を算し内、内國貿易貨物は

出一萬五千三百餘噸、入二萬八千餘噸、計三萬六千餘噸、外國貿易貨物は出四萬七千六百餘噸、入六萬六千五百餘噸にして、内國貿易貨物中には阪神兩地の需給品及海運に接續せるもの、兩者を包含するも、今其區別を知るに由なし、外國貿易貨物は出貨は總て神戸税關に於て輸出手數をなし、入貨も大阪税關梅田出張所に於て、輸入手數を爲せる三百二十九噸を除けば、他は悉く神戸税關手數後大阪に輸送せられたるものなり。

阪神間接續鐵道貨物貿易別表

出入別	内 地		外 國		計
	積	卸	積	卸	
出	15,310	47,624	3,329	113,816	132,269
入	28,774	66,192	3,329	113,816	148,101
計	44,084	113,816	6,658	227,632	278,374

備考 外國貿易貨物中には移出入を含む噸量は凡て海運噸に換算せり

第三款 神戸經由大阪港外國貿易貨物の消長

築港以前は措て問はず、開放以來時に消長ありと雖も、大型船の出入年を逐ふて増加し、神戸經由貨物は漸次減少の傾向あり、築港開放前年即ち明治三十五年大阪税關取扱外國貿易品價額は出入合計貳千六百九拾貳萬圓にして、内神戸港積卸六割八分、大阪港積卸三割二分なりしも、開放後の三十七年に至りては出入貿易額は遙に増加したるも、依然神戸經由六割五分大阪港積卸三割五分の比を維持し、十年後の大正元年には貿易額は四倍三分強に達したるに拘らず、大阪港積卸は五割五分に増加し、神戸港經由積卸は四割五分に減少せり、以て築港利用の如何に増進しつゝあるやを知るに足らんか。

大阪港外國貿易貨物阪神兩港積卸累年價額表

年次	大 阪		神 戸		大 阪		神 戸		計
	積	卸	積	卸	積	卸	積	卸	
明治三十五年	5,595,000	9,335,000	1,500,000	2,822,000	7,095,000	12,157,000	1,500,000	2,822,000	10,657,000
全三十六年	7,311,000	11,185,000	1,839,000	3,361,000	3,658,000	13,542,000	1,839,000	3,361,000	15,401,000

年次	大阪		神戸		入計		出計		入比	出比
	輸	入	輸	入	大	神	大	神		
明治三十七年	三,七九〇	一八,〇〇〇	三,五〇〇	三,八〇〇	一六,〇〇〇	一八,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三三・〇	一六・七
三十八年	三,五九〇	一九,三〇〇	五,九〇〇	五,九〇〇	一八,四〇〇	一九,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三三・〇	一六・七
三十九年	三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	二四,八〇〇	二四,八〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三三・〇	一六・七
四〇年	三,七九〇	三三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	二四,八〇〇	二四,八〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三三・〇	一六・七
四一年	三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	二四,八〇〇	二四,八〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三三・〇	一六・七
四二年	三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	二四,八〇〇	二四,八〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三三・〇	一六・七
四三年	三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	二四,八〇〇	二四,八〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三三・〇	一六・七
四四年	三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	二四,八〇〇	二四,八〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三三・〇	一六・七
大正元年	四,七〇〇	三六,七九〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	二四,八〇〇	二四,八〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三三・〇	一六・七

備考 千圓以下省略の爲め本表の計數には多少の差異あるを免れず、四十三年以降は移出入貿易を含む

第四款 阪神兩港外國貿易貨物

試に阪神兩港の外國貿易額を比較せんか、前掲の外大阪外國貿易貨物として計上せらるべきものに、尙大阪税關梅田出張所の取扱にかゝる、鐵道輸送の滿鮮方面輸移出五萬六千餘噸、輸移入一千七百餘噸、計五萬七千七百餘噸あり、之に神戸經由鐵道輸送の外國貿易貨物を併算せば、大正元年中の大阪對外國貿易貨物は實に輸移出七十七萬七千餘噸、輸移入百二十四萬四千餘噸、合計二百二十一萬一千餘噸の巨額に達す、而して神戸税關の調査によれば、大正元年中神戸港の外國貿易は輸移出百萬五千餘噸、輸移入二百二十八萬餘噸、合計三百二十八萬五千餘噸にして、此内より大阪に水路接続輸出せる九十五萬九千餘噸及鐵道により接続せる十二萬九千餘噸を控除するときは、神戸港の對外國貿易貨物噸量は、輸移出六十八萬六千餘噸、輸移入百五十一萬六千餘噸、計二百二十萬二千餘噸となり、之を前記大阪港の總外國貿易貨物に比較するに、輸移出に於て大阪は七萬五千噸を凌ぐも、輸移入に於ては二十六萬七千餘噸を輸し、合計に於て十九萬一千餘噸を神戸に譲るのみ、大阪が内地貿易に於て覇を稱する以外、更に此巨大なる外國貿易を有するを見れば、帝國商工業の中心地たる所以自ら解するに足らんか。

阪神兩港外國貿易貨物比較表

輸移計	大 阪		神 戸		輸移計	差 引
	輸	入	輸	入		
輸	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
移	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
計	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇
輸	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
移	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
計	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇
輸	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
移	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
計	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇
輸	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
移	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
計	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇

第五款 阪神間接續海陸運貨物の種類

阪神間輸送貨物の種類を見るに左表の如く、陸運に依るものは出入共に全製品に屬するもの大部を占め、殊に出貨にありては、メリヤス及タオル類の二萬五千餘噸、入貨にありては、洋反物類の一萬餘噸を出色とす。海運によるものは、出貨にありては、同全製品最も多く原料用製品、食料品に次ぎ、入貨にありては、原料用製品を主とし原料品、食料品、全製品の順序とす、更に品種に就て之を見れば、入貨にありては鉄材の二十二萬餘噸及綿花の二十萬噸等異彩を放ち、出貨にありては綿糸、燐寸、硝子製品等を主とす、其他砂糖及昆布等の出入多く自ら品種により其集散地方を推想せしむるものあり。即ち陸運に依りしものは、急速取引を要する高價品を主とするもの、如し。

阪神間接續貨物品種表

品名	内出		外出		内入		外入		計
	海運	陸運	海運	陸運	海運	陸運	海運	陸運	
石炭	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
コークス	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
石炭	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七
金礦	二	二	二	二	二	二	二	二	二
燐礦	二	二	二	二	二	二	二	二	二
石膏	二	二	二	二	二	二	二	二	二
其他礦物	二	二	二	二	二	二	二	二	二
土砂	二	二	二	二	二	二	二	二	二
木材	二	二	二	二	二	二	二	二	二
竹材	二	二	二	二	二	二	二	二	二
薪炭	二	二	二	二	二	二	二	二	二
棉花	二	二	二	二	二	二	二	二	二
棉布	二	二	二	二	二	二	二	二	二
絹織物	二	二	二	二	二	二	二	二	二
獣皮及骨類	二	二	二	二	二	二	二	二	二
羽毛類	二	二	二	二	二	二	二	二	二
麻苧及シヨロ	二	二	二	二	二	二	二	二	二
其他	二	二	二	二	二	二	二	二	二
原料用製品	二	二	二	二	二	二	二	二	二
鐵材	二	二	二	二	二	二	二	二	二
鋼材	二	二	二	二	二	二	二	二	二
金屬	二	二	二	二	二	二	二	二	二
煉瓦	二	二	二	二	二	二	二	二	二
石灰(火山灰ヲ含ム)	二	二	二	二	二	二	二	二	二

品名	内出		外出		内入		外入		計
	海運	陸運	海運	陸運	海運	陸運	海運	陸運	
米	七、三六九	三、八二一	九、三九〇	七、三六九	二、一四一	二、一四一	二、一四一	二、一四一	二、一四一
豆	九、〇三六	六、七三三	一、三〇三	一、三〇三	一、三〇三	一、三〇三	一、三〇三	一、三〇三	一、三〇三
雜穀	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
砂糖	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
菓子	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
鹽	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
和酒	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
洋酒	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
茶及コヒ	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
飲料	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
煙草	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
醸造品	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
蔬菜	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
鮮魚	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
乾魚	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
乾物	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
澱粉	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
穀物	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
昆布	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
海藻	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八
其他	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八	一、三六八

品名	內陸地		海外		計		內陸地		海外		計	
	海	陸	海	陸	海	陸	海	陸	海	陸	海	陸
鐵製	3,500	3,500	6,000	6,000	20,000	20,000	1,000	1,000	3,000	3,000	1,000	1,000
金製	2,000	2,000	3,000	3,000	10,000	10,000	5,000	5,000	1,000	1,000	5,000	5,000
金製	1,000	1,000	1,500	1,500	5,000	5,000	2,000	2,000	1,000	1,000	2,000	2,000
時計	800	800	1,200	1,200	4,000	4,000	1,500	1,500	800	800	1,500	1,500
金屬製	500	500	700	700	2,500	2,500	1,000	1,000	500	500	1,000	1,000
電氣用品	300	300	400	400	1,500	1,500	600	600	300	300	600	600
醫療用品	200	200	300	300	1,000	1,000	400	400	200	200	400	400
度量衡器	150	150	200	200	800	800	300	300	150	150	300	300
農具	100	100	150	150	600	600	200	200	100	100	200	200
船具及漁具	80	80	120	120	500	500	150	150	80	80	150	150
木製	70	70	100	100	400	400	120	120	70	70	120	120
竹及藤製	60	60	80	80	350	350	100	100	60	60	100	100
硝子及全製品	50	50	70	70	300	300	90	90	50	50	90	90
皮革製	40	40	60	60	250	250	70	70	40	40	70	70
護謄製	30	30	40	40	200	200	50	50	30	30	50	50
漆器	20	20	30	30	150	150	40	40	20	20	40	40
陶磁器	15	15	20	20	100	100	30	30	15	15	30	30
荒傘及摺扇	10	10	15	15	70	70	20	20	10	10	20	20
和傘及摺扇	8	8	12	12	50	50	15	15	8	8	15	15
扇子及團扇	6	6	9	9	40	40	12	12	6	6	12	12
刷子及刷毛	5	5	7	7	30	30	8	8	5	5	8	8
家及刷具	4	4	5	5	20	20	6	6	4	4	6	6
綿布類	3	3	4	4	15	15	4	4	3	3	4	4
吳服類	2	2	3	3	10	10	3	3	2	2	3	3
洋反物類	1	1	2	2	8	8	2	2	1	1	2	2

品名	內陸地		海外		計		內陸地		海外		計	
	海	陸	海	陸	海	陸	海	陸	海	陸	海	陸
瓦	3,000	3,000	5,000	5,000	15,000	15,000	5,000	5,000	3,000	3,000	5,000	5,000
石	2,500	2,500	4,000	4,000	12,000	12,000	4,000	4,000	2,500	2,500	4,000	4,000
人造肥料	2,000	2,000	3,000	3,000	10,000	10,000	3,000	3,000	2,000	2,000	3,000	3,000
其他肥料	1,500	1,500	2,000	2,000	8,000	8,000	2,000	2,000	1,500	1,500	2,000	2,000
經木及參科實田	1,000	1,000	1,500	1,500	6,000	6,000	1,500	1,500	1,000	1,000	1,500	1,500
軸木	800	800	1,200	1,200	5,000	5,000	1,200	1,200	800	800	1,200	1,200
加工木材	700	700	1,000	1,000	4,000	4,000	1,000	1,000	700	700	1,000	1,000
綿糸	600	600	800	800	3,000	3,000	800	800	600	600	800	800
其他糸	500	500	700	700	2,500	2,500	700	700	500	500	700	700
油及蠟	400	400	500	500	2,000	2,000	500	500	400	400	500	500
工業用藥品	300	300	400	400	1,500	1,500	400	400	300	300	400	400
其他	200	200	300	300	1,000	1,000	300	300	200	200	300	300
全製品	150	150	200	200	800	800	200	200	150	150	200	200
礦油	100	100	150	150	600	600	150	150	100	100	150	150
石油	80	80	120	120	500	500	120	120	80	80	120	120
數物	70	70	100	100	400	400	100	100	70	70	100	100
繩索	60	60	80	80	350	350	80	80	60	60	80	80
麻製	50	50	70	70	300	300	70	70	50	50	70	70
繩索製	40	40	60	60	250	250	60	60	40	40	60	60
鐵管	30	30	40	40	200	200	40	40	30	30	40	40
釘及ボルト	20	20	30	30	150	150	30	30	20	20	30	30

品名	出				入			
	海運	陸運	計	内	陸運	海運	計	内
綿	七、四〇〇	一、四〇〇	八、八〇〇	二、二〇〇	三、一〇〇	三、九〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇
莫大小及タオル	七、二〇〇	三、一〇〇	一〇、三〇〇	六、九〇〇	三、四〇〇	一〇、三〇〇	三、四〇〇	三、四〇〇
被服	一、六〇〇	三、六〇〇	五、二〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	三、二〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇
洋傘	一、一六二	二、三三三	三、四九五	一、一六二	一、一六二	二、三三三	一、一六二	一、一六二
帽子	一、一四二	二、七四四	三、八八六	一、一四二	一、一四二	二、七四四	一、一四二	一、一四二
装身用品	三、九	一〇、九五六	一四、九五五	三、九	三、九	一〇、九五六	三、九	三、九
履物	一、六九七	二、三五	一、七二二	一、六九七	一、六九七	三、四一九	一、六九七	一、六九七
石鹼	一、四七	二、三	三、八〇	一、四七	一、四七	二、三	一、四七	一、四七
小問物及化粧品	二、七五八	三、六八六	六、四四四	二、七五八	二、七五八	九、二〇二	二、七五八	二、七五八
文具	二、七四四	一、四四三	四、一八七	二、七四四	二、七四四	六、九三一	二、七四四	二、七四四
文房具	二、七四四	一、四四三	四、一八七	二、七四四	二、七四四	六、九三一	二、七四四	二、七四四
玩具	一、三三四	二、四六六	三、八〇〇	一、三三四	一、三三四	二、四六六	一、三三四	一、三三四
娛樂用品	三、八〇	四、四	八、八〇四	三、八〇	三、八〇	八、八〇四	三、八〇	三、八〇
和洋紙	二、六四五	七	二、六五二	二、六四五	二、六四五	五、三〇七	二、六四五	二、六四五
印刷物	八、四	二、九七	一、一〇一	八、四	八、四	一、一〇一	八、四	八、四
藥品	五、五九	四、七四	一〇、三三四	五、五九	五、五九	一〇、三三四	五、五九	五、五九
火藥	六、三	三	九、六	六、三	六、三	九、六	六、三	六、三
車輻	六、三	三	九、六	六、三	六、三	九、六	六、三	六、三
其他雜品	六、八九〇	三、七	七、〇〇七	六、八九〇	六、八九〇	七、〇〇七	六、八九〇	六、八九〇
金銀塊寶石	三、三三	一、〇五三	四、三八六	三、三三	三、三三	四、三八六	三、三三	三、三三
種子及苗木	五、三	三	八、六	五、三	五、三	八、六	五、三	五、三
雜品	三、八〇〇	一、〇一九	四、八一九	三、八〇〇	三、八〇〇	四、八一九	三、八〇〇	三、八〇〇
計	三、四一〇、〇〇〇	五、三二〇、〇〇〇	八、七三〇、〇〇〇	三、四一〇、〇〇〇	三、四一〇、〇〇〇	八、七三〇、〇〇〇	三、四一〇、〇〇〇	三、四一〇、〇〇〇

牛	生	馬	鳥
一	一	一	一
一	一	一	一
一	一	一	一
一	一	一	一
一	一	一	一
一	一	一	一
一	一	一	一
一	一	一	一
一	一	一	一

第六款 接續貨物の仕向及仕出地

阪神間接續貨物の仕向及仕出地は、大阪港の現在有する交通線の稀薄なる地方、又は全然航路を有せざる地方に多きことは、既に言を須ひすして明らかなり。

今内地航路に屬するものを見るに、北海道への出六萬六千餘噸、入十二萬二千餘噸、合計十八萬九千餘噸を最とし、臺灣への出七萬七千餘噸、入四萬四千餘噸、計十二萬二千餘噸、東京、横濱方面への出七萬六千餘噸、入四萬三千餘噸、計十一萬九千餘噸に次ぎ、日本海に面せる地方にありては兩羽地方への出一萬三千餘噸、入一千餘噸、計一萬四千餘噸、及太平洋に面せる三陸地方への出四千餘噸、入六千餘噸、計一萬一千餘噸等あり、此他九州方面には門司への出入六千餘噸を算するのみ、即ち東京、横濱方面と神戸間は、定期及不定期船の相互に寄港するもの多きを以て、大阪に於て積卸するよりも神戸を経由する方、輸送上の便宜多きに依るなるべく、臺灣への交通も現在にありては神戸寄港船多數なるに反し、大阪港には定航横打線及沖繩經由基隆線を有するのみなるを以て、神戸港を仲介とする亦已むを得ざるなり。

北海道及奥羽地方との集散貨物は、所謂東廻、西廻りの北海線に接續輸送せられたるものにして、出入二十一萬五千噸を算し、阪神間接續内地貨物中の半はを占む、尙此航路船に積載せられたる東京、横濱方面行貨物も亦少なからざるへし、當業者も茲に視る處あり、近時該航路を大阪に延長し、定期寄港を開始するに至りたるを以て、今後北海道出入の阪神接續貨物は著しく減少するならんか。

阪神接續内地貿易貨物地方別

地方別	出入別		計	地方別	出入別		計
	出	入			出	入	
九州方面	三、四〇〇	六、二〇〇	九、六〇〇	神	七、一五〇	四、九〇〇	一二、〇五〇

地方別	出入別		合計	地方別	出入別		合計
	出	入			出	入	
日本海方面	三,四三三	一,五三四	四,九六七	三陸方面	四,六三三	六,五三四	一一,一六七
東京横濱方面	六,七五三	三,〇五五	九,八〇八	北海道及樺太	六,九八八	一三,五三三	二〇,五二一
大阪對朝鮮各港出入貿易貨物の神戸を經由するものは、極めて稀にして、出一萬餘噸、入七千餘噸あるのみ、是れ朝鮮定期航路は總て大阪を基点とするに依る、其神戸を經由せるものは神戸を終点とする臨時船に積載せられたるか、或は定期船の大阪積残し貨物を回漕したるもの等なりとす。							

大阪對朝鮮各港出入貿易貨物の神戸を經由するものは、極めて稀にして、出一萬餘噸、入七千餘噸あるのみ、是れ朝鮮定期航路は總て大阪を基点とするに依る、其神戸を經由せるものは神戸を終点とする臨時船に積載せられたるか、或は定期船の大阪積残し貨物を回漕したるもの等なりとす。

阪神接續朝鮮貿易貨物地方別

地方入	出入別		合計	大阪税關手數	神戸税關手數	合計
	出	入				
南朝鮮	七,四三三	一,〇〇〇	八,四三三	七,四三三	一,〇〇〇	八,四三三
北朝鮮	三,三三八	一	三,三三八	三,三三八	一	三,三三八
合計	一〇,八二一	一,〇〇一	一二,八二二	一〇,八二一	一,〇〇一	一二,八二二

外國航路に屬するものは、前述の如く大阪に外航路の寄港少なき結果、神戸接續貨物の多大なるは蓋し當然なへく、其他大連への輸出三萬八千噸、輸入七千餘噸、計四萬六千噸及北支那への輸出十一萬九千噸、輸入九萬七千噸、計十七萬八千餘噸は共に大阪に定期船の寄港あるに拘らず、接續輸送貨物多きに過くの感あるも、寄港度數の少きの致す處ならんか。

阪神接續外國貿易貨物地方別

地方別	出入別		合計	大阪税關手數	神戸税關手數	合計
	出	入				
大連	一七,六三三	一三,五三四	三一,一六七	一七,六三三	一三,五三四	三一,一六七
北支那	六,三三三	五,九〇〇	一二,二三三	六,三三三	五,九〇〇	一二,二三三
長江流域	六,九八八	三,七四七	一〇,七三五	六,九八八	三,七四七	一〇,七三五
香港及南支那	四,七五三	二,六二四	七,三七七	四,七五三	二,六二四	七,三七七
合計	三五,七〇七	二五,八〇一	六一,五〇八	三五,七〇七	二五,八〇一	六一,五〇八

前後	出入別		合計	大阪税關手數	神戸税關手數	合計
	出	入				
印度	七,五七〇	四,三三三	一二,九〇三	七,五七〇	四,三三三	一二,九〇三
南洋諸島及濠洲	一,七三三	一,七三三	三,四六六	一,七三三	一,七三三	三,四六六
歐羅巴	六,三三三	一,五三四	七,八六七	六,三三三	一,五三四	七,八六七
北米其他	七,五七〇	五,八〇〇	一三,三七〇	七,五七〇	五,八〇〇	一三,三七〇
合計	二七,二〇六	一三,三六〇	四〇,五六六	二七,二〇六	一三,三六〇	四〇,五六六

第七款 東洋貿易と阪神兩港

東洋貿易は帝國對外貿易の主要なるものにして、殊に阪神地方に取りては最も密接の關係を有す、今試みに大阪税關取扱東洋貿易貨物に神戸税關經由の大阪出入貨物を加算せるものを、事實上の大阪對東洋貿易貨物とし、之を神戸の東洋貿易中より前記神戸税關經由貨物を除きたるものと比較して左表の結果を得たり。

是に依れば輸出に於ては、關東洲及北支那は大阪に於て優り、長江流域は神戸の方優勢なるも僅に其差一萬五千餘噸のみ、香港及南支那、前後印度、南洋方面等は共に神戸に劣れり、輸入にありては北支那、長江流域南洋方面に於て優勢にして、關東州、香港及南支那、前後印度に於ては神戸を以て優れりとす。

是を要するに東洋貿易は阪神兩港界は軒輊なく、殊に或る部分に於て、大阪の方優勢なるに徴せば、對東洋航路船が悉く大阪に寄港するの日遠きにあらざるへし、尙ほ茲に一言すべきは、神戸貿易の大部は、大阪其他各地方に集散する中繼貨物なるを以て、後章に於て述ふる如く大阪港にして發達せば、其幾分は距離の關係上當然大阪港に於て中繼するに至るへし、故に將來の大阪港集散貨物を想定せんとせば、是等をも併算するを至當とすべきならんか。

阪神兩港東洋貿易比較對照表

地方別	輸出		輸入	
	神戸	大阪	神戸	大阪
關東洲	三,四三三	二,五三四	一,五三四	一,〇〇〇
北支那	七,五七〇	五,八〇〇	一,五三四	一,〇〇〇
合計	一〇,〇〇三	八,三四四	三,〇七八	二,〇〇〇

地方別	輸出		入	
	神戶	大阪	神戶	大阪
長江流域	一八、六三三	三、七四七	一、四〇八	一、四〇八
香港及南支那	一四、三二〇	二、八二四	一、四九二	一、四九二
前度	一〇、九六四	三、八五五	一、六二六	一、六二六
南洋	五、三三七	一、七六四	一、七三二	一、七三二
總計	四八、二五四	一〇、一九〇	五、六五八	五、六五八

備考 ●印は大阪多し ▲印は神戸多し

第八款 大阪集散阪神兩港積卸貨物種類

叙上阪神間の運輸關係は頗る錯綜せるものありと雖も、要するに大阪港交通線の缺陷を補ふものなるを以て、大阪港直接積卸貨物と阪神接續貨物との間に種類の大差なきも、阪神接續貨物の集散地方は、外航にありては長江流域即ち中部支那以西、内航にありては北海道、東京、横濱臺灣方面を主とするを以て、各地需給の關係上多少の特色あり、是を大阪港直接積卸貨物と對照するに、出貨にありては砂糖、乾物、昆布、綿糸、敷物、襦子製品、綿布、綿ネル、裝身用品等、入貨にありては昆布、棉花、棉實、パルプ、獸皮及獸骨、麻苧類、鋳材、各種肥料、鋳管、レール、硝子類等は、神戸港を仲介させる接續積卸貨物に比較的多きか如く、自ら各地方の需給關係を示せるを見るなり。

大阪港集散貨物積卸地別品種表

品名	内		外		計
	大阪	神戸	大阪	神戸	
食料品	一七、七六八	七、七六六	三、三〇八	三、三〇八	二四、一五〇
米	一、七六六	一、七六六	一、七六六	一、七六六	三、五三二
豆	一、五〇八	一、五〇八	一、五〇八	一、五〇八	三、〇一六
雜穀	二、六六六	一、〇九〇	一、〇九〇	一、〇九〇	三、七五六

原料品	内		外		計
	大阪	神戸	大阪	神戸	
砂子	三、四〇六	一、五〇一	一、九四二	二、〇九三	五、四〇九
菜子	四、〇九八	一、九八八	一、九八八	一、九八八	六、〇八六
鹽	二、二七三	五、三三三	三、〇〇五	一、九七四	九、〇〇〇
和酒	九、六三二	一、〇六六	一、五三三	一、四六八	一二、一〇〇
洋酒	二、三三〇	八、六	三〇八	四、六	二、三三六
茶及コーヒー	八、四三三	一、七〇〇	九、一三七	三、四九	一二、一四二
飲料	一、六八五	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	二、七八五
煙草	四、三六六	一、六二八	九、九	一、〇九九	六、三六五
鹽造	二、九六六	一、〇〇〇	二、九六六	一、〇〇〇	四、九六六
鮮魚	三、四〇〇	三、三三三	六、九九九	二、〇〇七	九、〇〇六
乾魚	七、三三三	七、九一	一、	一、	八、三三三
乾物	二、三六八	二、九六三	四、二五	一、六三	六、〇〇八
液粉	二、〇六八	一、一七七	三、五八	三、二八	五、二九六
穀粉及澱粉	五、三三八	一、二九	二、二二	七、四	七、六二二
昆布	四、六六五	四、六六	九、〇三	五、五	一四、五八八
海草	一、二九三	一、九八	一、一	一、一	二、四〇二
其他	五、九八八	二、三八〇	一、三三	八、六六	一四、六八七
石炭	二、八五五	三、三〇九	二、二四九	五、七八	八、〇〇三
コークス	五、一四四	二、	七、	一〇、	一二、一四四
焦炭	九、八三三	二、	一、	一〇、	一〇、八三三
金礦	二、五八七	二、	一、	一〇、	二、五八七
石礦	一、四四五	二、	一、	一〇、	一、四四五

品名	内				外				計
	大阪積	神戸積	大阪積	神戸積	大阪積	神戸積	大阪積	神戸積	
其他礦物	一七〇八五	二五七九	八二	一〇	八三	七	二九	一七,二五〇	二,六八一
石	二,三三九	二,五〇四	一〇	一〇	九〇	六七	五	二,四三三	三三六
土及砂	九,四二五	二,七四	三五五	八	三	一七	一七	九,八〇三	三五四
木材	三,一九二	六,九二	四,九二	一〇〇	七五八	一,〇四一	一六七	六,八七四	八,三三
竹材及籐	二,九二四	一一	六七	二	一	三七	二五七	三,〇〇六	二,七五
薪炭	二,〇三三	一〇	三〇	一	三	一七	二五七	二,〇〇六	二,〇〇六
棉花	一,九三九	一〇,〇〇	三,八二	三六	四〇七	三九一	一六〇	三,八二八	二,三五九
棉實	六〇六	三六三	六七	二	一	二七	一	六〇三	四二
パル	二,五五五	四九	二	二	四六	一	一	二,六〇三	四九
襪及屑物	八,四五五	一,五九九	一,〇一〇	八	二九六	二八	一六	九,七六一	三,二二九
獸皮及獸骨	三,四六五	一〇九	二	一	六三	四	一	三,五〇八	一五五
羽毛類	四五一	四	二	一	一	一	一	四六三	一〇
麻苧及シユロ	二,四二六	一七九	一九	一	七七	六	一	二,六二二	二八
菜子	二八〇	二	一	一	一	一	一	二八〇	三
其他	一八,四九	四七六	一七四	六	三五二	二七	一〇	一九,〇三二	八七
原料用製品	三二,七九四	六,〇六	三,三七六	九七	一九,五三三	二九,五五九	四一,〇九一	三九,七〇三	一三,六九四
鐵材	七〇,八四〇	一三,五五	八,五六	三二	一,五九一	一,三六	五三	八〇,九九五	一五,七六四
金屬材	一六,四三九	五,一六	一,四四	七	八五六	二,五二	三〇,三五	一八,七三九	一〇,七七四
セメント	八,二四一	五,八〇七	二,三〇〇	二	四〇	一〇	八八	一〇,五八一	六,〇〇七
石灰(火山灰ヲ含ム)	九七六	三九	二七	一	一〇	九	一	一,〇三三	四九
煉瓦	一三,二五三	四六三	五三	一	三五	八	一	一四,〇四〇	六三八
瓦	一,〇九二	三七	一	一	一九	二	一	一,一二二	三七四
石粉	二,八四九	二六六	二五八	四八	二八	一七四	一	五,五九五	五〇八



人造肥料	其他肥料	經木及參稈真田	軸木	加工木材	綿糸	其他糸	油脂及蠟	染塗料	工業用藥品	其他	全製品	礦油	石油	石油	數物	繩類	麻苧製品	燭	鐵管	鐵管	釘及ボルト	鐵製品	金屬製品	金屬製品
100,033	49,577	1,623	507	15,897	3,353	1,504	2,903	1,266	9,778	2,947	526,659	2,808	8,977	6,000	2,996	2,648	3,400	7,600	1,346	4,329	4,548	3,333	7,666	15,335
18,338	1,055	49	14	1,174	1,000	755	4,608	2,967	2,955	777	62,233	2,400	4,377	2,355	1,333	2,777	2,277	2,177	3,406	3,406	1,419	1,283	1,704	2,733
123	377	4	1	1,407	2,405	1,055	8,999	1,404	4,909	28	6,604	39	8	5,604	1,617	4,755	3,899	1,6	1,766	1,766	3,588	2,845	6,700	2,766
16	2	1	1	3	37	7	48	55	80	19	7,699	6	1	2,100	2,100	400	3,8	3,8	1,1	1,1	3	50	26	2
8,433	63	37	167	33	5,929	97	3,977	333	5,633	3,200	57,255	66	2	80	69	35	69	4,733	1,0	633	2,4	2,2	1,7	1,7
77	52	123	167	155	52	52	833	300	72	8	9,904	8	1	28	28	33	78	3,333	2	2	1	1	1	1,89
460	1	3,833	866	3,004	88	1,566	6,655	55	669	34	15,594	1	1	1,855	633	83	83	2,207	1	1	1	1	1	7,000
10,666	49,766	1,633	65	17,477	4,667	1,766	14,766	1,366	1,669	3,409	66,666	3,100	8,966	6,700	6,700	3,777	3,400	2,200	1,844	4,899	4,899	4,763	8,499	19,844
18,691	1,008	4,404	1,099	3,518	992	1,708	2,092	3,407	4,515	94	3,993	2,900	4,937	1,433	4,508	3,655	3,655	4,799	822	3,666	4,879	5,037	1,999	2,844

品名	大阪府				大阪府外				大阪府計
	大阪府	神戶	大阪府	神戶	大阪府	神戶	大阪府	神戶	
時計	3,640	3,640	4,800	4,800	3,640	4,800	4,800	1,160	1,160
金屬製機械	1,959	1,959	2,800	2,800	1,959	2,800	2,800	841	841
電氣用品	3,080	3,080	4,800	4,800	3,080	4,800	4,800	1,720	1,720
醫療用品	5,456	5,456	7,200	7,200	5,456	7,200	7,200	1,744	1,744
度量衡器具	1,275	1,275	1,600	1,600	1,275	1,600	1,600	325	325
農具	1,434	1,434	1,800	1,800	1,434	1,800	1,800	366	366
船具及漁具	98	98	1,200	1,200	98	1,200	1,200	1,102	1,102
木製及竹製	3,333	3,333	4,200	4,200	3,333	4,200	4,200	867	867
竹及藤製品	1,570	1,570	2,000	2,000	1,570	2,000	2,000	430	430
硝子及全製品	3,233	3,233	4,000	4,000	3,233	4,000	4,000	767	767
皮革製品	1,390	1,390	1,800	1,800	1,390	1,800	1,800	410	410
護膜製品	4,400	4,400	5,600	5,600	4,400	5,600	5,600	1,200	1,200
漆器	6,477	6,477	8,000	8,000	6,477	8,000	8,000	1,523	1,523
陶磁器	3,973	3,973	5,000	5,000	3,973	5,000	5,000	1,027	1,027
荒磁物	8,334	8,334	10,400	10,400	8,334	10,400	10,400	2,066	2,066
和傘及提灯	1,979	1,979	2,500	2,500	1,979	2,500	2,500	521	521
扇子及團扇	998	998	1,200	1,200	998	1,200	1,200	202	202
刷子及刷毛	97	97	1,200	1,200	97	1,200	1,200	1,103	1,103
家具	8,000	8,000	10,000	10,000	8,000	10,000	10,000	2,000	2,000
綿布類	3,341	3,341	4,200	4,200	3,341	4,200	4,200	859	859
吳服大物類	4,073	4,073	5,000	5,000	4,073	5,000	5,000	927	927
洋反物類	3,036	3,036	3,800	3,800	3,036	3,800	3,800	764	764

棉	4,755	7,050	3,633	400	415	705	704	5,553	8,498
莫大小及タオル	8,740	2,945	6,448	299	2,461	5,736	1,409	1,183	3,879
被服	4,176	473	2,568	200	1,400	2,968	55	4,473	8,533
洋傘	1,424	166	53	20	1,150	668	1,634	1,528	2,556
朝服	3,759	266	266	75	2,355	476	2,944	5,000	2,872
裝身用品	966	166	990	47	634	476	613	2,550	1,144
履物	6,565	1,243	478	46	1,851	147	70	888	1,505
石鹼	3,644	644	566	67	466	877	35	486	2,183
小間物及化粧品	5,334	2,180	677	100	1,151	2,541	1,057	706	5,878
文房具	6,282	691	1,040	58	800	798	1,057	8,153	2,144
玩弄用品	3,156	146	150	15	155	595	1,846	3,433	2,600
娛樂用品	7,591	151	101	8	76	341	56	966	500
和洋紙	2,967	8,997	4,048	273	3,033	3,946	3,848	3,676	1,703
印刷物	2,173	569	1,544	33	151	24	170	2,478	866
藥品	3,644	2,866	1,575	263	1,333	2,788	1,244	2,544	7,060
火藥	1,518	41	58	1	1	3	1	1,516	44
車輛	4,833	489	537	55	550	275	9	5,900	44
雜貨	1,553	3,047	5,673	1,068	1,457	5,844	2,888	1,973	3,807
其他雜品	3,799	1,746	970	33	599	540	480	2,538	2,799
金銀地寶石	13	1	1	1	1	1	1	1	1
種子及苗木	1,919	14	309	5	36	8	1	2,266	25
雜品	2,877	1,733	648	26	561	52	480	3,006	2,151
計	1,368,566	391,181	2,333,211	10,699	100,290	1,589,912	2,562,257	1,621,217	6,441,855
家畜及家禽	26	1	1	1	1	1	1	1	1
牛	26	1	1	1	1	1	1	1	1
馬	26	1	1	1	1	1	1	1	1

同上入貨之部

品名	内		外		計	
	大阪	神戸	大阪	神戸	大阪	神戸
米	六五,〇〇六	一〇一,九四三	九,九三三	五,八七三	三二,一六六	一六八,三三三
豆	一七,〇二七	四,五九三	一,七三四	一,七三四	三,四六八	二〇,四九一
雜穀	六,八八三	二〇,六四四	四,一六八	三,九〇〇	八,〇六八	三〇,三三三
砂糖	二,三三三	四,三〇〇	四,五六六	五,四〇〇	二,九三〇	一五,〇〇六
菓子	七六,〇〇九	二八,八八三	一	一	一六,六四四	一六,五七九
鹽	四四八	九四	一	一	一	一
和酒	二七,四三八	六九〇	一	一	一	一
洋酒	四六,〇六九	一七三	一	一	一	一
茶及コ	五三	二五六	一	一	一	一
飲料	二八	四	一	一	一	一
煙草	一,三四九	六	一	一	一	一
醱造	一九,二八二	五七	一	一	一	一
蔬菜	三三,三八〇	三五七	一	一	一	一
鮮果	二八,七〇三	九九三	一	一	一	一
鮮魚	六四,〇三三	一三〇	一	一	一	一
乾魚	一六,〇三七	一七	一	一	一	一
乾鹽	五〇,五〇〇	三,二九八	一	一	一	一
漬物	八,一六四	二四	一	一	一	一
澱粉	二,四一九	三五五	一	一	一	一
穀粉及澱粉	五,〇三三	六,八三五	一	一	一	一
草布	二,四六六	二,三七七	一	一	一	一
海草	四,七四〇	一,五七八	一	一	一	一

原料品	其他	石炭	コークス	燐石	金礦	石膏	其他礦物	石及砂	土及砂	木材及竹材	薪炭	棉花	棉實	襪及屑物	獸皮及獸骨	羽毛類	麻苧及シヨロ	榮子	其他	原料用製品	鐵材	金屬材
三,〇七四,〇〇八	三,〇七四,〇〇八	一,八五七,六五五	五,〇五七	二,七三三	一,七八六	七,七三三	二,四七三	二,〇〇,五五〇	一七,九二〇	三九,〇七三	一八,三三三	三三,〇六六	一四,四九四	五,三三三	三,六〇七	一〇,四	一,七五五	一,六四三	二,六三三	四九,四〇八	六〇,八四一	一六,七三三
六,四四一	三,九三三	一,一四三	二六	一〇〇	一,〇三三	一八,七七七	二,二六四	一,〇三三	一八,七七七	二,六四四	二九八	七三二	四	一,六六六	三,六六一	一〇,四	六	一四六	三,二五七	六,九二七	六,七七七	
二九五	二,三〇六	一,九〇	一	一	一	六〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二二	二四六	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二	二六	一〇,〇四六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
三三三	二,三三三	二,六三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一,六三三	一,四二九	一,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
七,四三三	一,九三三	一,〇〇〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
三,九三三	三,一六六	一,八三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
五,四二二	三,七三三	一,一三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	



扇 子 及 團 扇	和 傘 及 提 燈	荒 物	陶 磁 器	漆 器	膜 製 品	皮 革 製 品	硝 子 及 全 製 品	竹 及 籐 製 品	木 製 品	船 具 及 漁 具	農 具	工 匠 具	度 量 衡 器	醫 療 用 品	電 氣 用 品	金 屬 製 機 械	時 計	金 屬 製 品	金 屬 線	鐵 製 品	釘 及 ボ ー ルト	レ ー ル	鐵 管	鋁 燭
三七	八〇	二、八三	二、二六	三、三六	九	三〇	四、五〇	一、六〇	一、〇五	八	二〇〇	二七	一六	五五	四三	九一	二七	三、五八	一、九六	六、六三	六、七八	三、七八	八、八	三〇
七	六	一、五三	三	二	一六	一八	一七〇	七二	二五	一	八	八	六	九	二九	一、六九	二四	九〇	七〇	九〇	二六	五九	三四	一〇
三	二七	三九	一	九	六	二六	二二	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二七	八〇	二、八三	二、二六	三、三六	九	三〇	四、五〇	一、六〇	一、〇五	八	二〇〇	二七	一六	五五	四三	九一	二七	三、五八	一、九六	六、六三	六、七八	三、七八	八、八	
二	六	一、六九	三	二	一〇	一八	一七〇	七二	二五	一	八	八	六	九	二九	一、六九	二四	九〇	七〇	九〇	二六	五九	三四	一〇

品名	内地		大阪朝		神戶		大阪外		神戶		計	
	大阪卸	神戶卸	大阪卸	神戶卸	大阪卸	神戶卸	大阪卸	神戶卸	大阪卸	神戶卸	大阪卸	神戶卸
刷子及刷毛	14	79	1	2							15	81
家布類	5,108	1,416	1	1							5,109	1,417
綿服太物類	10,440	6,644	1	1							10,441	6,645
吳服太物類	6,007	3,333	1	1							6,008	3,334
洋反物類	6,994	3,333	1	1							6,995	3,334
綿糸	1,506	7									1,506	7
莫大小及タオル	1,084	3									1,084	3
被服	2,586	6									2,586	6
洋傘	1,23	1									1,23	1
朝服	43	5									43	5
裝身用品	84	5									84	5
履物	1,576	1									1,576	1
石鹼	1,89	1									1,89	1
小間物及化粧品	1,63	1									1,63	1
文房具	1,019	28									1,019	28
玩具	1,93	5									1,93	5
娛樂用品	1,65	4									1,65	4
和洋紙	4,806	7,587									4,806	7,587
印刷品	407	3,63									407	3,63
藥品	10,949	1,541									10,949	1,541
火藥	1,64	4									1,64	4
車輻	77	1,60									77	1,60
雜貨	5,642	910									5,642	910



其他雜品		金銀塊寶石		種子及苗木		雜品		計		家畜及家禽		牛		生		馬	
三、四二	八七	一、九二五	一、九二五	一〇、一三五	四、四三六	四、四三六	四、四三六	四、四三六	二、三五六	二、三五六	二、三五六	二、三五六	一、三六四	一、三六四	一、三六四	一、三六四	一、三六四
二、六八	二、六八	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一、六三	一、六三	一、六三	一、六三	一、六三	一、六三	一、六三	一、六三	一、六三	一、六三	一、六三	一、六三	一、六三	一、六三	一、六三	一、六三	一、六三	一、六三

第五節 船種と積載貨物

第一款 各船種の輸送量

大正元年中海運集散貨物を其積載船種により區別するに、帆船貨物は全量の四割四分、三百五十七萬噸を占め、汽船貨物之に次ぎ同三割二分、二百六十二萬八千噸を算し、解船貨物は同二割四分百九十四萬三千噸を有す、更に其出入關係を見るに汽船貨物の出は全量の一割一分、入は二割一分にして七十六萬七千噸の入超を示し、帆船貨物の出は僅に全量の七分、入は同三割七分に當り、各船種輸送量中の第一位を占め、二百四十三萬噸の大入超を呈せり、解船貨物の出は全量の九分、入は同一割五分にして、是亦四十萬九千噸の入超なりとす。

即ち出貨總量二百二十六萬噸中汽船は四割一分を有し第一位を占め、解船の三割四分之二に次ぎ、帆船輸送は僅に二割五分に當れるのみ、之に反し入貨は總量五百八十七萬噸中、帆船は五割一分の多量を輸送し、汽船は第二位に降りて二割九分解船は最後に二割を輸送せり、今之が一日平均集散量見るに、汽船は出二千五百四十九噸、入四千六百五十一噸、計七千二百噸を、帆船は出千五百五十八噸、入四千六百五十一噸、計九千七百八十一噸を、解船は出二千二百二噸、入三千二百二十三噸、計五千三百二十五噸を、各輸送したる計算なり、即ち汽船貨物は出入總量にありては帆船に劣るも出貨は第一位にあり、帆船貨物は總量に於て最優勢なる

も出貨は最下位にあり、即ち大阪の出貨は全製品殊に雜貨類を主とし、入貨は原料品を最とする關係上、出は直接汽船積若くは  
解船により、神戸出入汽船に接続するもの多きも、原料品の大輸入は帆船に依るを利益とするか爲なり。

各船種積載貨物出入比較表

船種別	出入別		貨		計		輸入超過	
	出	入	貨	百分比比較	出	入	百分比比較	輸入超過
汽船	九〇、四三三	二	一、六七、六三三	三	二、六八、三三三	三	七、七、〇〇〇	
帆船	五、六、七三	七	三、〇〇、五五七	三	三、五七、二六四	四	二、四三、八〇〇	
解船	六、六、六三	九	一、二六、六六	五	一、四三、七〇	四	四九、九、四四	
合計	一〇二、一、七三六	一八	五、八六、八五〇	三	八、一四、三三三	一〇〇	三、六〇、二、二四四	

備考 一 百分比比較は集積貨物の全量に對す

二 解船は阪神間航行のもののみを含む以下同し

第二款 各船種積載貨物の貿易別

更らに各船種積載貨物を内外貿易別に觀察するに、汽船貨物にありては内地貿易出三割三分、六十九萬七千噸、入六割七分百四十三萬二千噸、計二百十三萬餘噸、朝鮮貿易出五割五分弱、十三萬二千噸、入四割五分強、十一萬噸、計二十四萬二千噸、外國貿易出四割弱、十萬噸、入六割強、十五萬五千噸、計二十五萬五千噸にして、内地貿易八割強朝鮮貿易九分強、外國貿易一割弱の比例を示せり。

帆船貨物は僅に入貨にありて、朝鮮貿易六十九噸外國貿易三千二百餘噸を算する外、九割九分強迄は内地貿易に屬す。解船貨物は内地貿易出五割六分、三十四萬一千噸、入四割四分、二十六萬九千噸、計六十一萬噸、外國貿易出三割一分強、四十一萬五千噸、入六割九分弱、八十九萬九千噸、計百三十一萬四千餘噸、朝鮮貿易は出六割弱、一萬六千噸、入四割強、七千二百餘噸、計一萬七千九百噸にして、内地貿易は三割二分、外國貿易六割七分強、朝鮮貿易は僅かに一分弱に當るのみ。

之を要するに外國貿易は、直接汽船積卸及解船接続神戸積卸大部を占め、帆船によるものは殆ど云ふに足らず、内地貿易は出貨は汽船、帆船、及神戸接続解船、入貨は汽船、帆船及解船の順位を示し、朝鮮貿易は直接汽船積卸大部を占め、解船接続は一小部分に

止まり帆船は殆ど皆無なり。

船種別貿易貨物噸量表

船種別	内外別		地計		朝計		外計	
	出	入	出	入	出	入	出	入
汽船	六六、七、三三	一、一、〇、〇〇〇	一、一、〇、〇〇〇	一、一、〇、〇〇〇	一、一、〇、〇〇〇	一、一、〇、〇〇〇	一、一、〇、〇〇〇	一、一、〇、〇〇〇
帆船	五、六、七三	二、九、八、五五	三、五、六、六六	三、〇、〇、〇〇	一、〇、〇、〇〇	一、〇、〇、〇〇	一、〇、〇、〇〇	一、〇、〇、〇〇
解船	三、三、三三	三、三、三三	三、三、三三	三、三、三三	三、三、三三	三、三、三三	三、三、三三	三、三、三三

第三款 船種と貨物の種類

船舶の種類により、載貨も自ら其種類を異にするは、自明の理なるが汽船貨物二百六十二萬噸中食料品は二割七分、七十萬噸にして内出貨六分、入貨二割一分差引三十八萬八千噸の入超を示せり、其主なるものは入にありては穀物類の二十四萬八千噸及砂糖の十一萬六千噸并に果實、乾鹽魚の各四萬餘噸等を算するも、出にありては和酒の一萬七千噸、砂糖の二萬九千噸等あるに過ぎず、原料品は三割一分、八十萬九千噸、内出貨二分、入貨二割九分の割合にして、是亦六十六萬二千噸の入超を呈し、汽船入貨中の第一位に在り、之は石炭の四十萬四千噸、木材の十六萬五千噸及礦石類の七萬噸等の大入貨に對し、出貨の見るべきものなきに依る、原料用製品は一割五分、四十萬二千噸、出八分、入七分にして二萬七千噸の出超を示せり、其主なるものは出は人造肥料、綿糸、入は鐵及金屬材等なりとす、全製品は二割七分、六十九萬八千噸、出一割九分、入八分にして茲に二十九萬四千噸の出超を示せり、是れ入貨の和洋紙、四萬四千噸、敷物類、三萬四千噸及石油一萬四千噸等に對し、出貨は雜貨の十萬四千噸、綿布及鐵製品各三萬五千噸を初めとし、藥品、和洋紙、硝子製品、燐寸、家具等多くを數ふるに依る。

帆船貨物にありては總量三百五十七萬噸中、食料は僅に六分二十二萬六千噸、出一分、入五分の割合にして十三萬九千噸の入超なり、こは和酒の四萬三千噸、鹽の二萬七千噸及蔬菜、果實等の入貨夥しきによる、原料品は帆船の主要貨物にして、七割五分、二百六十七萬二千噸内入貨六割八分、出貨七分の割合にして二百十八萬一千噸の大入超を示せり、即ち石炭の百四十八萬噸薪炭の二十九萬六千噸、木材の二十二萬六千噸、石材の二十萬九千噸及土砂の十七萬噸等、雄大なる入貨あるに對し、出貨は中繼

的種類に属する礫石類の十二萬噸及木材の五萬二千噸等あるに過ぎざるか爲なり、原料用製品は一割三分四十五萬四千噸、内出四分、入九分の割合にして是亦十萬八千噸の入超なり、即ち煉瓦十八萬一千噸、瓦五萬三千噸等の大入貨に對し、出貨は雜肥料の二萬九千噸及鐵の二萬四千噸等を主なるものとせり、全製品は僅に六分二十萬二千噸にして、出四分弱入二分強四萬九千噸の出超なり、其主なるものは出貨は硝子製品の二萬一千噸、陶磁器の一萬七千噸等にして、入貨は繩臥類の二萬九千噸を最とす。

解船貨物即ち主として阪神間接續貨物は、神戸出入流船と連絡せるものなるを以て、換言せば流船貨物中の一部に過ぎず、故に前掲流船貨物と其種類を一にせるは怪むに足らず、即ち總量百九十四萬三千噸中、食料品は一割八分三十四萬二千噸にして其出入は畧は相半はせり、主なるものは出貨の砂糖四萬九千噸、昆布及乾物各一萬二千等にして、入貨も殆ど差異なく砂糖の四萬六千噸、豆の三萬六千噸、乾鹽魚の一萬四千噸及昆布の一萬三千噸等を舉ぐへし、斯く同一種類の出入貨物多きは大阪か中心市場たるの關係上中繼貿易少ならずと、加工の上再び出貨せらるるに依る、原料品は二割一分四十一萬六千噸にして、出二分入一割九分差引三十三萬五千噸の入超なり、入貨の主なるは棉花の二十萬噸、棉實及菜子の各二萬九千噸、木材の二萬五千噸等にして、出貨は棉花の一萬三千噸及木材の一萬二千噸を數ふ、原料用製品は二割九分五十六萬二千噸にして、出九分入二割に當り是亦二十三萬六千噸の入超を呈せり、其主なるものは入貨の鐵材二十二萬四千噸、雜肥料の八萬一千噸、出貨の綿糸四萬七千噸、人造肥料三萬噸等とす、全製品は三割一分六十一萬噸にして、出二割、入一割一分十七萬八千噸の出超を示せり、即ち鐵製品及金屬製品を合せたる四萬七千噸、和洋紙の二萬一千噸、硝子の一萬六千噸、鐵管の一萬四千噸等の入貨に對し、硝子製品の五萬一千噸、礫寸の四萬七千噸、綿糸の三萬五千噸等を始の出貨の數ふべきもの多し。

其品類別及品種別左の如し

船種別積載貨物品類表

品類	船種		品類		船種	
	出	入	出	入	出	入
食料品	一五、九七〇	五四、五三〇	四、三三〇	一、六六二	一、六三九	一、六三九
原料	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
製品	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
合計	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九

船種別積載貨物品種表

品名	船種		品名		船種	
	出	入	出	入	出	入
米	一五、九七〇	五四、五三〇	四、三三〇	一、六六二	一、六三九	一、六三九
豆	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
雜穀	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
砂糖	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
菓子	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
鹽	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
和洋酒	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
茶及コーヒー	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
飲料	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
煙草	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
藥品	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
蔬菜	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
果實	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
鮮魚	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
乾魚	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
乾物	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
流物	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
穀粉及澱粉	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
海草	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
其他	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
原料品	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
石炭	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
焦炭	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
鐵礦	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
金礦	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
其他礦物	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
石灰	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
石膏	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
其他	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
木材	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
竹材	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
薪炭	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
棉花	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
棉實	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九
其他	一、五九七	四、三三〇	一、六三九	一、六三九	一、六三九	一、六三九

品名	出賃		入賃		出賃		入賃		品名	出賃		入賃	
	入	出	入	出	入	出	入	出		入	出	入	出
鹿皮及獸骨	二,四九一	二,六五五	六,四四五	二,五九七	二,四九一	二,四九一	二,四九一	二,四九一	鹿皮及獸骨	二,四九一	二,六五五	六,四四五	二,五九七
羽毛類	二,一八三	二,一八三	二,一八三	二,一八三	二,一八三	二,一八三	二,一八三	二,一八三	羽毛類	二,一八三	二,一八三	二,一八三	二,一八三
麻苧及シエロ	二,一八三	二,一八三	二,一八三	二,一八三	二,一八三	二,一八三	二,一八三	二,一八三	麻苧及シエロ	二,一八三	二,一八三	二,一八三	二,一八三
其他	一,九六一	一,八八四	一,八八四	一,八八四	一,八八四	一,八八四	一,八八四	一,八八四	其他	一,九六一	一,八八四	一,八八四	一,八八四
原料用製品	二,五三三	一,八七九	一,八七九	一,八七九	一,八七九	一,八七九	一,八七九	一,八七九	原料用製品	二,五三三	一,八七九	一,八七九	一,八七九
鐵材	四,七九六	三,三三四	三,三三四	三,三三四	三,三三四	三,三三四	三,三三四	三,三三四	鐵材	四,七九六	三,三三四	三,三三四	三,三三四
金屬材	一,〇七八	一,七〇五	一,七〇五	一,七〇五	一,七〇五	一,七〇五	一,七〇五	一,七〇五	金屬材	一,〇七八	一,七〇五	一,七〇五	一,七〇五
セメント	五,八九五	八,四五六	八,四五六	八,四五六	八,四五六	八,四五六	八,四五六	八,四五六	セメント	五,八九五	八,四五六	八,四五六	八,四五六
石灰(火山灰を含む)	四,一〇一	三,二六六	三,二六六	三,二六六	三,二六六	三,二六六	三,二六六	三,二六六	石灰(火山灰を含む)	四,一〇一	三,二六六	三,二六六	三,二六六
煉瓦	三,四〇七	一,五九三	一,五九三	一,五九三	一,五九三	一,五九三	一,五九三	一,五九三	煉瓦	三,四〇七	一,五九三	一,五九三	一,五九三
石粉	三,三三三	四,七七一	四,七七一	四,七七一	四,七七一	四,七七一	四,七七一	四,七七一	石粉	三,三三三	四,七七一	四,七七一	四,七七一
人造肥料	四,八〇五	一,四四三	一,四四三	一,四四三	一,四四三	一,四四三	一,四四三	一,四四三	人造肥料	四,八〇五	一,四四三	一,四四三	一,四四三
其他肥料	二,〇三六	一,八八四	一,八八四	一,八八四	一,八八四	一,八八四	一,八八四	一,八八四	其他肥料	二,〇三六	一,八八四	一,八八四	一,八八四
輕木及杉稈田	一,〇三六	四,九三三	四,九三三	四,九三三	四,九三三	四,九三三	四,九三三	四,九三三	輕木及杉稈田	一,〇三六	四,九三三	四,九三三	四,九三三
軸木	二,七九	九四	九四	九四	九四	九四	九四	九四	軸木	二,七九	九四	九四	九四
加工木材	五,三三六	二,三九九	二,三九九	二,三九九	二,三九九	二,三九九	二,三九九	二,三九九	加工木材	五,三三六	二,三九九	二,三九九	二,三九九
綿糸	四,四三三	二,五九〇	二,五九〇	二,五九〇	二,五九〇	二,五九〇	二,五九〇	二,五九〇	綿糸	四,四三三	二,五九〇	二,五九〇	二,五九〇
其他糸	一,五三三	二,七七八	二,七七八	二,七七八	二,七七八	二,七七八	二,七七八	二,七七八	其他糸	一,五三三	二,七七八	二,七七八	二,七七八
油脂及蠟	九,〇〇三	二,二七八	二,二七八	二,二七八	二,二七八	二,二七八	二,二七八	二,二七八	油脂及蠟	九,〇〇三	二,二七八	二,二七八	二,二七八
工業用藥品	六,三三〇	五,六六七	五,六六七	五,六六七	五,六六七	五,六六七	五,六六七	五,六六七	工業用藥品	六,三三〇	五,六六七	五,六六七	五,六六七

品名	出賃		入賃		出賃		入賃		品名	出賃		入賃	
	入	出	入	出	入	出	入	出		入	出	入	出
靴及履物	一,九四一	一,五九元	一,五九元	一,五九元	一,五九元	一,五九元	一,五九元	一,五九元	靴及履物	一,九四一	一,五九元	一,五九元	一,五九元
硝子及全製品	一,七二二	二,七四〇	二,七四〇	二,七四〇	二,七四〇	二,七四〇	二,七四〇	二,七四〇	硝子及全製品	一,七二二	二,七四〇	二,七四〇	二,七四〇
皮革製品	一,九三〇	三,九八	三,九八	三,九八	三,九八	三,九八	三,九八	三,九八	皮革製品	一,九三〇	三,九八	三,九八	三,九八
護膜製品	四,五八	九八	九八	九八	九八	九八	九八	九八	護膜製品	四,五八	九八	九八	九八
漆器	四,二七〇	三,〇五九	三,〇五九	三,〇五九	三,〇五九	三,〇五九	三,〇五九	三,〇五九	漆器	四,二七〇	三,〇五九	三,〇五九	三,〇五九
陶磁器	八,〇六六	五,〇六五	五,〇六五	五,〇六五	五,〇六五	五,〇六五	五,〇六五	五,〇六五	陶磁器	八,〇六六	五,〇六五	五,〇六五	五,〇六五
荒磁物	六,三三四	二,五三三	二,五三三	二,五三三	二,五三三	二,五三三	二,五三三	二,五三三	荒磁物	六,三三四	二,五三三	二,五三三	二,五三三
和傘及提灯	五,六七	六,九五	六,九五	六,九五	六,九五	六,九五	六,九五	六,九五	和傘及提灯	五,六七	六,九五	六,九五	六,九五
扇子及團扇	一,四一一	二,七	二,七	二,七	二,七	二,七	二,七	二,七	扇子及團扇	一,四一一	二,七	二,七	二,七
刷子及刷毛	三三三	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	刷子及刷毛	三三三	一四	一四	一四
家具	一〇,八七	二,六九五	二,六九五	二,六九五	二,六九五	二,六九五	二,六九五	二,六九五	家具	一〇,八七	二,六九五	二,六九五	二,六九五
綿布類	三,五九七	一〇,三三八	一〇,三三八	一〇,三三八	一〇,三三八	一〇,三三八	一〇,三三八	一〇,三三八	綿布類	三,五九七	一〇,三三八	一〇,三三八	一〇,三三八
炎服太物類	六,九九九	三,五三三	三,五三三	三,五三三	三,五三三	三,五三三	三,五三三	三,五三三	炎服太物類	六,九九九	三,五三三	三,五三三	三,五三三
洋反物類	三,一三三	六,八八	六,八八	六,八八	六,八八	六,八八	六,八八	六,八八	洋反物類	三,一三三	六,八八	六,八八	六,八八
綿糸	五,〇三三	一,四四四	一,四四四	一,四四四	一,四四四	一,四四四	一,四四四	一,四四四	綿糸	五,〇三三	一,四四四	一,四四四	一,四四四
莫大小及マナル	七,三三三	一,〇三三	一,〇三三	一,〇三三	一,〇三三	一,〇三三	一,〇三三	一,〇三三	莫大小及マナル	七,三三三	一,〇三三	一,〇三三	一,〇三三
被服	三,一三三	二,五三三	二,五三三	二,五三三	二,五三三	二,五三三	二,五三三	二,五三三	被服	三,一三三	二,五三三	二,五三三	二,五三三
洋傘	四七	九七	九七	九七	九七	九七	九七	九七	洋傘	四七	九七	九七	九七
帽子	三,九九三	二,五三三	二,五三三	二,五三三	二,五三三	二,五三三	二,五三三	二,五三三	帽子	三,九九三	二,五三三	二,五三三	二,五三三
製身用品	二,三三三	七九	七九	七九	七九	七九	七九	七九	製身用品	二,三三三	七九	七九	七九

第六節 荷役場所ご貨物

第一欸 荷役場所別集散量

大阪港は築港、安治川、尻無川及木津川を總稱したるものなるは既記の如くなるが、今大正元年中の海運集散貨物八百十四萬